SEGA SATURN

裏ワザ大全集

13歳の女王戴冠の日、
長き眠りを破り魔王がよみがえった……



PRINCESS CROWN

プリンセス クラウン

冒険ガイドブック

二見書房

SEGA SATURN
裏ワザ大全集
プリンセスクラウン
冒険ガイドブック
二見書房



代々女王が治めるヴァレンディア王国は、魔界に住むデーモンたちと幾度も争いを繰り広げてきました。人々は王国を守るために、デーモンたちは地の底に封じられた魔王を復活させるために……。

25年前の戦いでは、王国と魔界がひとつのゲートで結ばれてしまったために、多くの魔族が現われました。が、時の女王エルファーランの活躍によって、魔王軍は敗北し世界に平和が戻ってきました。ところが、その平和も永遠のものではありませんでした。デーモンたちは、再び王国を襲う機会を狙っていたのです……。時は流れ、賢王と呼ばれたエルファーランもこの世を去り、末の娘グラドリエルが新たな女王となる日です。双子の姉・エリエルとシドラエル、宮廷魔術師のジェストナイたちが見守る中、13歳のグラドリエルは黄金の冠を頭に戴きました。そして……

SEGA SATURN

裏ワザ大全集

13歳の女王戴冠の日、
長き眠りを破り魔王がよみがえった……



PRINCESS CROWN

プリンセス クラウン

冒険ガイドブック

二見書房



二見書房

Prologue
物語のはじまり

あるところに
代々女王が治めるヴァレンディアという王国がありました
王国は古き伝承の時代から
魔界に住まうデーモンたちと
幾度も激しい争いを続けてきました
人は王国を、女王を、護るために
デーモンは地の底に封じられた魔王を復活させるため
戦ってきたのです

幾度も幾度も
激しい争いが繰り広げられてきました
25年前の戦いでは
魔界とのゲートが開かれてしまい
たくさんのモンスターを率いた魔王軍が現れてしまいました
ですが
時の女王エルファーランの活躍によって
デーモンを撃退し
魔王軍は敗退
世界に平和が戻ったのです

ところが
その平和も永遠のものではありませんでした
デーモンたちは魔界に逃げ帰っただけで
再び王国を襲うチャンスを
狙っていたのです……

時は川の流れのように過ぎ去り
賢王と呼ばれたエルファーランも
すでにこの世にはいません
今日は
末の姫であるグラドリエルが
新たな女王となる日です
双子の姉姫、エリエルとシドラエル
宮廷魔術師のジェストナイをはじめとした
家臣たちや王国の人々が見守るなか
グラドリエルは黄金の冠を受け継ぐのでした

そして、物語ははじまるのです……

CONTENTS

PROLOGUE
BACK GROUND STORY
★本書の見方★

MAIN CHARACTERS
グラドリエル
エドワード
ポートガス
プロセルピナ
★ワンポイント★

STORY GUIDE
グラドリエル
第1章
第2章
第3章
エドワード
ポートガス
プロセルピナ
最後の物語

AREA GUIDE
AREA MAP
★ページの見方★
CASTLE
TOWN AREA
★【コラム】トロッコレース★
BATTLE AREA

MUST BE BATTLE ENEMIES
BATTLE TECHNIQUE
ENEMIES

ITEM GUIDE
HOW TO & LIST

奥付



Back Ground Story
語られることのない もうひとつの物語

平和と慈愛を司る“光の女神ガイア”は『ヴァレンディア』と『ヴォルガ』という二つの国をつくり、そこに人や妖精、動物たちを住まわせた。

“光の女神ガイア”は、『ヴァレンディア』を治める者として一人の娘を選び彼女を王女に……。『ヴォルガ』を治める者として一人の青年を選び彼を王とした……。そして　二人の王に光の力を封じた“黄金の冠”をあたえ、王国の繁栄を約束したのだった。

人々は“光の女神ガイア”の加護を受け王のもと幸せに暮らしていた。しかし、ある日その平和に影が差す。

王国を、世界を我がものにし、暗黒に染めようと企む“闇の神ラルヴァ”が現れたのだ。

だが、光の女神ガイア”の護りは強固であった。そのため“闇の神ラルヴァ”はうかつに手が出せず、一時はその野心をあきらめたかに見えた。しかし“闇の神ラルヴァ”は、自分の分身たる「ラルヴァの書」を送り込むことにより、『ヴァレンディア王国』に魔の手を伸ばしてきたのである。



“闇の神ラルヴァ”の分身である「ラルヴァの書」は狡猾であった。『ヴァレンディア』の王子ヴォーグロドを言葉巧みにたぶらかし、彼に闇の力を与えるとともに身も心も暗黒に染め、王子を瞬く間に魔王へと変えていったのである。

すでに人の心もなく“闇の神ラルヴァ”の下僕と化した王子は、その魔力でデーモンを生み出し闇の力を世界に蔓延らせていった。世界に広がっていく憎悪と魔力によって“闇の神ラルヴァ”の力は強まり、“光の女神ガイア”の力の源である愛と信仰は著しく薄れていった……。

世界が滅びることを憂えた“光の女神ガイア”は、残された力を振り絞り地の底に魔王を封じ込め、巨大な扉で地の底と王国のつながりを閉じたのである。

すべての力を使い果たした“光の女神ガイア”は、その身を四つの魔法石に変え、四匹の竜に託し守らせたのである。

いつか再び信仰がよみがえり、愛が世界に満ちあふれる日が訪れることを信じて……。

本書の使い方

この『プリンセスクラウン』の攻略本は、大きく分けて5つのコーナーから構成されています。キャラクターごとの設定を紹介し、操作法などを掲載する「MAIN CHARACTERS」。ストーリーの展開を追いつつ、すべてを攻略する「STORY GUIDE」。町でのイベントやダンジョンなどでの攻略を中心とした「AREA GUIDE」。敵として登場するキャラクターごとに、戦いにおいての対処法を攻略していく「MUST BE BATTLE ENEMIES」。そして、アイテムの特性などを紹介する「ITEM HOW TO&LIST」の5つのコーナーです。

それぞれ、知りたい部分や、攻略したい場所、相手などに合わせ、活用して下さい。

キャラクターを紹介

MAIN CHARACTERS

主人公となる四人の情報を、そのキャラクターの持つバックボーンやストーリー、そして、攻撃技の解説を織り込みながら紹介していく。



キャラクターの情報が知りたいときに！

物語に沿って全体を攻略

STORY GUIDE

キャラクターごとの物語を追いつつ、メインイベントの各ポイントでの攻略条件や、フローチャート、フリーイベントを紹介する。



基本的な攻略ガイドに！

各場所ごとに攻略

AREA GUIDE

1.TOWN AREA

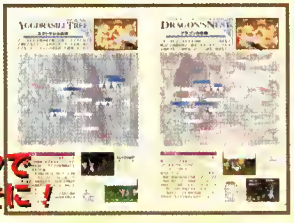
敵と戦いの合間に、クリアしなければならない条件やイベントを、舞台となる町ごとに紹介しています。



町でなにをすればいいか解らなくなったときに！

2.BATTLE AREA

そのエリアの最深部ではボスなどが待ち受け、戦闘によって道を切り開かなくてはならない、ダンジョンなどのフィールドを紹介する。



ダンジョンで迷ったときに！

倒すべき敵を攻略していく

MUST BE BATTLE ENEMIES

ゲーム中登場する敵を、キャラクターごとに紹介、攻略していく。敵への基本的な攻撃法はもちろん、使用するキャラ別の攻略ポイントも掲載、完全制覇をサポートする。



敵が倒せないときに！

アイテムの特性や利用法を解析

ITEM GUIDE

HOW TO & LIST

数多いアイテムを、用途ごとの種別に分類し、それぞれの活用法や特殊な利用法などを紹介、攻略する。



アイテムの使い方が解らないときに！

ヴァレンディアの幼き女王
“グラドリエル”
宿命という星回りに翻弄される魔人の息子
“エドワード”
復讐の海原を往く隻眼片足の海賊
“ポートガス”
偉大なる魔女を目指す
“プロセルピナ”
螺旋のようにからみあう運命の旅路が
今はじまろうとしている



Main Characters

【メインキャラクター】

PRINCESS CROWN
プリンセス クラウン



ヴァレナディンのお城で出会う、おしゃべりな妖精アーリア。妖精たちの濡れ衣を、女王さまに晴らしてもらい、そのまま冒険の旅へ

賢王エルファーランを母に幼くして黄金の冠を戴く13歳の女王



“光の女神ガイア”の加護を受け、繁栄を約束された王国『ヴァレンディア』。数々の歴史を彩ってきた王国の歴史のなかで、25年前魔王軍を打ち破った先代の女王エルファーランは、賢王と呼ばれ人民に崇められていた。その末娘にして、“光の女神”の加護の証「黄金の冠」を、弱冠13歳にして受け継いだ、グラドリエル＝ド＝ヴァレンディア…。現『ヴァレンディア』女王である幼き少女グラドリエルは、“エルファーラン”のような女王となるため、一人で城下へ降りることを決意する。不思議な運命の糸が絡み合う冒険へ旅立つ。いまは亡き母の面影を胸に秘めて…

連撃　スラントワイズシャムシール

SLANTWISE SHAMSEER

――傾いた湾曲刀――

攻撃基本である連撃、スラントワイズシャムシール。縦斬りの初太刀スプリットソードからはじまり、4つ目のモーションが入った時点で完成だ。あと、再度初太刀のスプリットソードのモーションにもどり、パワーがある限り、攻撃を繰り返していく



SPLIT SWORD
―切り崩す剣―

LEVEL HALBARD
―水平の矛槍―

RISING RANSEUR
―かかげれる十文字槍―

SLANTWISE SHAMSEER
―傾いた湾曲刀―

ダッシュ攻撃　アルバレストアロー

ARBALEST ARROW

――大型クロスボウの矢――



その剣を突き出し、自分自身を大きな矢のごとく見なし、敵を切り裂く。その瞬間、剣は青白い光に包まれる

ジャンプ攻撃　バルキリーセイバー

VALKYRIE SABER

――バルキリーのつるぎ――



空中を舞い、下方を大きく切り払うジャンプ攻撃。その姿は、戦神の再臨を思わせ、技にその神の名をつけた

起き上がり攻撃　カウンターリム

COUNTER RIM

――切り返す輪の縁――



起き上がり時に体を回転させて繰り出す一撃。その太刀筋が、まるで円を描くようにきらめく。それが語源となる

必殺技　ファイナルエクスカリバー

FINAL EXCALLIBUR

――最終の聖剣エクスカリバー――



すべてをなぎ払う最終奥義。その破壊力から、いにしえの聖剣の力を宿したといわれ、この名がついた







会心の一撃

すべての力を出し切るとき
人はその思いを告げる
そして
自らの願いが届いたとき
未だ知り得ぬ力が導き出される…

キャラクター攻撃特性 グラドリエル編



各技の基本攻撃値

全体的に攻撃力はバランスが取れている。どの攻撃も最初のダメージが4以上ある。ただし、必殺技の攻撃力は若干低めだ

連続攻撃	4→3→2→1→1……
ダッシュ攻撃	4
ジャンプ攻撃	4
起き上がり攻撃	6
必殺技	8

※上記は最低の攻撃力を1とした場合の数値

特徴 主人公だけあり、もっともスタンダードな攻撃特性を持つ

最初の一撃は、振り切ったあとの硬直時間が長く、すぐに必殺技につなげると、ガードされることが多い。逆に、最初の一撃でガードされた場合には、次に必殺技をつなげるとガードをすり抜けヒットしやすい。また、少々出るのが遅いものの、高い位置にアタリ判定があるため、対空攻撃としても活用できる。

一方、ジャンプ攻撃はアタリ判定が広く、グラドリエルの爪先の方までカバーする。そのため、キャラを飛び越え後ろから攻撃を加え、ガードを無効にすることも可能だ。

ナイフなどの投てきアイテムの攻撃は、高い位置から放たれるため遠くまでカバーできるものの、近くにいる背の低い敵には、その頭上を越えてしまい当たらないことがある。

PRINCESS CROWN
プリンセス クラウン



神託の洞窟で、黄金竜ハインデルに与えられた小さな赤竜イグニス。それ以後、どんな激しい戦いでも、付き従い側を離れない。その性格はおとなしく高い知性を持つが、しゃべることはなく、そのつぶらな瞳がすべてを語る…

己の体に流れる血を否定し
その手で父を消し去るため
青き瞳は決意に燃える



身の丈ほどもある両刃の大剣を、自在にあやつる若い戦士。凶暴なドラゴンをしとめてきた若き戦士は、“ドラゴンスレイヤー”と称される。だが、人々は彼を、人の名で呼ぶことはない。人々はその若い戦士をただこう呼ぶ、“魔人の息子”と…。

魔人…。別の名をゴルゴダという。25年前、デーモンとの戦いの中で悪魔に魂を売った騎士…。それが魔人の正体である。そして、魔人は若き戦士の実父であった。

若き戦士が人と言葉を交わすことはなく、その顔に感情というものが浮かぶこともない。だが、若き戦士は日々鍛錬を重ねる。自分が魔人と呼ばれる父とは違い、“魔人の息子”ではなくエドワード・グロースターであることを証明するために…

連撃　サイクロンテンペスト

CYCLONE TEMPEST

渦巻く大嵐　暴風雨

その大剣を回転させ、敵を粉砕していくサイクロンテンペスト。エドワードの連撃である。縦に剣を振り下ろすヴォーパルブレードからはじまり、ストームブリンガーを経て、サイクロンテンペストは完成する。その後は、サイクロンテンペストが連続する



VORPAL BRADE
死の刃

STORM BRINGER
嵐を呼ぶ者

CYCLONE TEMPEST
渦巻く大嵐　暴風雨

ダッシュ攻撃　スライドディスポーザー

SLIDE DISPOSER

すべる粉砕器

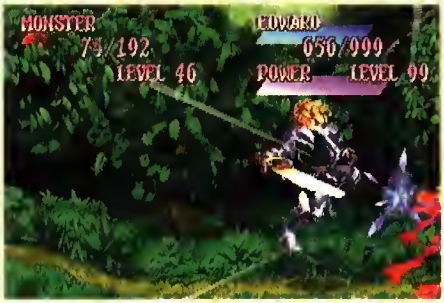


ダッシュによるスピードを活かし、体ごと大剣を縦に回して敵を巻き込み、切り刻みつつ粉砕していく大技

ジャンプ攻撃　スプリットショット

SPLIT SHOT

かち割る一撃



ジャンプにより空中に舞い上がったのち、体を横にひねり回転力をつけ、横切りに払いつつ敵を切る

起き上がり攻撃　アサシンスパイク

ASSASIN SPIKE

暗殺者のトゲ



上向きのまま起き上がり、剣を相手に突き上げる。相手は自分自身の体重が剣に加わり、致命傷となる

必殺技　ヴォルテクスエクスターミネイター

VORTEX EXTERMINATER

すべてを巻き込みせん滅する者



身の丈ほどある大剣を振りかざし、回転させながら前へ突き出す。その太刀筋に巻き込まれたモノは、粉々に砕かれていく







会心の一撃

鍛錬により作り出された強靭な肉体
その肉体が限界を超え
必殺の一撃を発揮するとき
人は未知なる力の高揚に
余裕の笑みがこぼれる

キャラクター攻撃特性 エドワード編



各技の基本攻撃値

強力な攻撃力を誇る。特に必殺技は、一撃で攻撃力の最高値をたたき込む。だが、ダッシュの攻撃力は、他のキャラより劣る

連続攻撃	4→3→2→1→1……
ダッシュ攻撃	2→2→2
ジャンプ攻撃	6
起き上がり攻撃	7
必殺技	10

※上記は最低の攻撃力を1とした場合の数値

特徴 巨大な剣ゆえ攻撃スピードは落ちるものの、高い攻撃力を誇る

連続攻撃の4ヒット目以降は、切れめなく剣を回転する攻撃になる。この攻撃時は、周囲にアタリ判定が発生するため、敵の迎撃に適している。ただ、攻撃力は低く、しかも2～3ヒット目で、敵に回避される可能性が高い。また1撃目は、斜め上へのアタリ判定が広く、空中にいる敵の撃破に適している。

ダッシュ攻撃は、姿勢を低くして突進するため、敵の飛び道具をかわし攻撃ができる。また、ジャンプ攻撃は他のキャラと違い攻撃中に滞空せず、唯一下降しながら敵に攻撃を加える。

必殺技はリーチが短く、アタリ判定は水平にしか発生せず、敵に当てにくい。そこで、第一撃を空振りさせるか敵にガードさせ、次に必殺技を繰り出し、ヒットさせる連携技が効率的だ。



オウムの相棒ドレイク。その名は、かつて海原を縦横無尽に駆けめぐり、伝説として語り継がれる海賊のもの。勇気と賢さでポートガスを助けるドレイクは、海賊となったポートガスの冒険につきあう、気のいい友人なのである

奪われた未来(とき)を探し求めて
復讐の蒼き大海を往く
隻眼片足の海賊



男は隻眼であった。しかも片足もなく、その姿は痛々しい。傷は海賊になりたてのとき負ったものだという。だが、男の剣技の前に、ハンデという言葉は不用になる。男が剣を手にするとき、前に立ちふさがるモノは容赦なく切り刻まれていく。

空と海の狭間を、飛び交う鳥のように自由に生き、けっして弱者には手を出さない海賊…。リィランドを拠点にして、悪人の船だけをターゲットにするその男は、街の人々に好感を持ってこう呼ばれる。海の貴族ポートガス・クリスフォードと…。

快活でキザ、なにも悩みがないように振る舞う海の貴族…。だが唯一の眼は、いつも遠くを見つめていた。暗く悲しい瞳で、忌まわしき過去という遠き世界を…。

連撃　コンドルピアッシング
CONDOR PIERCING
―― はげ鷲の突き刺し ――

一撃目は鷹の力ホークディセント、二撃目は鷲の一撃イーグルレイド、三撃目の隼の能力ファルコンシェイブ。そして、はげ鷲の連続攻撃コンドルピアッシングが完成する。連撃のモーションはホークディセントへ戻り、再び4段階の攻撃がはじまる



HAWK DESCENT
鷹の急降下

EAGLE RAID
鷲の襲撃

FALCON SHAVE
隼の削り取り

CONDOR PIERCING
はげ鷲の突き刺し

ダッシュ攻撃　レイヤーストライド
RAYER STRIDE
―― 光線をまたいで越える ――



スライディングで地をはうように接近し、敵に接触した後、敵を切り刻む。その動きはまるで光線のようだ

ジャンプ攻撃　ターブレンスグロウ
TURBULENCE GROW
―― 乱気流の輝き　内暴な自熱 ――



空中から繰り出す一撃は、空間に大きな閃光を描き出す。それはまるで、風が輝いたような錯覚をもたらす

起き上がり攻撃　イーグルレイド
EAGLE RAID
―― 鷲の襲撃 ――



連撃の第2撃目と同じ技である。下から鋭いくちばしで突き上げるその姿は、まさにイーグルの化身だ

必殺技　ライトニングクロスオーバー
LIGHTNING X'OVER
―― 電光の十文字斬り ――



空中に描かれるXの文字。閃光が輝くとき、敵は消え去る。その一撃は、すべてを照らす電光のようだ







会心の一撃

真の力を発揮するとき
その視野のすべては
海賊剣士の前に静止する
あとは敵に対する
挑発の言葉あるのみ

キャラクター攻撃特性 ポートガス編

各技の基本攻撃値

全体的に攻撃力は高い。特にダッシュ攻撃の威力は他を圧倒する。ただ必殺技は、２回ヒットした後に最大威力を発揮する

連続攻撃	4→3→2→1→1……
ダッシュ攻撃	4
ジャンプ攻撃	6
起き上がり攻撃	7
必殺技	2→2→10

※上記は最低の攻撃力を1とした場合の数値



特徴 体が大きく敵の攻撃を受けやすいが、長いリーチを持つ

連続攻撃の１撃目は、かなり低い位置への攻撃だ。敵の足もとへの攻撃であるため、ゴブリンなどの浮遊している敵には当てづらい。しかし、２撃目が飛び上がりながら放たれる攻撃であり、対空攻撃として使える。つまり、たえず２ヒット以上の連撃を、繰り出しておくのが効率的なのである。

ダッシュ攻撃はレンジが長く、敵の攻撃をくぐり抜けるほど低空で、しかもスピードが速い。また、連撃へもスキなくつながりやすいので、遠い間合いからの強襲に活用できる。

一方、必殺技は他のキャラと異なり、３回のヒットが発生する。一撃目はキャラが前転するように放たれ、打点がかなり手前にある。しかも、そこから連続で切る３ヒット目に、最大の破壊力があるので、間合いの取り方が重要となる。

PRINCESS CROWN
プリンセス クラウン



プロセルピナの従者、ガブリエル。大魔女のオババに捕まって、従者に仕立てられたかわいそ～なゴブリンだ。そのせいか忠誠心が薄く、いつもプロセルピナとやり合う日々を過ごしている

目指すは大魔法使い！
倒すはにっくき紫娘
グラドリエル!!



勝ち気で元気いっぱいのわがまま娘が、ゴブリンマーケットの北の森のなかにある小屋に住んでいます。わがまま娘は、大魔女のオババと一緒に暮らす小さな魔女。豊かな森とオババの深い愛情に抱かれて、天真爛漫に育ったとっても明るい女の子。でも、得意な変身の魔法で、誰でも何でもカエルやアヒルに変えてしまうのが、ちょっと困りもの。誰がみても、どうみても、自分本位の性格の持ち主。でも、ときどきちょっとだけ、優しさを見せてくれます。

そんなわがまま娘が旅へでます。おともに従者のゴブリンをつれて、オババのような大魔女となるための修行の旅へ。そう、大魔女プロセルピナとなる旅へ。

連撃　ルナティックワンド

LUNATIC WAND

―― 狂気の杖 ――



プロセルピナの基本技は、ルナティックワンドしかない。杖を手にし、ぐるぐると振り回すその攻撃は、まさしく狂気。連撃もこのモーションしか存在しない。別名“だだっ子パンチ（笑）”



ダッシュ攻撃　トンアップブルーム

TON-UP BROOM

―― 暴走ほうき　時速100マイル突破 ――



魔女の象徴、魔法のほうき。そのほうきにまたがり、敵の懐に突っ込む。そのスピードからこの名が付いた

ジャンプ攻撃　コメットシャワー

COMET SHOWER

―― 彗星のシャワー ――



魔法のほうきで空中を自在に飛び回り、まるでシャワーのように魔法を降らす

起き上がり攻撃　パープレックスワンド

PERPLEX WAND

―― 混乱させる杖　ややこしい杖 ――



回転しつつジャンプ！　はでな起き上がり方をし、手にした杖で敵を横殴りにする

必殺技　ローズウインドウ

ROSE WINDOW

―― 薔薇の窓 ――



プロセルピナが、呪文と共に回転し、薔薇の窓と呼ばれる魔法陣を地面に描き、空へ舞い上がる光を召喚する







会心の一撃

打ちのめされた悔しさが
爆発する
無邪気さの反撃
そのときさえぎるモノは
金属の塊と化す

キャラクター攻撃特性　プロセルピナ編

各技の基本攻撃値

全体的に攻撃力は低い。ただし、連撃の攻撃力が、1に落ちることはない。また、必殺技がヒットすれば最大の力を発揮する

連続攻撃	2→ 2→2→2……
ダッシュ攻撃	4
ジャンプ攻撃	1→ 1→1→1……
起き上がり攻撃	6
必殺技	10+魔法による各属性

※上記は最低の攻撃力を1とした場合の数値



特徴　特殊能力が多い分、リーチや攻撃力が低い

方向ボタンの上を押すと、空中飛行が可能となる。飛行中は空中を自在に動き回れるが、この間パワーを消費し、パワーが尽きると、地上へ強制的に降下してしまう。また、飛行中に空中から攻撃することができる。これらは他のキャラでいうジャンプ攻撃にあたり、パワーがなくなるまで連続で攻撃することが可能だ。

必殺技も特殊で、攻撃を開始してから描かれる、魔法陣が完成した瞬間でないと、敵にダメージをあたえられない。しかも、中央で敵を捉えなければ、途中で回避されてしまう。しかし、クリーンヒットすれば、火、氷、雷、石化のいずれかの魔法がかかる。さらに、1/16の確率で発生する会心の一撃だと、敵を金に変えることができる。

ゲームストーリーの流れ

ゲームのストーリーは、幼い女の子がおばあさんに、物語の本を読んでもらう形式で進んでいく。

ゲームスタート時には、幼き女王であるグラドリエルを物語る『王冠の姫』しか読んでもらうことができない。

だがその後、物語をクリアし、本を読み終えるごとに新たな物語をつづった本が現れるのだ。

そして、再びおばあさんに読んでもらうことにより、新たなキャラクターによる物語が展開していくのである。



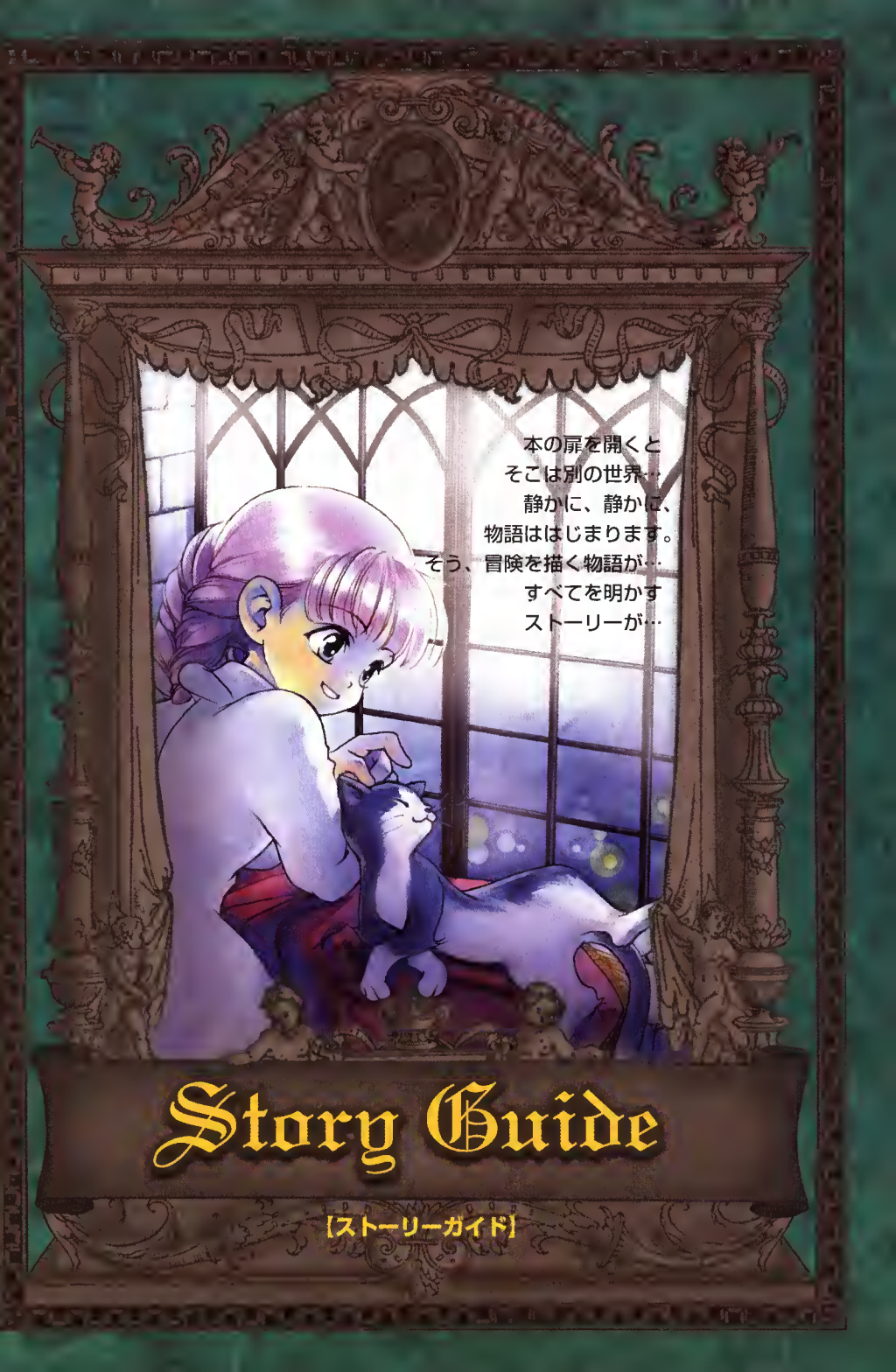
本は全部で5冊。左から「魔法の薬」、「王冠の姫」、「魔の剣」、「宝の島」。そして一番右が「最後の物語」である





本の扉を開けると、物語ははじまる。物語の本はクリアすると増えていき、左の図の順で読めるようになる





Story Guide

【ストーリーガイド】

王冠の姫

グラドリエル編



第一章



第1話　女王グラドリエル

25年前、王国を魔族の群が襲った。強大な魔力を持つ存在をなぜ、非力な人間が退け得たのか——人々は口をそろえて言う。時の女王のおかげだと。聡明にして美しく、類い稀な剣技を備えていた賢王エルファーラン。その輝かしき名は女王亡き後も、王国の民の心に深く刻まれている……。

そしてこの日、王国はあらたなる女王をその玉座に迎えた。グラドリエル＝ド＝ヴァレンディア。賢王の末姫であった。

玉座を継いだグラドリエルのもとへ日々、多くの民が訪れる。中には看過し難い事件の報告もあった。ナッツビルの神隠し、ドランゴラの竜の襲撃、リィランドの海賊騒ぎ……。しかし、まだ13歳の彼女はジェストナイら臣下の助言に従うよりない。そんなはがゆい日々は、彼女の胸に熱い想いを生んだ。賢王と謳われた母ならば、民の窮状に自ら立ち向かっ

たはず。自分も行きたい——母のように。今のままでは民を導くべき正しき光も見えない……と。

「世界をこの目で見、お母様のようになりたい……」

その想いは日増しにつのるのだった。

だが王たる者、己の身を守らねばならない。城の周囲にさえ魔物はいる。グラドリエルは常にもまして剣技の鍛錬に励んだ。けいこでクエインを打ち倒し、ついに彼女は決意する。

夜。旅立ちを胸に秘め、二人の姉を訪ねた。病がちながら凛とした下の姉シドラエル。その双子の姉エリエルは妹の病を治すため、日夜必死に学んでいる。どちらも自慢の姉姫だ。

「貴女はこどもの頃から詩歌より騎馬試合に夢中だったわね」

エリエルの心あたたまる微笑みを前にゆらぐ心を叱咤し、階下へ急ぐ。二階に飾られた母の肖像画を前に祈る。

『自分の目で見ぬことには正しい判断はできない……』

尊敬する母の言葉こそが彼女のよりどころだ。

しかし、城の警備に手抜かりはなかった。城門を守る騎士に休むよう言われ、悄然と城内へ戻る。だが、運命は彼女に味方した。突然、妖精アーリアが現れたのだ。こどもが妖精にさらわれたというナッツビルの騒ぎは、濡れ衣だというのである。これを聴いたグラドリエルは母の言葉の正しさを確信し、アーリアの助けを得て城を抜け出すのだった。

第2話　ナッツビルの魔女

ヴァレナディンの城下町で老人に道を教わり、西へ。アーリアの要請に応じて、グラドリエルはナッツビルに向かった。娘がさらわれたと嘆き店を閉めているパン屋の主人は、

「お嬢ちゃんも妖精には気をつけるんだよ。南の森には近づかない方がいい……」

と忠告する。一方、南の森の妖精たちは無実を証明するため、こどもたちの行きそうな場所を探しまわっていた。

「あと探していないのは、北にある森だけよ」

それを聞き、北へ向かったグラドリエルは、森の奥で古びた小屋を見つけた。こんな場所に……と訝しんで扉を開けると、中では大きな壺がぐつぐつ煮え立ち、何やら怪しい雰囲気だ。その奥では、小さなカエルとアヒルが泣いていた。

「妖精みたいに空を飛ばせてあげるって言って、魔女がぼくたちをだましたんだ」

それはこどもたちの変わり果てた姿だったのである。詳しく訊くうちに、おかしな歌が聞こえてきた。

「まほうはすってきーなちーからぁ——、みんなカエルにかえられるぅー」

真っ赤な服と真っ赤なぼうし。魔法の杖を片手に魔女が帰ってきたのだ。問いただしてみると、プロセルピナはこれも立派な大魔女になるための修行と胸を張る。なんとか諭そう

第1章　第1話

ヴァレナディン城
二人の姉の部屋を訪れ会話をする
↓
城門を出ようとするところを
門番の兵士に呼び止められる
↓
城内に入り1階の通路を戻ると
アーリアが現れる

第1章　第2話

ヴァレナディン城下町
✓吟遊詩人と話すと
FREEイベント①発生
↓

ナッツビル
街の左側にいるパン屋の主人と話す
南の森で右側の妖精と話す
↓

古びた小屋
北の森、古びた小屋で
プロセルピナを倒す
↓

ナッツビル
南の森で右端の妖精と再び話す
バトルドロップ入手
↓
村の中央の民家を訪れ、村長と話す

FREEイベント①「さすらいの吟遊詩人」
楽譜の切れはし Ⅰ·Ⅱ·Ⅲを集める
↓ FREEイベント②で楽譜の切れはしⅠ、FREEイベント⑪で楽譜の切れはしⅡ、FREEイベント⑭で楽譜の切れはしⅢをそれぞれ入手
↓

ヴァレナディン城下町
楽譜の切れはしを吟遊詩人に渡す



とするグラドリエルの努力もむなしく、プロセルピナはかわいい顔をしかめて杖を突きつけた。
「あたしお説教する人だいっっきらい。これ以上何か言うんだったら、あんたも動物に変えちゃうから！」
まだ幼いとはいえ、まったく反省の色のない者を許すことはできない。呪文を唱えはじめた魔女を前に、グラドリエルは毅然と剣を抜き放った。
「おっぽえてなさいよぉぉぉぉ――っ！」
魔女は悔しそうに叫び、ほうきに乗って逃げて行った。
魔法のとけたこどもたちを連れ帰ると、村のおとなたちは大喜びで口々に礼を言った。南の森の妖精たちも、誤解がとけた嬉しさに、はしゃいで飛びまわる。心からの感謝の声に送られて、グラドリエルたちは西へ向かう。
「命が惜しいならドランゴラに近づくのだけはやめておきなされ。凶暴な竜が暴れておるのだ」
そう村長は忠告してくれたが、見過ごすことなどできなかったのである。

第3話　ドランゴラの竜

ドランゴラの酒場には、なぜかプロセルピナがいた。
「ドラゴンにやられないよう祈ってるわ。だって、あんたを倒すのはあたしなんだから」
と、まるでこりた様子がない。襲撃に備える傭兵たちであふれかえる町の中、若者から竜の棲む山の話を聞くと、グラドリエルは単身、竜退治の途についた。
風のうなる岩山に、突如巨大なドラゴンが現れた。鋭い牙と爪を目にし、彼女は愕然とする。――足がふるえて動けない！　なす術もないまま死を覚悟したとき、一人の騎士が現れ、身の丈ほどもある巨大な剣を一閃させた。
「この山はドラゴンのすみかだ。死にたいのか」
静かな問いにも声がふるえ、ろくに答えることもできない
「おまえがいると足手まといだ。――行けっ！」
叱咤されるままに、山を降りるよりほかはなかった。
「恐ろしくて何もできなかった……。わたしはお母様のようにはなれない……」
悄然と戻った町は燃えていた。竜の群れに襲撃されたのだ。母親とはぐれて泣いていた少女を見つけ、避難しようとするグラドリエル。だがその前に、空を裂く音とともに突然、手負いのドラゴンが現れた。少女をかばい、ふるえる手で剣を握った。すくむ足を叱咤した。負ければ、この子も殺される……その思いだけでドラゴンに立ち向かう。
「――この一撃でいい、とどいて！」
最後の力を託した攻撃に、ついに巨大な竜は凄まじい咆哮（ほうこう）を上げてたおれた。

第1章　第3話

ドランゴラ
村にいる若者と話す
↓
ドラゴン山でエドワードと出会う
↓
村で手負いのドラゴンを倒す
∨ 村の井戸のそばにいるおばさんと話すとFREEイベント②発生

FREEイベント②「ドラゴンの古巣」

ドランゴラ
ドラゴンの古巣の最深部へ行き
ドラゴンを倒す
↓ 楽譜の切れはしⅠを入手
FREEイベント⑪で楽譜の切れはしⅡ、FREEイベント⑭で楽譜の切れはしⅢをそれぞれ入手

ヴァレナディン城下町
楽譜の切れはしを
吟遊詩人に渡す

「……ずいぶんと無茶をするな。だが、見直したぞ。その剣でドラゴンを倒すとは」

母親を守って先ほどの騎士が現れた。あらためて名乗りあい、彼こそが町でも噂されていたドラゴンスレイヤー、グロースター家のエドワードであることを知る。

「ふん……魔人の息子はどこへ行っても有名だな……」

自嘲の翳りを見せながら言葉少なに避難を促し、彼は燃え続ける町の中へと消えて行った。

エドワードやカード騎士団の活躍によって危機は去り、人人は町に戻った。魔族に与した魔人ゴルゴダの息子――そう忌まわしい名で噂されていたエドワードは、彼が去った後に英雄と呼ばれるようになっていた。グラドリエルは自分のことのように嬉しかった。

一方、ヴァレナディン城は混乱のさなかにあった。王城に王がいないという異常事態に臣下の動揺は激しい。

「……もしも……わたしが女王だったら、皆にこんな思いはさせないのに……」

王姉エリエルは思わずつぶやいていた。国を分かつといわれる双子には王位継承権がない。そのために遊びたい盛りであろう妹を玉座に縛り付け、結果、宮臣までをも困らせている。自分がもっと強ければ、少なくとも妹を支えることはできたろうに……。そう考えずにはいられないのだ。

しかし、詮ないことだった。せめて双子の妹シドラエルの病を癒す方法をさがそうと、いつものように書棚に向かう。そう、それはいつもと変わらぬ行為のはずだった。だが、運命の歯車は軋みを立てて回りはじめていた。――厳重に閉ざされていたはずの隠し部屋に、なぜ気づいたのか。力を欲する想いがそうさせたのか……。彼女はそこで封印された書物に出会うのである……。

第4話　ユニコーンの森

グラドリエルは墓場の町を通り抜け、東はローグローブの村にたどりついた。そこでは村の人々が、このところ魔物が増えて山羊も落ちつかず、ミルクを取れないと困っていた。買いに来たのか、プロセルピナも悔しそうに去っていく。近くの森の様子もおかしいらしく、人々はそこに棲む聖獣ユニコーンの身を案じていた。若者に道を訊き森へ分け入ると、折しもユニコーンが襲われているところだった。すぐさま割って入り、ゴブリンを倒したグラドリエルに、ユニコーンは礼を言って必死なまなざしを向けた。

「――お願いです。ぼうやを助けて下さい」

魔女にこどもをさらわれたという。またしてもプロセルピナか――一瞬その考えがよぎったが、どうもおかしい。

第1章　第1話

ローグローブ

村で若者と話す

↓ 男の子と話すと FREEイベント③ 発生

森でゴブリンを倒し
ユニコーンを助ける

タランチュラを倒し
ユニコーンの子供を助ける

↓ 女の子と話すと FREEイベント④ 発生

FREEイベント③「ゴブリンのいたずら」

ローグローブ

男の子から話を聞く

牧場へ向かい、ゴブリンを倒す

エクストラバッグ入手

FREEイベント④「セメタリスのゴースト」

ローグローブ

女の子から話を聞く

セメタリス

エサソン司祭と話す

ポルターガイストを倒す

エサソン司祭からアイテムを貰える

第1章　第5話

アンバーステップ
酒場を訪れ、女の子に会う

↓

砂漠地帯へ行き、リヨンに会う

リヨンと話すと
FREEイベント⑤発生

↓

∨砂漠地帯でバジリスクを倒す

村長と話すと
FREEイベント⑥発生

FREEイベント⑤「メッキの呪文」

アンバーステップ
砂漠地帯でリヨンに話を聞く

↓

ゴブリンマーケット
ショップに行って
「メッキの呪文を出せ」と迫る

↓

店の外に出てゴブリンを倒す

メッキの呪文入手 &
メッキの呪文が
買える

FREEイベント⑥「ユグドラシルの樹」

アンバーステップ
バジリスクを倒した後
村長の話を聞く

↓

ユグドラシルの樹
フェアリーウッドを抜け
ユグドラシルの樹へ向かう

↓

入口でフェアリーと話す

↓

最深部でスレイヴウッドを倒す

エクストラバッグ &
ユグドラシルの実を
もらえるようになる

グラドリエルは急ぎ森の奥へ分け入った。犯人は長い赤髪を編んだ妖艶な魔女だった。後ずさる小さなユニコーンを残虐な笑みで弄び追い詰めながら、恐るべき目的を語る。魔界との扉を開くために聖獣の角が必要なのだと。

「――その子を離しなさいっ！」

剣を構えたグラドリエルは、召喚されたタランチュラを打ち破る。だが、小手調べと言わんばかりの魔女は魔物が倒されても顔色ひとつ変えず、余裕の笑みを残して去っていった。恐ろしい野望を諦めていないことは明らかだった……。

それでも、聖獣親子の喜びようは彼女の心を暖めた。

「御恩は絶対に忘れません。あなたに困ったことが起きたなら、必ずかけつけてお助けしましょう」

かくして聖獣の森に平和が戻ったのだった。

第5話　蛇の王バジリスク

ローグローブでは隣村の異変が噂になっていた。そういえばドランゴラでも、砂漠の村にすむ若き賢者のもとへ送った使者が帰って来ないと心配していた……。

乾き、荒れ果てた岩山を抜け、ようやくついた砂漠の村アンバーステップ。だが、荒涼とした地に拓かれた村は、さらに寒々しい風景をもってグラドリエルを迎えた。人の気配はまるでなく、石像ばかりがそこかしこに立っているのだ。途方に暮れた彼女は宿屋の扉を開いた。そこには石像に囲まれ、小さな少女がたったひとりで泣いていたのだった。

少女は泣きながら語った。皆を石に変えた魔物を退治するため、魔法使いのリヨンが砂漠へ向かったと。そのまま戻らない彼を、けなげにも、ずっと待っているという。

「怖くて眠れないの。お姉ちゃん、いっしょに寝てくれる？」

少女とともに一晩休み、ひとしきり元気づけて、グラドリエルは翌朝、砂漠地帯へ向かった。

砂漠の入口に倒れた石像、それこそリヨンだった。半石化した体で、彼は必死に言葉を伝える。このことを何としても女王に伝えてほしいと。戦うと告げる彼女に、〈メッキの呪文〉ならば石化を防げるとも教えてくれた。盗まれたそれは、ゴブリンマーケットにあるはずだという。だが、ひとり待ち続ける少女を思えば、これ以上時をかけることなどできない。苦戦を覚悟し砂漠を進むとバジリスクが襲って来た。

「負けられない！　女王の名にかけて！」

長い攻防の末、渾身（こんしん）の一撃がバジリスクにとどめを刺した。

「おかげで石化の呪いもとけました」

リヨンは穏やかに微笑み、館へ招いてくれた。それは少女が話してくれたとおりのやさしい笑みだった。

「わたしは、近ごろ王国の各地で見られるモンスターの活発な動きの原因を探る旅に出ようと思います」

呪いから解放された村人の喜びを目に焼き付け、二人はそれぞれの目的に向かって旅立った。

第6話　ティタニア湖の人魚

王国最大の都市カドゥ・パドゥ。戦士、魔術師、商人の三つの居住区に分かれた街は、近くの湖にすむ人魚の噂で騒然となっていた。魔物を操り人を襲うというのだ。何やらおかしな歌を唄う、ほうきを手にした魔女の噂を聞き、ため息をついたグラドリエルは、しかし、酒場の噂を耳にするに至り顔色を変えた。ドランゴラで助けてくれたあの剣士エドワードが、湖に行ったまま戻らないというのである。

――今度は自分が彼を助ける番だ。そうかたく決意し、商人エリアの少年に聞いた湖への道を走りだした。途中、道をふさいで挑戦して来たプロセルピナをも蹴散らして。

瑞々しい木々に囲まれた美しい湖の姿も、グラドリエルの目には入らない。必死に駆け続け、湖のほとりで人魚が魔法をかけている場面に出くわした。

「エドワード様に何をしているの!?」

剣を抜くグラドリエルの前に、操られているのかエドワードが立ち塞がる。

「少しは腕が上がったか……。だが、軽々しく剣を抜くようでは盗賊どもと同じだ！」

噂をうのみにするのかと峻厳たる眼差しを向けたエドワードに、彼女は剣をひいた。真実を己の目で確かめるためにこそ旅へ出た。何より、悪しき魔物に操られた瞳とはとても思えなかったのだ。非を悟り、グラドリエルは人魚に謝罪した。人魚の流した涙はお伽噺（とぎばなし）そのままに美しい宝石に変わる。それを狙う何者かが濡れ衣を着せ、人魚を苦しめているらしい。

その夜、湖畔のたき火を囲み、エドワードは己のことを語り始めた。魔族に与（くみ）して前女王に刃を向けた父、魔人ゴルゴダの真実の姿を知るために旅をしてること、いずれは騎士団へ入り女王を守るつもりであること……。彼女が女王であることを彼はまだ知らない。だが、言わずにはいられなかった。

「お父上のことでご自分を苦しめないで……」

翌朝、人魚の護衛はエドワードに任せて街へ向かった。真犯人を捜すべく噂をたどり続け、ついに魔術師・商人エリアの間で親子連れから賞金話の出所を聞き出すことに成功する。

さっそく足を向けた商人・戦士エリア間の裏通り。問題のチビとノッポの二人組を発見したグラドリエルは耳を澄ます。

「……人魚がつかまるのも時間の問題だ」

「これであの魔女からたっぷり礼をもらえる……」

間違いないと見て姿を現した途端、二手に分かれた男たちに逃げられてしまった。一瞬迷い、足の遅そうな太った方を追いかけるが、飛び込んだ商人エリアにはすでに姿がない。

第1章　第6話

カドゥ・パドゥ
商人エリアで少年と話す
↓
ティタニア湖
エドワードと人魚に会う
↓
カドゥ・パドゥ
商人エリアと魔術師エリアの間で商人の親子と出会う
↓
戦士エリアと商人エリアの間で二人組の盗賊と出会う
↓
のっぽを追いかけ戦士エリアへ
↓
剣の像の近くの小さな女の子と話す
↓
酒場でカウンターの男と話す
↓
街の右端にいる女の子と話す
↓
南西の洞窟でタランチュラを倒す

ふとっちょを追いかけ商人エリアへ
↓
入口付近の商人と話す
↓
ショップの前の商人の長の娘と話す
↓
空き家で男と話す
↓
南西の洞窟でタランチュラを倒す

↓
人魚に報告
オンディーヌと話すと
FREEイベント②発生

FREEイベント⑦「南東の洞窟」
南東の洞窟
洞窟の最深部で
タランチュラを倒す
カインドドロップ
入手

しかたなく人々に聞いてまわると、入口付近の商人がなにやら驚きの声を上げていた。太った男が煙にまかれてハンサムな男に変身したというのだ。さらに、空き家へ入って行くのを見たと、頬を染め商人の長の娘が話してくれた。

空き家に入り詰め寄ると、男はまたしても逃げ出そうとする。だが、アーリアが先回りして言った。

「話さないと妖精の呪いをかけちゃうから！」

男は震え上がり、あっさり経緯を説明した。

不吉な予感を胸に南西の洞窟へ急ぐと、そこにいたのはユニコーンの角を狙ったあの赤い髪の魔女だった。絶望のふちで流した人魚の涙は強大な力を持つのだと楽しげに笑うのを見て、グラドリエルの怒りは燃えた。

剣を構えるグラドリエル。だが、魔女はまたも相手をせずバーバリアンを呼び出した。怒りのままに打ち倒し、再び立ち向かおうとする彼女をも嘲笑う。

「もう時間がないみたい。ごきげんよう、グラドリエル女王」

なぜ、素性を知っているのか……。大きすぎる波紋を残して、魔女はまたしても姿を消すのだった。

誤解がとかれ、ようやく笑顔となった人魚に別れを告げ、二人はそれぞれの旅に出る。エドワードは黒い竜を捜して。グラドリエルは一路、北東を目指して。

第7話　海賊の島

観光の名所としても名高い港町リィランドでは、このところの海賊騒ぎに訪れる人もすっかり減ったと人々が嘆いていた。かつて海の帝王と謳われた海賊が、手のひらを返したように普通の商船を襲っているという。その名はポートガス。卑怯なことはけっしてしないといわれた海の義賊だった。

ひとまず港へ行くと突然ファンファーレが鳴り、観光船フリードルフィン号の一万人目の客だと船に乗せられた。美しい海と思いがけない船旅。乗客のひとりらしい隻眼の男が、からかいまじりに船旅の間の護衛を申し出てくれるのも楽しい。だが、心和むときは続かなかった。大きなフックを持った海賊ポートガスが手下を率いて襲ってきたのだ。乗客の身の安全を考えれば剣を抜くこともできず、無抵抗のまま、海賊のアジトへ連れて行かれた。

ついたのは何処とも知れぬ島だった。だが、着いた途端に隻眼の男は態度を豹変させた。色めき立つ海賊たちを前に不敵な笑みを浮かべたのである。

「本物を見てから名を騙るべきだったな、偽物さんよ」

真の海の帝王は一瞬の早業で偽物を倒した。海賊たちは恐れをなし、アジトの洞窟へと逃げていく。その無様な姿に苦笑さえ浮かべて、ポートガスはケリをつけるべく後を追った。グラドリエルも洞窟に入り、見張りを倒しつつ捕らえられて

第1章　第7話

リィランド
港から船に乗る
↓
海賊の島
海賊のアジトの洞窟から
乗客と水夫を救出
↓
海賊のアジトの出口に戻る
↓
ビッグフックを倒す

いる水夫と乗客たちを助け出した。しかし、戻って来ない彼を案じて振り返った隙をつかれ、再び囚われてしまった。

気づくと再び船の上にいた。マストに縛りつけられて動けないグラドリエルに、ポートガスのアジトを教えろと偽者が脅しつける。そこに声がした。

「海の上なんで白馬に乗ってとはいかないが……」

ポートガスだ。たちまち乱闘になり、海の帝王は水を得た魚のように暴れまわる。グラドリエルも剣を取り、力をあわせて海賊たちを一掃した。

第8話　いなくなった姫君

分捕った海賊船で意気揚々と戻ったリィランド。これで気になっていた陳情の件は解決したと帰還を決意したグラドリエルは、王城に異変が起きたことを知った。

急ぎ戻ったヴァレナディン城では、姉姫エリエルの行方不明という悲しい知らせが待っていた。捜索に出ていたクエインが北東の黒の森に出現した怪しい塔について報告する。近づいた彼らを突如赤い髪の魔女が襲い、女王に一人で来るよう要求したというのだ。人魚の涙を狙っていた魔女に違いない――グラドリエルは反対を押し切り、単身救出に向かった。

悪夢のように暗い森と不気味な塔。覚悟をあらたにする彼女の前に、砂漠の村の若き賢者リヨンが現れた。魔物の活性化の原因を探るうちに、この塔に至ったという。そして、さらに恐るべきことを告げた。このままでは魔界との扉が開くというのだ。しかも、王家の人間は魔王の封印を解くカギとなるらしい。姉を救い、魔女の野望を阻まなければ！

最上階――。駆け寄るグラドリエルの前で姉姫は忽然（こつぜん）と姿を消し、かわってあの赤い髪の魔女が現れた。姉の安否を気遣う彼女に魔女は愉悦に満ちた笑みを向ける。

「……あなたは昔から詩歌より騎馬試合に夢中でしたからね。女の子なのですから無理をして怪我などしないように……と言ったはずですよ」

グラドリエルは愕然とする。それは姉の言葉ではないか。

「力を手に入れて私は変わったの。魔王の復活で世界が滅びることが私の願い……」

信じたくないグラドリエルに、エリエルは容赦なく襲いかかってくる。必死に応戦しながらも想いは千々に乱れ、剣は迷いに鈍る。このままでは……高まりゆく魔界の瘴気に顔色をなくした時、リヨンが駆けつけ、エリエルにとりついていた邪悪な書物を弾き飛ばした。

しかし、塔は激しく揺れはじめる。天は紅く染まり大気はふるえ、紫電は空を裂く……ゲートが開くのだ。正気に戻った姉を連れ、塔を駆け下りた。しんがりを務めたリヨンの前にあの書物が現れたことを、王家の姫たちは知らない……。

第1章　第8話

ヴァレナディン城
ヴァレナディン城へ戻り
姉エリエルの捜索を開始する

↓

黒の森の塔
塔の入口でリヨン出会う

↓

悪エリエルと戦い、エリエルを助け出す



ヴァレナディン城
4階でスカルグと戦う
↓
シドラエルの部屋のバルコニーへ向かう
↓
グラドリエルをかばい
ゴルゴダが死亡する
中庭の騎士と話すとFREEイベント⑧発生

FREEイベント⑧「騎士の試練」

ヴァレナディン城
ヴァレナディン城が魔王軍に
襲われた後中庭の騎士と話す
↓
騎士の試練場最深部に行って
グールと戦う
トラストドロップ
入手

第9話　王城強襲

魔界のゲートは開かれてしまった。出現した魔族の群が城の方角へと飛び立っていく。グラドリエルは、エリエルをリヨンに任せて馬を借り、王城へ急行した。

「――シドラエルお姉様が危ない！」

城門――。立ち塞がる悪魔に焦りの色を浮かべた彼女を救ったのは、騎士らしき巨大な剛剣の使い手――魔人と呼ばれたエドワードの父、ゴルゴダだった。シドラエルを案じる言葉に促され、その場を任せて駆け込んだ城内では、ジェストナイやエドワードまでもが必死の攻防戦を繰り広げている。

「おまえが女王だったのか……」

驚きを口にしながらも、エドワードは叫ぶ。

「早く行け。心配はいらないと前にも言ったはずだ！」

彼が魔物をくいとめる間に最上階に飛び込んだ彼女はついに、闇より深い漆黒の悪魔スカルグに遭遇した。

「お姉さまには指一本触れさせません！」

怒涛の剣撃だが、かつてない強大な敵に勝機をつかめない。一瞬の隙を突かれ、飛び去られてしまう。

グラドリエルは必死の想いで姉の部屋に駆け込んだ。だが、時すでに遅し。漆黒の悪魔がシドラエルを捕らえ、今まさに飛び立とうとしていたのである。剣を抜く彼女と駆けつけたゴルゴダに、悪魔は冷酷に言い放つ。

「姫君の命が大事なら、そこから動かないことだ」

身動きの取れぬグラドリエルを悪魔がその手にかけようとしたとき、怒号とともに、凄まじい勢いで飛び出したゴルゴダがその前に立ち塞がった。悪魔は恐るべき攻撃を繰り出してそれを弾き飛ばすと、姉姫を連れ、飛び去ってしまった。

なすすべもなく見送るグラドリエルの傍らに、ゴルゴダは膝をついた。無惨に傷ついたその姿に、グラドリエルは色を失う。だが、エドワードの父は微笑んだ。

「……罪深いこの私が女王をかばって死ねるとは……」

血潮に染まりながら、魔人と呼ばれた男はついに斃(たお)れる。その顔に満ち足りた微笑を刻んだまま……。

駆けつけたエドワードの前に横たわるのは、もはやどんなに問いただしても応えることのない父の骸(むくろ)だった。

凍りついたような沈黙の後に、エドワードは表情をなくした声で問うた。

「……最後まで騎士として戦って死んだのか？」

変わり果てた父親をじっと見つめ続けるエドワードに、グラドリエルは嗚咽を堪えることができなかった。

「そうか……」

ひび割れた声、ふるえる肩。父さん……そう小さく呼ぶ声が、グラドリエルの胸に痛かった。

第二章

第1話　戦いの後で…

シドラエルが目醒めると、そこはすでに魔界の塔だった。
「手荒にお連れしたことはお詫びしよう」
自分をさらった漆黒の悪魔すら比較にならぬ巨大で恐ろしい存在を前に、シドラエルは恐懼にふるえる。魔法陣に鎖で縛められたこの者こそが、魔王ヴォーグロドであった。
「千年の間、鎖に心臓をしめつけられてきた。その苦しみもようやく終わるのだ……」
封印を解けと迫る魔王を前に怯えを見せながらも、シドラエルは人々の平和のために拒み続ける。
「まあ、いい……。ラルヴァの書さえあればおまえを自由にあやつることができる……」
魔王は余裕の笑みをもらし、姫を牢へ閉じ込めた……。
一方、魔王軍を退けたとはいえ、王城に凱歌はなかった。前騎士団長ゴルゴダの死に様は彼を魔人と呼んだ者たちを思い惑わせ、さらわれた姉姫の安否は気遣われる。
ジェストナイの表情も険しい。手にした者を惑わし魔王復活のための配下とする恐るべき書物、25年前にゴルゴダを操り魔王軍を招いたそれが、エリエルを操ったに相違ないという。己のしたことの恐ろしさに部屋に閉じこもる姉、そして苦しみ続けるエドワードのことを思い、人を操り玩ぶ書物に対するグラドリエルの怒りは増していく。そこにクエインが現れ、ゴルゴダの息子が城を出ると告げた。
エドワードはいまだ衝撃の中にいた。城の入口まで追いかけたグラドリエルの前で胸が痛むような途方に暮れた表情のまま、どうしていいかわからなくなったと言う。魔人の息子と罵しられ父を憎んだ日々と、その最期の姿の狭間で、己の道を見失ってしまったのだ。自らの手で真相を確かめるすべはもはやない……。だがやがて、彼の澄んだ瞳に決意の色が甦った。再び、千里を見渡す竜ハインデルに会いに行くのだ。
「女王……数々の無礼をおわびします」
跪くエドワードに、応える彼女の微笑は寂しげになった。
「やめて下さい……、私は旅人のグラドリエルです」
そう、彼女もまた再び旅立つことを決意していたのだ。
自室で己を責め続ける姉エリエルを力づけ、シドラエルを連れ帰ることを約束し、ジェストナイの部屋へ向かう。いま一度黒の森の塔へ行き、魔界へ行く道を探らねばならない。姉姫を助け、魔王の復活を阻止せねばならないのだ。その固い決意に、ついにジェストナイも折れるのだった。

第2章　第1話

ヴァレナディン城
城門へ行き、エドワードに会う
↓
ジェストナイの部屋へ行く
↓
黒の森の塔へ向かう
FREEイベント⑨発生

FREEイベント⑨「商人ギルド」

カドゥ・パドゥ
商人エリアのショップの前にいる長の娘と話す
↓
ドワーフ王国
ドワーフ王国でメイドと話し心当たりがあるを選ぶ
↓
カドゥ・パドゥ
商人エリアに戻り長の娘と話す
↓
秘密の店の門番と話す

第2章　第2話

黒の森の塔
最上階で、デーモンと戦う
↓
ジェストナイと話す
↓
リィランドに向かう

第2章　第3話

リィランド
港へ行き、船乗りと話す
↓
海賊の島
ドッペルゲンガーと戦う
FREEイベント⑩発生
FREEイベント⑪発生
FREEイベント⑫発生

FREEイベント⑩「フロッカーの憂うつ」

カエルの村
フロッカーと話す
↓
ひだまりの森
マイコニドと戦う
↓
カエルの村
フロッカーと話す
いにしえのカギ入手

FREEイベント⑪「封印のほこら」

いにしえのカギを入手後
パンプキンハウスを経て
封印のほこらへ向かう
↓
封印のほこら
最深部でガイストアーマーと戦う
楽譜の切れはしⅡ
入手

第2話　黒の森の塔

城下の傷痕も深い。痛々しく焼け落ちた町並みの中、それでも絶望を知らず復旧に励む民。連れ去られた城の姫を案じさえする彼らを目にし、グラドリエルはこの人々を護るのだという思いをよりいっそう強くする。

再び黒の森の塔へ。完全に魔王軍の砦と化した塔は魔族でひしめき、ようやくたどりついた最上階には、ゲートを守るデーモンが爪を研いで侵入者を待ち構えていた。

何度も魔法を受けながら不屈の闘志で立ち上がったグラドリエルは、ついにデーモンを討ち果たした。しかし一瞬の隙をつかれ、最期の力を振り絞った相手にゲートを破壊されてしまう。勝ち誇り息絶えた悪魔を前に、唯一の道を閉ざされたグラドリエルは力なく膝をつくのだった。

このままでは魔王復活を妨げることはできない。他に手はないものかと帰還した城で、ジェストナイは25年前に王国を襲った魔族が海の彼方より飛来したことに思い至った。アーソントゥラという島から現れたという話である。

第3話　リィランドの絵描き

ひとすじの希望を追い、グラドリエルは旅立つ。手掛かりは海の向こう——船が必要だ。しかし、訪れたリィランドではまたしても事件が起きていた。犯罪が多発し、あのフリードルフィン号の水夫たちまで捕まったという。再会したポートガスに話しかけると、彼は「悪事ができるような連中じゃねぇ」と断言した。グラドリエルも同じ思いだ。

港へ足を向けると、一人の水夫がわびしく船を守っていた。皆、無実の罪で捕まったという。評判の画家に描いてもらった者ばかりが豹変する。どう考えてもおかしかった。

町の人々の話では、問題の画家は、おばけ屋敷と呼ばれる洋館に最近越してきたばかりという。事件発生の時期と一致することに疑いを深め、画家の館へ向かった。

絵画や像が所狭しと飾られた廊下。だが、壮麗な内装を裏切り、数多の亡霊が蠢いている。次々現れるそれらを振り切り突き進むと、どこからともなく声が聞こえて来た。

「……俺の館は楽しんでもらえたか？」

警戒するグラドリエルの影がふいに伸び、モンスターへと姿を変えた。ドッペルゲンガーだ。自分の体にペイントすることで、何にでも変身するらしいそれは、グラドリエルに姿を変えて襲いかかって来た。だがいくら変身しようとも、彼女の強さまではうつし取れなかった。結局、本物のグラドリエルの活躍によって真相は解明され、無実の罪で捕まった人々はすべて解放されたのだった。

第4話　扉の悪魔

北の果てには楽園につながる島があるという。だが、近づく船は悪魔の呪いでことごとく沈むという。それが幻の島アーソントゥラだ。グラドリエルは港へ行き、解放されたフリードルフィン号の船員に頼んで船を出してもらった。

偽ポートガスがまたも襲ってきたがあっさり撃退し、無事アーソントゥラへ到着。森の中に洞窟を見つけ踏み込んだ。ここが魔界の入口に違いない。シドラエルを救うために足早に進んだグラドリエルは、ついに洞窟の最深部に達した。

――しかし、そこで彼女を待っていたのは、深紅の悪魔の前に膝をつき、紅に染まるエドワードだったのだ！　デーモンは嘲笑いながら、グラドリエルの目前でエドワードを弾き飛ばし、その心臓を貫いた。

「――よくも、エドワード様をっ！」

逆上したグラドリエルは剣を抜き放ち、深紅の悪魔に撃ちかかった。だが、いかに剣を繰り出そうともまるで通用しない。戦い続け力つき、ついに彼女は死の淵に立った。

「誰か――誰か助けて！」

アーリアが悲鳴を上げた時だ。清らかな光が深紅の悪魔を退け、グラドリエルの荒み疲れ果てた意識を包んだ。

「――魔界の者よ、この方に手を出すことは許しません」

気高い声が瘴気を圧し、溢れる光がすべてを消し去った。

第5話　大地の魔法石

気づくと輝かしい緑の森にいた。エドワードの死も何もかも夢だったのだと息をつくグラドリエルの前には、あのユニコーンの清らかな姿があった。そう。夢ではない。かつての誓いのままに助けてくれたのだ。しかし……。

「……あの少年は死にました」

ユニコーンの言葉はグラドリエルを絶望の淵におとした。我を失い、生き返らせてくれと激しくつめよる彼女に、聖なる獣は痛ましげに目を伏せる。

「彼はあなたにとって大切な人だったのですね……」

それは空洞となった彼女の胸に虚しく響くばかりだった。だが、希望は残されていた。千里を見渡す黄金竜ならば彼を救う方法も知っているかもしれないという。その名はハインデル。エドワードが会いに行ったはずの竜だった。再び立ち上がった彼女を、ユニコーンはネルトの町まで送ってくれた。

最果ての町ネルトから風の音の響く岩山を越え、神託の洞窟へ。地下迷宮を駆け、たどり着いた一室に、宝物に埋もれるように巨大な黄金の竜ハインデルが横たわっていた。

「……ようこそ、小さな客人。私の所へ来る人間はみな答を求

FREEイベント⑫「盗賊団」

カドゥ・パドゥ
魔術師エリアの魔法学校で生徒と話す
↓
魔法学校で先生と話す
↓
戦士エリアの民家でオウムと話す
↓
ネルト
酒場の親子と話す
↓
東へ進み、ドンファンの隠れ家最深部でドンファンと戦う
かたみの指輪入手
↓
カドゥ・パドゥ
魔術師エリアへ戻り
魔法学校の生徒に指輪を渡す
アタックドロップ入手

第2章　第4話

リィランド
港へ行き、船乗りに
アーソントゥラに行くように頼む
↓
魔界への入口
ダンジョンの最深部に行き
エドワードの死に出会う

第2章　第5話

ネルト
神託の洞窟へ向かう

↓

神託の洞窟
ハインデルの部屋にいって相談する

↓

ドワーフ王国
ドワーフ鉱山で、タランチュラと戦う

↓

ドワーフ王宮に行って王様と話す
大地の魔法石入手

神託の洞窟
ハインデルに大地の魔法石を渡す
FREEイベント⑬発生
FREEイベント⑭発生

FREEイベント⑬「忘れられた塔」

神託の洞窟
ハインデルに魔法石を渡した後
再び話しかけて
バルカンの魔法石を渡す

↓

忘れられた塔
塔の最上階でグリフォンと戦う
ノーティスドロップ
入手

FREEイベント⑭「ドジな魔術師」

ネルト
ハインデルに魔法石を渡した後
ネルトの民家でフロッガーと話す

↓

ハープの草原
草原で葉がとがった草を摘む
葉がとがった草入手

↓

ネルト
民家のフロッガーに
葉がとがった草を渡す
楽譜の切れはし Ⅲ入手
吟遊詩人に楽譜 Ⅰ Ⅱ Ⅲを渡しキュアドロップ入手

める。おまえもそうかね？　……私も一国の王がなぜ、一人の剣士を気にするのか……ぜひ、たずねてみたい」

思わず息をのむ。本当に何もかも見通しているのか。

「……エドワードは運命を変えられなかった。いまさら何をしようと言うのかね」

運命、と竜は言った。その深い深い声に、グラドリエルは悟らざるを得ない。やはり彼はここへ来たのだ、そして力つきたのだ……と。だが、たとえ運命でも、神にしか叶わぬ願いだとしても、それでもエドワードを助けたかった。

沈黙が流れ、黄金の竜は閉ざしていた口を静かに開いた。

「これは……うまくいくとは限らず、たいへん危険な方法だ。それでもどうしても知りたいというのならば、取引きしよう」

――グラドリエルの返事は決まっていた。

〈大地の魔法石〉を求め、南はドワーフ王国へ。そこでは鉱山に棲みついた魔物のために宝石をとることができないと、住人たちが困っていた。早速、鉱山へ向かい、奥に巣くっていた巨大な毒蜘蛛タランチュラと相対する。

魔物を退治するとドワーフ王は大いに喜び、グラドリエルを己の館に招いて歓待した。そこで感謝の印にと、贈られた宝石こそが〈大地の魔法石〉だった。

「教えて下さい！　エドワード様を助ける方法を！」

再び駆け込んだ神託の洞窟。〈大地の魔法石〉を受け取ったハインデルは、勢い込むグラドリエルにゆっくりと語った。失われた生命は二度と戻らない。だが、過去に戻るすべさえあれば、運命に抗い、死と闘うことができる、と……。

第6話　時の彼方に……

今度こそ彼を助けてみせる。心に誓ったグラドリエルは、礼を言って洞窟を後にした。ドワーフ王国の東に広がる魔の森。その先の塔にひそむ悪魔こそが、運命のカギを握る。

ハインデルの告げたシャドウという名のデーモンは魔の森の塔の最上階にいた。〈時空の魔法石〉を譲ってくれという彼女の申し出は、しかし、揶揄と嘲笑で応じられる。強大な魔力に驕る悪魔には、人間の想いなど通じないのだ。

これ見よがしに魔法石を飲み込んでみせるシャドウを前に、グラドリエルは力づくで奪うべく決然と剣を打ち込んだ。

だが、対するシャドウも屈することを知らなかった。

「そんなにこの宝石が気に入ったのなら、今ここで使って見せよう。二度と戻れない時の彼方に吹き飛ばしてやる！」

グラドリエルは抗う間もなく、閃光に飲み込まれた。

……夢か、幻か。グラドリエルは、今は亡きゴルゴダの声を聞いた。そして、呪われた書物に手を伸ばそうとするクエインの姿を見たような気がした。崩折れ、操られようとするクエインを庇ったエドワードの父、そして　哄笑……。悲劇

を止めようと、必死にあげた彼女の声は虚しく掻き消え、やがて何もかもが光に飲み込まれた。

我に返るとヴァレナディンの城下町にいた。人々の話を聞くうちに、グラドリエルは己の感じていた違和感の正体を知る。魔王軍との戦い前夜――今は亡き母エルファーラン女王の時代なのだ。時の迷い子……途方に暮れたグラドリエルはしかし、若者による魔族来襲の報にすべてを忘れた。

「――お母様が危ない！」

王城――。二階へ階段を駆け上がったグラドリエルの前に、熾烈を極めた戦いが繰り広げられる。臆することなくデーモンに立ち向かう女王エルファーランの勇姿はまさしく、グラドリエルが理想とする女王の姿だった。戦場を移す母を追い、彼女もまた三階の謁見の間へ向かう。

「騎士団長、なぜこのようなことを……」

謁見の間で、ついにエルファーランは魔人と化したゴルゴダと対峙した。だが、呪われた力を与えられたゴルゴダにさすがのエルファーランも膝を折る――。

母の危機を前に、ついにグラドリエルは飛び出した。

「やめなさい！　邪悪な書物の思うようにはさせません」

正体を見破った者を生かしてはおけないと矛先を変えた魔人ゴルゴダは、母を想うグラドリエルの前に敗れた。

戦いは終結したかに見えた。しかしあらたな敵が出現する。深紅の悪魔ブラッディだ。正気に返ったゴルゴダは、女王を守らんと切りかかる。圧倒的な力で弾き飛ばされたその姿に自らの血潮に沈んだエドワードが重なった。忘れもしない仇ブラッディに、グラドリエルは猛然と切りかかった。

壮絶な攻防の末に悪魔の体は砕け、一つの魔法石が転がり落ちた。だがしかし、ブラッディはまたしても甦る。

「オレ様は人間の剣ごときじゃ死なないんだよ！」

勝ち誇り、女王を連れ去ろうとする深紅の悪魔。またしても大切な者を奪われるのか――彼女が己を呪う声を上げかけたとき、ジェストナイだけが勝機を見出していた。

「魔法石をデーモンに向かってかざすのじゃ！」

間一髪、グラドリエルの手で魔法石の力が解放された。

それは〈時空の魔法石〉だった。爆発的な光が失せると、深紅の悪魔とともにゴルゴダが姿を消していた。最後まで女王を庇い、過去とも未来ともつかぬいずこかへ消えてしまったエドワードの父。それでも生きてはいるのだと、エルファーランは希望をつなぎ、安堵の笑みを浮かべるのだった。

魔王軍を退け、邪悪な書物も封印し、王城は一応の落ち着きを取り戻した。名乗ることのできないグラドリエルの事情を思いやり、エルファーランは深く詮索することなく勇者の称号を与えた。だが、彼女にとって何よりも貴い報酬は、思いがけず得ることの叶った母の信頼の笑みだった。

「お母様、お会いできてよかった……」

第2章　第6話

魔の森の塔
塔の最上階でシャドウと戦う

↓

ヴァレナディン城下町（過去）
町のすべての人と話す

↓

入口で若者と出会い魔族襲来を知る

↓

ヴァレナディン城
3F謁見の間で悪のゴルゴダと戦う

↓

ブラッディと戦う

↓

ジェストナイの部屋を訪れる

↓

4Fの右端の部屋
（現在のグラドリエルの部屋）へ入る

心の中に呟き、別れを告げた。自分の時間へ戻るべき時がきたのだ。強すぎる力のため、扱いに頭を悩ませるジェストナイの部屋へ赴き　〈時空の魔法石〉を譲り受けると、グラドリエルは後の自分の部屋に戻って石をかざした。

「時空の魔法石よ、お願い……私を未来に導いて。エドワード様が、命を失う前の時間へ！」

第7話　そして魔界へ……

第2章　第7話

魔界への入口
エドワードの死の直前に還り
ブラッディと戦う
↓
扉の奥に進む

「この血のにおい、おぼえがあるぞ。オレ様を剣ではりつけにしたゴルゴダと同じ血のにおい。お前はあいつの息子か！」

深紅の悪魔ブラッディとエドワードの戦い。時空の魔法石はグラドリエルの願いを叶えたのだ。

「エドワード様！　このデーモンに剣は効きません！」

今度こそ、警告は間に合った。剣戟の効かぬ体でエドワードを欺こうとしていたブラッディは、忌ま忌ましげに彼女を見やり、呪いの言葉を吐く。

「……小娘、お前は！　よくも、オレ様の魔法石を使い四年も未来にとばしやがったな！」

怒りの声とともに襲いかかるブラッディに、グラドリエルは敢然と立ち向かう。——負けられない。何としても負けられない。これは運命との戦いなのだ。

「剣よ！　私に勇気と力を！」

幾度となく甦った深紅の悪魔も、力をあわせた二人の前に、ついにその体を塵と変えた……。

分厚い扉の向こうから魔界の瘴気が漂ってくる。

「この扉の向こうは魔界だ……。行くのか？」

頷くグラドリエルに、エドワードが微笑みかける。

「俺も行くよ。女王ひとりを魔界に行かせるなんて、父は許さないだろう」

それは彼女にとって、何よりも力強い言葉と笑みだった。もう何も恐くない……。凄まじい重圧感を周囲に与え続けていた扉をも静かに見つめて、二人はもう一度だけ視線を交わしあい、人間界に別れを告げた。

昏く紅い空と、重く澱む瘴気の渦。行手を遮るように薄く立ちこめる霧の中を進む二人の前に漆黒の悪魔が降り立った。それは忘れもしない、シドラエルをさらい、エドワードの父ゴルゴダを殺した漆黒のデーモン、スカルグだった。

「……先にいってくれ。コイツを殺したらすぐに追いつく」

何者も立ち入ることは許されない……。決然とした瞳にそれを悟り、グラドリエルは先へ進む。

後ろ姿をじっと見送ったエドワードは、やがて、己の巨大な剣を視線でなぞった。剣に語りかけるように。

「こんなに早く父さんの仇に出会えるとは運がいい」

一瞬の静寂の後、二影は閃光とともに交差した！

第8話　魔王ヴォーグロド

グラドリエルは魔界の奥へ奥へと進み、塔へと足を踏み入れた。だが、すでに魔王はシドラエルを呼び寄せていたのだ。
「さあ、王家に伝わる言葉を唱えてくれ。心臓を縛り付けるこの鎖を断ち切るために……」
魔王の求めに、なぜかシドラエルは躊躇いもみせずに応じ、美しい声で朗々と唱え始める。
「――この声よ、かの地へとどけ。道を求むる者は願い、暗闇を照らす光が舞い降りる時、苦しみの束縛は消え去り、かたく閉ざされた心を開く――」
グラドリエルは間に合わなかった。魔王ヴォーグロドを縛りつけていた封印の鎖は消え去ってしまった。紫電が空を裂く。咆哮が轟く。大気をもふるわす絶大なる魔力の気配と瘴気が、二人の姫に吹きつける――。だが、怖れてはいられない。これこそがグラドリエルの戦いなのだ。
「魔王！　ヴァレンディアの女王グラドリエルが相手です！」
強大なる魔王ヴォーグロドを前に毅然と相対し、裂帛の気合とともに、グラドリエルは剣を繰り出した。閃光と見まがう斬撃、大気を裂く雷撃、一進一退の攻防はいつ果てるともなく続く。だが、ついにグラドリエルは叫んだ。
「負けられない！　女王の名にかけて!!」
無事に駆けつけたエドワードの前で、魔王は姿を消した。
激しい揺れが塔を襲い、三人の退却を迫る。
塔を駆け下り、人間界を目前にしたところで、しんがりを務めていたエドワードは背後に迫り迫る気配に気づいた。
「力を取り戻していないとはいえ、魔王様を倒すとは……」
またしても漆黒の悪魔が降り来る。スカルグは驚きとも呪いともつかぬ言葉を吐き、三人に迫いすがった。
「……グラドリエル、シドラエルを連れて船へ急げ！　これは俺の戦いだ。――だれにもじゃまはさせない」
二人はその言葉に従った。王家の姫の無事を確かめ、送り出した今、騎士たる彼の心を迷わすものはなにもない。
「もう逃がさないぜ……」
持ち主に応えるようにふるえだす剣。エドワードの口元にはまがうことなき笑みがこぼれる。それは歓喜。もはや一片の曇りもない己の心に、祝福の凱歌を添えるのだ。
「騎士ゴルゴダの息子の力がどれほどのものか――見せてやるよ！」
再び顔をあげた彼の顔に浮かんでいたのは静かな、そして凄絶な笑みだった――。
水夫の助けを得てシドラエルを乗船させたグラドリエルは、もう一度だけ振り返った。
「エドワード様、無事に戻って来て……」

第2章　第8話

魔王の塔
塔の最上階へ向かう
↓
最上階で魔王ヴォーグロドと戦う



第3章　第1話

ヴァレナディン城

城門でグリフォンと戦う

↓ グリフォンを倒すと FREEイベント⑮発生 FREEイベント⑯発生

再び魔界へ向かう

FREEイベント⑮「戦士の長と魔術師の長」

カドゥ・バドゥ

戦士エリアの剣の像の前にいる戦士と話す

↓

剣の像に出現した入口から戦士のダンジョンに入る

↓

戦士のダンジョン最深部でゴーストと戦う

↓

魔術師エリアの杖の像の前にいる魔術師と話す

↓

杖の像に出現した入口から魔術師のダンジョンに入る

↓

魔術師のダンジョン最深部でゴーストと戦う

ユニットドロップ入手

FREEイベント⑯「ドワーフ王国」

ドワーフ王国

ドワーフ王と話す

↓

トロッコレース場でプロセルピナと戦う

↓

ドワーフ王と話す

攻撃力アップ！

第三章

第1話　かりそめの平和

シドラエル姫を無事救出した女王グラドリエルの帰還に、王城はわき立った。しかし、喜びにひたる間も許されず、平和は彼方へと消える。王城が再び襲撃を受けたのだ。

アーリアの急報に即座に武装し階下へ——。一階に至ると兵が駆け込んでくる。状況を問いただし、先を急ぐと、月下、城門を守る騎士が魔獣の爪に斃れる光景が飛び込んできた。

グラドリエルは怒りのままに、グリフォンを撃退した。

いまだに大地の悪しき魔力は増大しているのか……。厳しい表情になるグラドリエルらのもとに、シドラエルがやってきた。凛とした立ち姿に常にない強い決意の色を浮かべて。

「……魔王を助けていただけませんか。あの方の心は邪悪ではないのです」

姉姫は語った。魔王ヴォーグロドもまたかつては人間であり、ラルヴァの書の犠牲者であるという。

『教えてくれ……お前がここにきてから何かおかしい。心臓を縛る鎖とは違う……この苦しみはなんだ？　わからない……こんな気持ちはかつて感じたことがない』

紛れもない戸惑いを浮かべた魔王の姿は姫の心に熱く刻まれ、消えることがなかった。——そう、彼女は自分の意志で魔王を解放したのだ。

「争いは起こさないと約束してくれました。野獣のような姿に変わっても、本当は心のある方なのです」

シドラエルの切々たる訴えは強く深く響いた。

ことは魔界の扉を閉じればすむという問題ではなくなった。それぞれの想いに口を閉ざした時、王国をかつてない大地震が襲う。このままでは魔の世界となってしまう——グラドリエルは、消えた魔王を探すためにも魔界へ旅立つ決心をした。

第2話　再び魔界へ……

再び訪れた魔王の塔。主のいない塔とは思えぬ魔族の数に表情は自ずと険しくなる。一瞬よぎる別れたままのエドワードの後ろ姿を脳裏から追いやり、隙を見せぬよう上を目指す。

踏み込んだ最上階にはしかし、何者の気配もなかった。

「魔王の封印が解けたせいで魔力が増しているのかしら……」

訝しみこぼれた呟きに、思いがけず返答があった。

「——ご名答」

穏やかな声は、かの砂漠の若き賢者リヨンのものだった。知性に澄んだ瞳に一瞬、禍々しくも残酷な喜色が浮かんだのは錯覚だろうか。だが彼女は気づかず、ただ耳を傾ける。

……かつて一国の王子であった魔王を操り、世界を奪おうとした闇の神ラルヴァ。光の女神ガイアは最後の力を振り絞り、魔王と呪われた書を封じ、闇を退けたという……。

「それが……真実なのですか？」

あの呪われた書物が闇の神の化身だという恐るべき事実。思わずふるえる彼女を見つめ、リヨンは口元に笑みを浮かべる。

「私が手に入れたその書物がすべて教えてくれたのですよ」

まさか……。愕然と目を見開きながら否定を願うグラドリエルの前で、リヨンは変わらぬ微笑のまま手を差し伸べた。

「貴女の王冠をいただきましょう。闇の神が世界に降り立つためには、二つの王冠を封じなければならないのです」

唇をかむ。リヨンが呪われた書――闇の神の手に堕ちたことはもはや疑いようもない。だが……勝てるのか？

「私は貴女を気に入っていたのですが……仕方ありませんね」

リヨンは魔女を呼び出し姿を消す。動揺を抑えて辛くも倒した魔女ネクロ・サマンサも、再戦を約して姿を消した。

事態は混迷を極めた。茫然と立ち尽くすグラドリエルを力づけたのはアーリアだった。

「女王様、行こうヴォルガへ。まだ間に合うよ……」

第3話　海の魔物

王城――。無事を喜ぶエリエルとジェストナイに報告した。

「リヨン様は闇の神をこの世界に招こうとしています。そのためにこの国とヴォルガの王冠を封印すると言っていました」

二つの王冠は光の女神ガイアの力を宿しているらしい。

三姉妹の父シェリウスはヴォルガ王国の王子だった。王位を継がなかった息子を王は許さず、両国の国交は絶えている。それでも、ヴォルガ王ジャディスは三姉妹にとって実の祖父。危機が迫っていることを知らせねばならない。もうこれ以上、大切な人々を犠牲にしたくなかった。

リィランドの港へ行き、水夫に頼んで一路ヴォルガ王国へ。だが、セイレーンに危うく船を沈められかける。

無力を詫びる水夫たちに礼を言い、途方に暮れながら港を出ようとしたグラドリエルの前に、ポートガスが現れた。

「よお、グラドリエル。うかない顔でどうした？」

事情を説明すると、隻眼の海賊は苦笑いでこたえる。

「やれやれ、すっかり忘れられているようだな。今、この港には最高に腕のいい船乗りが一人いるんだが……」

海の帝王は片頬に笑みを浮かべてみせた。

「俺の海賊船に乗せてやるぜ」

船上――。さすが名高い海賊の頭だけあり、ポートガスはとうに彼女の素性を見抜いていた。謝罪にも鷹揚に笑い返す。

「海の上に出ちまえば仲間か敵か――それだけだ。グラドリエルほどの腕なら立派な海賊になれると思ってたんだが……女

第3章　第2話

リィランド・アーソントゥラ
魔界の入口を経て魔王の塔へ向かう

↓

魔王の塔
塔の最上階でリヨンと遭遇
ネクロ・サマンサと戦う

第3章　第3話

ヴァレナディン城
エリエルとジェストナイに報告後
ヴォルガ王国へ向かうことを決意する

↓

リィランド
港で船乗りたちと話し
ヴォルガ王国へ向かう

↓

セイレーンに襲われ一度断念した後
港でポートガスに会い
再度ヴォルガ王国へ向かう

↓

船の上でセイレーンと戦う

王が海賊だったら国のガラが悪くなっちまうもんな」

思わず笑みがこぼれた。

途中、力をあわせてセイレーンの群れに立ち向かい、これを一掃。グラドリエルはヴォルガ王国へと足を踏み入れた。

第4話　北の国で……

港町サゴン。人々が勇名高き武王と誇らしげに語るまだ見ぬ祖父ジャディス王を想いながら、彼女は宿屋に休んだ。

翌日、宿屋を後にすると、町の人々が襲われていた。リヨン配下のあの黒い魔女だ。剣を構えるグラドリエルに、ネクロ・サマンサはカオティックアイをけしかけ、消えた。

魔物を倒したグラドリエルの前に再び姿を現したサマンサは、しかし、嘲笑うばかりで相手になろうとしない。

「それより、こんなところで遊んでいていいのかしら？　リヨン様はもうヴォルガ城よ。――でも、道に結界をはっておいたから、お城まで行くのは無理だけどね」

哄笑を響かせ魔女は消えた。遅れを取ったか――グラドリエルは青ざめる。駆けつけたヴォルガ王国の聖騎士に城への抜け道を訊ね、町を飛び出した。一路、北西へ。

険しい岩山を走ると洞窟が口を開けていた。ソード鉱山だ。ここを抜ければ城へ行ける――。だが、出口目前、またしてもネクロ・サマンサが彼女の前に立ちはだかる。

「――そこをおどきなさい！」

グラドリエルは凄まじい気迫を見せ、ネクロ・サマンサを倒した。今にも消滅しようとする間際に、魔女は嘯った。

「おもしろいわ……。あなた自分で気づかない間に、戦いで憎悪と魔力をずいぶん身にまとっているようね……」

――聞き流してはいけない気がした。だが、考えている時間などない。彼女は再びヴォルガ城を目指して走りだした……。

第5話　武王ジャディス

静まり返るヴォルガ城。不安を抑え階段を駆け上がるが、遅かった。三階は謁見の間で、魔法を立て続けにくらったジャディス王は石と化していた。飛び込んだグラドリエルに対し、王冠を手にしたリヨンは親しげに微笑んで見せる。

「あとは女王……貴女のかぶっている王冠を手にすれば、ラルヴァはやってきます。闇の神への最初の生け贄は貴女にしましょうか？　ご姉妹の姫君たちの方がいいですか？」

やさしい声、やさしい笑みがグラドリエルをなぶる。唇を噛みしめる彼女の胸からついに一つの感情が吹き出した。

〈憎い……〉

突如、光が迸った。光が失せた後にあるのは幼さを残した体ではなく成長した妖美な肉体。――姿を変じたグラドリエ

第3章　第4話

サゴン
宿に泊まる
↓
翌日、町でネクロ・サマンサと対峙
カオティックアイと戦う
↓
ソード鉱山
鉱山を抜けてヴォルガ城へ向かう
↓
出口付近でネクロ・サマンサと戦う

第3章　第5話

ヴォルガ城
謁見の間でリヨンと対峙
↓
夢の世界で悪グラドリエルと戦う

ルは妖艶に微笑み、剣ではなく凄まじい魔力を放つ。王の石化はとけ、リヨンははじめて動揺の色を見せた。
「……何という魔力！　これは闇の力、こんなことが……」
不利を悟るやリヨンは退却した。グラドリエルも激しすぎる魔力の放出に力つきたか、意識を失ってしまった。

第6話　夢の中で……

目を醒ますとそこはヴァレナディン城の自室だった。
不思議な声に導かれ向かった謁見の間には、リヨンを撃退したもう一人のグラドリエルの姿があった。優雅に玉座から立ち上がり、彼女は歌うように言葉を紡ぐ。どこまで人を犠牲にして生き残るのかとグラドリエルを責めるのだ。
『お母様は私を産んだときに亡くなった……私さえ生まれてこなければエルファーラン女王が死ぬことはなかった』
ついに彼女は悲鳴をあげる。幼い日より消えることのない傷が、ぱっくりと口をあけて生きる気力を失わせていく……。
『貴女はお母様のかわりができているのかしら……？』
力なく悲鳴を上げる彼女の体が透きとおっていく。もうひとりのグラドリエルは満足げにそれを見つめ、微笑んだ。
『貴女にはグラドリエルであり続ける資格がありません』
――だが、今にも消失しようとしたグラドリエルの前に、ふいに前女王エルファーランの姿が現れた。
『憎悪と魔にとりつかれた闇の心に負けてはなりません』
母の幻影と王冠の光の助けで気力を取り戻した彼女は、舌打ちする悪のグラドリエルに敢然と立ち向かった。
「光も闇も心の中にあるもの……、王家の言葉はこのことだったのですね」
グラドリエルはもうひとりの自分に打ち克ち、己の心から目を背けるのではなく見据える勇気を持つのだった。
目が醒めると、見慣れぬ寝台の上だった。部屋には剣を杖がわりにした白髪の老人が立っている。
「おじい様……」
思わず呟くと、ジャディス王は眉間のしわを深くした。
「おじい様などと呼ばれる筋あいはない」
眉間のしわもそのままに、敵が再び襲う前に立ち去るよう告げ、王は部屋を去る。頑固を顔にかいてあるような老人だった。だがそれでも、目覚めるときそばにいてくれたのだ。
かつては父の乳母であった女官長にも会えた。その励ましと祖父の後ろ姿を胸に、彼女はヴォルガ城を後にした。
サゴンの港からエメラルドの海を渡り、グラドリエルは不思議と穏やかな心を抱いて祖国に戻った。
「俺もいつかグラドリエルに会いに、王城に行ってみたいが……。女王の友人が海賊じゃまずいか？」
グラドリエルの答えを知っていて口にしたのだろう。

第3章　第6話

ヴォルガ城
ヴァレナディン城への帰路につく
名物料理をすべて食べて
ヴォルガ城を出ると、
FREEイベント⑰発生
FREEイベント⑰を
終えると
FREEイベント⑱発生

サゴン
ポートガスの船でリィランドへ戻る

FREEイベント⑰「ソード鉱山」

ヴォルガ城下町
若者と話す
↓
ソード鉱山
カオティックアイと戦う
壊れた剣を入手
↓
ヴォルガ城下町
壊れた剣を若者に渡す
最後の酒場に行ける
ようになる

FREEイベント⑱「最後の酒場」

最後の酒場
店主に話しかけ
ドラゴンステーキを購入する
リムーブドロップ
入手

「そんなことありません。いつでも会いにいらして下さい」
まっすぐに答えた彼女に、ポートガスは笑みを深めた。

第7話　闇の使者

城門前。皆が出迎える中、ポートガスが加勢に来てくれた。その場は騎士団に任せ、城内は謁見の間へ場を移す。
「――戻るのが遅くなった、グラドリエル」
魔界で別れたきりだったエドワードまで現れ、グラドリエルの顔に隠しきれぬ喜色が浮かんだ。
「よかった……。無事だったのですね」
微笑む彼女は、続いて現れた姿に目を丸くした。
「ヴァレナディンの女王よ。おまえの騎士はなっとらんぞ……」
エドワードを見やって眉間のしわを深くし、王冠の奪還に来ただけと告げるのは別れたばかりのジャディス王だ。
「けっして女官長に言われて考えを変えたわけではない！」
険しい表情のままの祖父の言葉に、破顔する彼女だった。
――和やかな時は続かない。聖騎士団を率いて下がったジャディス王と入れ替わるようにリヨン来襲の報が入った。
「ヴァレナディンの女王の持つ王冠、いただきに参りました」
リヨンは単身、城門からやってきた。勇むこともなく、立ちはだかる者たちを哀れみさえしながら進む、堕ちた若き賢者。無人の野を行くがごとく、その歩みは止まらない。城門を守っていたクエイン、ジェストナイも、雪辱戦を挑んだジャディス王も力及ばず、騎士団とともに石と化した。
二階を守るはポートガスだ。口の端を吊り上げて見やる。
「王冠ドロボウにしちゃあ、堂々と入ってくるじゃねぇか」
「これは珍しい……王城に野良イヌが一匹まぎれこんでいる」
リヨンも負けてはいない。微笑のままやすやすと攻撃をかわし、ポートガスをも石に変えた。
最後の砦というべき謁見の間の扉を背にエドワードは立っていた。敵地を進むとは思えぬ涼しげな顔のリヨンに、彼は王冠をあきらめて立ち去るよう警告する。だが、渾身の斬撃も続けざまにかわされ、無念にも石と化した。
未来を象徴するかのように再び地震が襲った。口元に笑みを刻みながら、リヨンはついに謁見の間に姿を現した。
「闇の神はもうそこまで来ているのです……」
「――みんなをよくも！」
逆上したグラドリエルを容赦なく魔法で弾き飛ばし、ついにリヨンは王冠を手に入れた。
「これで二つの王冠は封印されます。もはや、さまたげるものはない。――闇の神ラルヴァよ！　門は開かれた！」
朗々たる声に魔法陣が出現した。光とともに王冠は消えうせ、闇の神を降臨させんと魔法陣の輝きが増す。
「やめて！　――やめて下さい、リヨン様！」

第3章　第7話

ヴァレナディン城
城門でジェストナイたちが出迎える
↓
謁見の間でリヨンと対峙
戦闘のうえ、倒す



本来の魔力に、闇の神の加護を加えたリヨンの力は絶大だった。しかし、グラドリエルは何度も斬撃を繰り出し剣を走らせる。剣光と魔法の光が交差し、大気は振動する。何度、電光に撃たれたのか、何度、剣をふるったのか……。ついに、グラドリエルの剣はリヨンを倒した。

崩折れた若き賢者は正気に戻っていた。駆け寄り、手当をしようとするグラドリエルに、力なく首を振る。

「女王……いけませ……ん。私のことより……ラルヴァが……」

リヨンは最期まで手当を拒み、世界を案じて散った。

第8話　神話の終末

リヨンが描いた魔法陣。行く先がどこなのかグラドリエルにはわからない。戻れるのかどうかもわからない。だが、大切な人たちがみな己を守り命を落とした中、どうしてためらうことができるだろう。彼女は敢然と魔法陣を踏んだ。

どことも知れぬ異空間。地鳴りとともに闇の神ラルヴァが出現する。巨大で邪悪な神の姿に息を呑むも、気丈に戦いを挑むグラドリエル。だがしかし、圧倒的な力で吹き飛ばされる。まさか、一撃も報いぬままに敗れるのか――。

死を覚悟した彼女を救ったのは魔王ヴォーグロドだった。

「ラルヴァ、お前が闇の神とは、私をだましていたのだな！」

閃光とともに出現した魔王は怒りに叫ぶ。

「……シドラエルのいるこの世界を汚すことは許さん！」

凄まじい咆哮とともに、ヴォーグロドは闇の神に戦いを挑んだ。しかし、闇の加護を失った魔王にかつての力はない。無残にも引き裂かれ、斃れ伏す。

「……光の神よ。この世界を……シドラエルを救ってくれ……」

消滅するまで姫のために祈り続けるその声は、傷つき倒れ、萎えかけたグラドリエルの闘志を呼び覚ました――。

「――剣よ！　私に勇気と力を！」

……かくして、闇の神は退けられた。

若き賢者リヨンを救うことは叶わなかったが、王城を守っていた者たちはみな一命をとりとめ、喜びの輪の中に加わっている。女王の危機に駆けつけたヴォルガ王国の武王ジャディスもまた石化の呪いを解かれ、帰国を前にグラドリエルらを孫と呼んで両国の国交に明るい光をともした。

女王の長い旅に最後まで同行した妖精アーリアは、しばしの別れを告げ妖精の森に帰って行った。女王はすでに城に縛られた無力な姫ではない。再会は望むときに叶うだろう。

アーリアはその後、妖精の森で女王の冒険譚を伝え続けたという。それは今も妖精たちの手で長く語り継がれている……。

第3章　第8話

ヴァレナディン城
リヨンが王冠2つを使って作り出した
魔法陣から異空間へ向かう

↓

ラルヴァと戦う



魔の剣
エドワード編





「あなたもお父さんのような立派な騎士になりなさい」

それが母の口癖だった。そう繰り返し聞かされて彼、エドワードは育ったのだ。しかし、一歩街へ踏み入れば、聞こえてくるのは〈魔人〉の二文字。〈魔人の子〉を成長させるな……畏れと忌避に彩られた言葉が、常に背後につきまとった。

病弱だった母親が消え入るように世を去った後には、忌まわしい囁き声が残るばかり。エドワードはついに旅立つ。剣の修業のため、そして己の存在意義をかけたある決意を胸に。

月日は流れ、目的を果たせぬまま旅を続ける彼にはいつしか、もうひとつの名が冠せられるようになっていた……。

第1話　ドラゴンスレイヤー

不快に湿った洞窟で、傭兵たちが一人の剣士を囲んでいた。

金の髪、背の丈ほどもある大剣、勇者と同義の呼称とともに、剣士の名は傭兵の世界にも轟き渡っている。だが、その姿はまだ若く、傭兵たちに比べれば頼りないほどに細い。

「あれは俺たちのエモノよ！　ドラゴンスレイヤーだかなんだか知らねぇが、ガキは引っ込んでろ！」

傭兵は愚かにも侮り、洞窟の奥へと進もうとした。だが、そこへ突如舞い降りた竜の攻撃に、抗うすべもなく果てる。

「お前もあいつみたいになりたくなかったら、下がってろ」

金髪の若き剣士は生き残った傭兵に言葉だけを投げ、青白き竜と対峙した。微かにも脅えを感じぬのか、流れるように大剣を抜き払い、凄まじい剣撃を繰り出す。

水竜など、剣士――ドラゴンスレイヤーと称されるまでに成長したエドワードの敵ではなかった。

だが、喜びにわく街にあっても、彼は微笑すら見せない。

「……ここにもヤツはいなかったか」

エドワードは竜を捜していた。黒い竜を。そして、父を。地下迷宮の奥深く、数多の宝物に埋もれるように黄金の竜が棲んでいる。母親を亡くして六年、目的を果たせぬままむなしく旅を続けていたエドワードは、千里を見渡し、知らぬことはないというその竜ハインデルのもとを訪ねたのである。

『お前の名前も知っているよ、エドワード』

低い声で迎えた竜に彼は訊いた。姿を隠した父の居所を。

人間を裏切り魔族に与した裏切り者と人は言う。誇り高き騎士と亡き母は語った。いずれが真の姿なのか、確かめねばならなかった。何としても確かめねばならなかったのだ。

竜は取引きを申し出た。〈太陽の魔法石〉とひきかえに教えると。それは世界を飛びまわる黒き竜が持つという。

『死を恐れない手強い相手だ。それでも訊きたいのかね』

断る理由など、どこにもなかった。自らの存在を確かめるために……父とは違うことを証明するために、黒き竜を捜すエドワードの旅は続くのだ。そう、これからも。

第2話　ドランゴラの竜

どこへでもついてまわる魔人の息子の噂を背に、竜の棲む山へ踏み入ったエドワードは、岩山のさなかに羽ばたきを聞いた。ひとりの少女が竜に襲われている。何故こんな場所にと、訝しむ前に身体が動いた。割って入り、一撃で竜を退ける。少女を叱咤し、逃がしたところに再び咆哮が轟いた。

「まだ生きていたのか……なかなかしぶといじゃないか」

エドワードは口元に笑みを刷き、竜に斬りかかった。剣を手にするときだけ、脳裏から〈魔人〉の二文字が消えるのだ。

竜の古巣にも黒い竜の姿はない。またむだ足か……、引き返す彼を待っていたのはドラゴン来襲の報。忌まわしい二文字を拭うためなのか、父を捜すためなのか、もはや彼自身にもわからない。ただ体を衝き動かすものに導かれるまま村に飛び込み、大剣をふるい、竜を斬る。

そうして、炎上する村の中、グラドリエルと名乗る先程の少女と再会した。

「あなたがグロースター家のエドワード様ですか」

聞き覚えのある名に記憶を探る間もなくそう返され、自嘲の笑みがこぼれる。魔人の息子は有名なのだ。避難する彼女たちを見送り、エドワードは黒い竜を求め、渇える想いで天を見上げた。その時、一際大きな羽ばたきの音が響いた。

「ついに見つけたぞ！　ブラックドラゴン！」

大剣を手に立ち向かう。しかし竜は飛び去った。東へ。

第1話

カドゥ・パドゥ
アイスドラゴンと戦う
↓
戦士の長に呼び止められる
↓
ハインデルと話す（回想）

第2話

ドラゴン山
グラドリエルを助けるため
ドラゴンと戦う
↓
村から若者が走ってくる
↓
ドランゴラ
村でオバサンを助けるため
ドラゴンと戦う
↓
ブラックドラゴンと遭遇、逃げられる

第3話

ティタニア湖

人魚の洞窟の前で
バーバリアンに襲われる

↓

洞窟の中で人魚に助けられる

↓

洞窟の前でタランチュラと戦う

↓

グラドリエルのドッペルゲンガーと戦う

↓

バーバリアンと戦う

第4話

カドゥ・バドゥ

戦士エリアの酒場で戦士長に
ブラックドラゴンの情報をもらう

↓

いにしえの洞窟

ブラックドラゴンを倒す

太陽の魔法石を入手
FREEイベント① 発生
FREEイベント② 発生

FREEイベント①「ヴァレナディンの娘」

ヴァレナディン城下町

娘を助ける

↓

ヴァレンディア城内のイベント
終了後に再び娘と話す

エクストラバッグ
入手

FREEイベント②「ありがとうドラゴンスープ」

ヴァレナディン城下町

瀕死の青年に未使用の
ドラゴンスープを飲ませる

ユニットドロップ
入手

第3話　人魚の涙

黒竜を追い、再び訪れたカドゥ・バドゥはまたも騒然としていた。湖に棲みつく人魚が魔物をけしかけているという。はやる心をよそに調査の依頼を断ることができなかった。

早速向かったティタニア湖で、大男に襲われ不覚にも意識を失ったエドワードは、意外な真相に行き着くこととなる。

「確か魔法をくらって……。俺を助けてくれたのか？」

心配げにのぞきこむ人魚の澄んだ瞳を見て、エドワードは悟った。これが人を襲う魔物の瞳であるはずがないと。

「人である貴方に話してもわかってはいただけないでしょう」

事情を訊ねても悲しげに首をふるばかりのその頑なな姿は何故か懐かしい横顔と重なり、彼の胸に深く刻まれた。

真実を白日の下へ——決意をかためたエドワードに応えるように、再び現れた大男が魔物を召喚する。

「今日こそは秘石〈人魚の涙〉をいただくぜ！」

すべての事情を悟り、エドワードはすらりと大剣を抜いた。

「剣よ！　この怒りにこたえよ！」

その凄絶な戦いぶりに、大男は逃げていった。

人魚に汚名を着せた許しがたい人間がいる……。噂に躍らされた少女グラドリエルとも、一度は剣をまじえることになったが、彼の言葉に素直に非を認め、協力を申し出てくれた。

「その宝石がどんなに美しくどんなに値打ちがあるとしても、悲しい涙から生まれたもの……そんなものをほしがるなんて」

「連中があきらめるまでは俺が守ってやる」

人々の誤解をとき、裏で糸を引く者をつきとめるのだ。二度と卑劣な企みをめぐらすことのないように。二人の言葉と強い意志を湛えた瞳に、人魚は涙した。それはけっして、悲しみから生まれたものではなかった。

第4話　太陽の魔法石

次は己の求める真相を白日の下に曝す番だ。たとえそれが明るい結末を招くものでなくとも……。戦士長が集めてくれた噂をたどり、エドワードは決然と北東へ向かう。

街道のはずれ。人々から忘れられたいにしえの洞窟が、闇とともに口を開け、久方ぶりの来訪者を待ち構えていた。確かにそこは竜のねぐらとなっているらしい。

だが、最下部にも求める姿はなかった。何度目の落胆だろうか。エドワードは重い足取りで踵を返す。

そのときである。凄まじい咆哮とともに黒き影が降り来った。黒き竜、ブラックドラゴンだ！　すべての想いをこめて、エドワードは大剣をふるう。そしてついに、必殺の一撃が黒竜を塵と変えた。

第5話　父

太陽の魔法石はついに彼の掌中に落ちた。だが、運命はすでに急流となって呑みこもうとしていた。西の空が時ならず赤い。女王のいるヴァレナディンの方角だ！　剣を捧げるべき存在の危機を悟った彼は城下へ、そして王城へと駆ける。

押し寄せる魔王軍を剣の露としつつ城内を走り、階段を駆け上がるエドワードを待っていたのは、信じ難い光景だった。

長い長いあいだ、捜し続けたゴルゴダの姿がそこにあった。それは魔物と戦う、母の言葉どおりの父の勇姿だった。

だがそのとき、彼の脳裏に閃光となって去来したのは、苦労の末に病に散った母の姿と人々の忌避の視線だったのだ。

「……女王を裏切って騎士の誓いを破り、悪魔を城まで手引きした男が、今度は城を守るのか？　魔人め！」

エドワードは衝動のままに打ちかかった。父の言葉のすべてを、信じられぬと叫びながら。

「少しの間であったが、剣をまじえられて嬉しかったぞ」

走り去るゴルゴダの残した言葉は、憎悪に灼熱したエドワードの頭に静かに染み入った。新たなる惑乱とともに。

それでも追いかけたその先で、飛び込んで来た光景と言葉を、エドワードは生涯忘れないだろう。それは彼の両の眼に焼きつき、消えることはなかった。――女王を庇い、漆黒の悪魔の攻撃をその身に受けた父の姿は……。

虫の息になりながらなお、ゴルゴダは王家の姫の身を案じていた。エドワードに謝りさえした。今さらと呟きながらも乱れ、荒れ狂う心を持て余し、握ったこぶしに力がこもる。

「強く……なれ……エドワード……」

もはやどんなに問いただしても応えることのない父の骸を前に、エドワードは表情をなくして立ち尽くすのみだった。

第6話　託されしもの

父はやはり立派な騎士だったのか。だが、消えない疑問は今も渦をまく。なにもかもが混沌に沈むなか、いつしか彼の心の中には、父の言葉がただひとつ指標のように鮮明となっていった。

『エドワード……。私の剣を受け取ってくれ……』

太陽の魔法石を手に、エドワードは旅立った。

「ゴルゴダの言い残した剣のある場所を知りたいのだな」

何もかも見通す黄金竜は語った。剣の在りかを――そして過去を。身を呈して先の女王を庇い、時空を超えたゴルゴダは、己が罪を贖わんと命をかけ、深紅の悪魔もろとも魔界との扉を封じたという。エドワードの魂に刻まれた忌まわしい魔人の二文字が薄れていく。胸にわだかまり続けた混沌から、

第5話

ヴァレナディン城

城門でデーモンと戦う

↓

2Fでジェストナイと出会う

↓

3Fでゴーストと戦う

↓

4Fでゴルゴダと出会う

↓

シドラエルの部屋でゴルゴダ死亡
その後クエインと話す

↓

1Fでグラドリエルと話す

第6話

神託の洞窟

ハインデルにゴルゴダのことを訊ねる

↓

ハインデルがゴルゴダについて話す

ティタニア湖

人魚の洞窟

↓

アーソントゥラ

船着き場

↓

扉の悪魔=魔剣を抜く
扉の悪魔と戦う

↓

戦闘終了後、魔界へ行く

魔剣イベント終了後、エドワードが必殺技を使う
魔剣に宿る魔人が出現し、攻撃してくれる

魔　界

スカルグと遭遇

↓

魔王の塔の最上階へ

↓

魔界の扉へ行く途中、スカルグと戦う

母が語ったとおりの、いやそれ以上に偉大な騎士の姿が浮かび上がる。そして何より、狂おしく闇く澱んだ淵に差し込んだ光――遺された魔剣グレイプニル。それはただの剣ではなかった。父が希望とともに託した騎士としての使命なのだ。

「たとえそこに死が待っていようとも、剣を引き抜くのかね？」

「他に俺には何もない。――そこで死ぬのならゴルゴダの信じた息子もそこまでだったということだ！」

不吉な問いにも怯むことなく、エドワードは旅立った。

威容を見せつける巨大な魔界への扉。その前に立ち、エドワードは迷いのない瞳で己が剣をかざす。不気味な轟音とともに大剣に火花が散った。父の剣に宿っていた闇より生まれし魔人の力が今、彼のものとなったのだ。

封印の解かれた扉の向こうから凄まじい瘴気が押し寄せる。岩壁が崩れ落ちる。地鳴りが轟く中、待ち構えるエドワードの前で、扉にはりつけられていた深紅の悪魔が復活した。

「この血のにおい、覚えがあるぞ。オレ様をはりつけにしやがったゴルゴダと同じ血のにおい。お前はあいつの息子か！」

呪いの声を上げる悪魔も、続けざまの斬撃に斃れ伏す。

だが、扉を見上げる彼の背後で、崩れ去ったはずの深紅の悪魔は甦った。その鋭い爪が、今まさに振り下ろされんとしたとき、彼の命を救ったのはあのグラドリエルであった。

剣撃の効かぬ敵は何度でも甦る。長い攻防に、さすがのエドワードも力尽きたかに見えた。勝ち誇る深紅の悪魔は気づかなかった。彼の口元に浮かんだ笑みに……。瞬間、エドワードの剣が閃光となって走り、その姿に巨大な魔人の影が重なった。魔剣グレイプニルの前に、ついに深紅の悪魔は塵と化したのである。

シドラエル姫を救い出し魔界を去ろうとするエドワードたちの背後に、空を切り裂く音とともに黒い影が迫いすがってきた。それは忘れもしない、姫をさらい、父ゴルゴダの命を奪った漆黒の悪魔スカルグであった。

「これは俺の戦いだ。誰にも邪魔はさせない」

王家の姫の無事を確かめ、人間の世界へ送り出した今、騎士たる彼の心を迷わせるものはもはやない。

「もう逃がさないぜ……。騎士ゴルゴダの息子の力がどれほどのものか見せてやるよ！」

すらりと魔剣を抜き放ち、エドワードは凄絶な笑みとともに斬りかかっていった。

偉大なる父、騎士ゴルゴダ――。墓碑にそう刻んだ若者は再び旅立っていった。だが、女王の危機には必ず背の丈ほどもある大剣を手にした剣士が現れたという。金の髪のドラゴンスレイヤー、エドワード。その名はいつの日にか、王国一の騎士として国中に轟きわたるだろう……魔剣の名とともに。

宝の島
ポートガス編



ヴォルガ王国の港街サゴンで生まれ育った若者は、街の大半の若者が望むように、ヴォルガ海軍の一員となるべく船乗りの修業をつんでいた。天賦の才か、17歳になる頃には熟練の船乗りをも凌駕するほどの操船技術を習得し、来年の海軍入団試験には合格間違いなしと目されていた。街一番の器量好しと評判のファーラスとの結婚も決まり、若者はまさに、人も羨むほどの幸福を手に入れようとしていたのである。

しかし、若者は消えた。婚約者とともに。式を二日後に控え、忽然と姿を消した二人の行方は杳として知れない。

――そして、十年の歳月が流れた……。



第1話　秘宝

「――ならばもういい。俺は自身の力のみであの悪魔を見つけ出す。そして必ず……必ずファーラスの仇を討ってみせる」

そう告げる声には静かな、だが強い意志が湛えられていた。十年前に何があったのか――。グラドリエルとともに偽者を倒し、リィランドの平和を取り戻した海の帝王、海賊ポートガスは、千の瞳を持つと謳われる占いの名手、魔女イライシャのもとを訪れていた。しかし、魔女には魔界の者を占うこ

第1話

リィランド

魔女イライシャと会話をする（回想）

↓

酒場で老人から海賊ドレイクの
宝について情報を聞いて
一緒に港から船で宝島に向かう

↓

航行中にポルターガイストと戦う

↓

宝島

宝島の船着き場に到着する

↓

宝島の洞窟にある
宝の部屋で海の魔法石を見つける

海の魔法石入手

第2話

宝島の洞窟

老人に変装していた
ビッグフックに、海の魔法石を奪われる

↓

復活したドレイクを倒して
不死の呪縛を解放する

↓

リィランドへ帰る船上で
ビッグフックと戦う

↓

リィランド

リィランドの港に戻り
海賊仲間と別れを告げる

↓

神託の洞窟へ向かう

FREEイベント発生

とは許されない。さすがの彼の瞳にも落胆の色が浮かんだが、それも一瞬のことだった。魔女はその決意のほどを悟り、黄金竜の存在を語ってくれた。実在するかもわからぬ伝説の宝珠とひきかえに、望む答をもたらしてくれると。

ポートガスの片頬に笑みが浮かぶ。相棒のオウムに名をもらった伝説の大海賊ドレイク。彼はつねに青く輝く宝石を持っていたという。その宝石の名が〈海の魔法石〉。運命の歯車が回る音を、そのとき確かに彼は聞いた。

魔女の予言に従い、リィランドへ。酒場では、折しも老人が地図を片手に腕のいい船乗りを捜しているところだった。

「キャプテン・ドレイクの財宝が手に入るというのに……」

周囲に嘲笑をもって迎えられた呟きは、しかし彼にとっては希望の使者だ。魔女の予言した導き手に違いない。

「海は俺の故郷みたいなものだ。人が恐れる魔の海であろうと、海と名のつく場所で俺に行けないところはない」

力強く告げ、財宝が眠る島までの航海を引き受けることとなった。報酬は〈海の魔法石〉ただひとつ。どんな難所も海の帝王ポートガスの航路を遮ることはできない。たどりついた島の洞窟で、ポートガスはついに財宝を発見したのである。

うずたかく積み上げられた数々の宝も、彼の心を奪うことはない。求めるのはただ、青い青い類い稀なる輝き……。

「これがっ！　これが〈海の魔法石〉！」

第2話　海賊たち

「――これさえあればあの悪魔の居場所を知ることができる」

長かった。長かったのだ。ようやく刻むことができた前進の一歩に、胸の奥に封じていた想いがつかの間あふれ出す。常の表情も揺らぐ中、狂おしいまでの決意と真摯に満ちた瞳が一瞬、食い入るように宝珠を見つめた。山と積まれた財宝になにほどの価値があろう。過去との決着をつけるよすがと、比べられるものなどあるはずもない。

だが、老人は態度を豹変させた。偽ポートガス、ビッグフックだったのである。一瞬の隙を突かれて不覚にも魔法を喰らい、魔法石を奪われた彼の顔から、今度こそ常の笑みがかき消えた。

「……待ちやがれ。その石だけは渡すわけにはいかないんだよ」

低い声。凄絶な眼光。勝利に酔うビッグフックの顔から血の気がひく。何としても取り戻す――ポートガスが足を踏み出したとき、不気味な声が洞窟内に響き渡った。宝を隠す旅から戻ることのなかった伝説の大海賊が現れたのだ。逃げ足だけははやいビッグフックに追う間もなく逃げられ、残されたポートガスはドレイクと戦うはめになった。

洞窟の出口は閉ざされていた。このままでは仲間が危ない。焦る彼の前で復活したドレイクは不思議に厳かな声で告げた。

すべての財宝を譲るという申し出に、ポートガスは剣をおさめる。片頬に笑みを浮かべ、宝より出口をと要求した。
「宝はまた手に入るが、仲間はそうはいかない。だれも失いたくないんでね、急ぐんだ」
骸の淀み濁った瞳に、はじめて光が宿った。
一瞬にしてたどりついた入り江には船の無事な姿があった。敵襲を叫びながら駆け寄る仲間たち。目的を果たすためだけに選んだ道のはずだった。しかし、いつのまにか皆、かけがえのない存在となっている。一通り無事な姿を見渡し、安堵の吐息は胸にしまって、ポートガスは不敵な笑みを浮かべた。
「――戦闘準備だ！　格の違いを教えてやれ！」

FREEイベント「バッグが買える」

カドゥ・パドゥ
商人エリアで商人に話しかける
バッグを買えるようになる

第3話　魔法石

「海賊仲間を置いてきたからには、よほどのことのようだな……ポートガス」
宝物に埋もれた黄金竜は低い声で彼を迎えた。
「――俺の追い求める仇の居場所を教えてくれ！　あいつだけは、この手で倒さなければならないんだ！」
今度こそ、ポートガスは叫んだ。海の義賊の魅力的な笑みの下、こんなにも凄まじい激情を抱いていようとは、誰に想像しえたろう。単身、船を降り、目的を間近にした彼には、もはや封じるべきものは何もなかった。海の魔法石を手に、ポートガスは心の叫ぶままに返答を迫る。そしてついに、けっして忘れることのなかった仇の姿を見出だしたのである。
「久しぶりだな、シャドウ……。貴様を追い求めてどれだけの月日が過ぎたことか……。一日たりとも忘れることはなかった。貴様がファーラスの命を奪った日のことはな」
ポートガスの中で永遠に繰り返されるであろう光景が再びめぐる。どこにも行かないでと、不安に瞳を揺らした愛しい少女の姿。ずっと守ると誓った自分。何があろうと、ともにあるはずだったのに、突如現れた悪魔がすべてを破壊した。愛する少女を、ファーラスを魔法石と変えたのだ。
あの絶望、瞋恚、怨嗟、そして悔恨。その狂おしい想いに焦がされながら、胸に抱えて生きてきたのだ――十年。
今こそ――今こそ仇を討つ。相手が悪魔であろうと、数多の魔法石をたくわえた強大な魔力の持ち主であろうとも。万感の思いを剣に込め、ポートガスは打ちかかっていった――。

海の帝王の名は、後に、海原に通じるすべての港、すべての国で知られるほどに轟きわたった。隻眼に片足、ドレイクという名のオウムを連れた海の義賊は、また、光り輝く魔法石を身につけてもいたという。生涯手離すことのなかったその宝石の由来を、知る者はいない……。

第3話

神託の洞窟
ハインデルに海の魔法石を
わたして、仇の居場所を聞く
↓
魔の森の塔へ向かう

魔の森の塔
魔の塔の最上階で
シャドウと会う
↓
10年前の惨劇
シャドウが恋人ファーラスの
命を奪ったときを回想する
↓
シャドウを倒す
魔法石入手

魔法の薬
プロセルピナ編



第1話　それが正しい魔女の道

あるところに、大魔女のオババと二人きりで暮らす小さな魔女がおりました。森で魔法のキノコを取ったり、ドードーを捕まえて遊ぶ楽しい日々はあるとき、終わりを告げます。一人前の魔女になるため、修行の旅に出る時が来たのです。

「みんなを魔法で驚かせるのがわしら魔女の仕事だよ」

しきたりどおりに従者を連れ、まっ赤な服とほうきを身につけて旅立った魔女プロセルピナは、手始めにナッツビルの人々を驚かすことにしました。得意の変身魔法でこどもをカエルやアヒルに変えようというのです。アジトを決め、きちんとそうじもすませた彼女は意気揚々と村へ向かいます。

「ねぇ、あんたたち。妖精と一緒に空を飛んでみたくない？」

こどもをおびき出し捕らえることくらい、未来の大魔女にはお手の物。大好きな魔法のかけ放題にすっかりご機嫌です。



ところが、少し出かけた間に少女と妖精にアジトを見つけられてしまいました。勝手に入り込んだ上、お説教を始めるのですから頭に来ます。プロセルピナはついに叫びます。

「うるっさーいっ！　あんたも動物にかえちゃうから！」

当然の権利のはずでした。ところが一瞬の隙をつかれ、

後々まで悔しい想いをすることとなったのです。
「さあ、観念しなさい。こどもたちを元の姿に……」
未来の大魔女がこんな生意気な人間に従わなければならないとは、耐え難い屈辱です。アジトを逃げ出しながら、プロセルピナは小さな胸に熱くかたく復讐を誓うのでした。

第2話　材料求めて三千里

懐かしい魔女の小屋に戻ったとたんに、彼女は叫びました。
「オババさま、何かいい仕返しの方法を教えてちょうだい！　あのヘンテコリンなカッコをした子に仕返しするんだから‼」
事情を話すとオババはちょいと首をひねり、知恵を貸してくれました。大人になれば、もっと魔法を使えるようになります。魔法の薬を飲んで大人になるのです。大喜びで野望をふくらませるプロセルピナに、オババは厳かに材料集めを命じました。それはうんざりするくらいたくさんの材料でした。でもこれも修行の一つ。投げ出せません。にっくきあの女のせいで……と闘志をあらたに材料集めの旅に出るのでした。
あるときは、傭兵を救って竜を倒したお礼にドラゴンの肉をもらいました。またあるときは、迷いの森の迷子の女の子を助け出し、しぼりたてのミルクをもらいました。幕場の町に至っては、カボチャのおばけを救うために、お料理集めまでしたのです。精花草の種を譲ってもらうためでした。
なんだか人々を驚かす正しい魔女の道からどんどんはずれていくような気がしますが、プロセルピナは気にしません。今、彼女の心にあるのは復讐の二文字だけなのです。
王国中を東奔西走、ついにすべての材料を揃えたのでした。

第3話　薬よ薬

喜び勇んで小屋へ戻ると、オババはすぐに薬を作ってくれました。飲んでみると、あっというまに大人に変身です。心躍らせながらグラドリエルの姿を捜し求めます。
「見つけたわよ！　魔女のジャマをするとこわいんだから！」
今こそ復讐の時。自分の勝利を信じたプロセルピナは、格段に大きくなった胸を誇示しながら、高笑いを響かせました。
そのときです。なんということでしょう。一瞬にして変身がとけてしまいました。薬の効果が切れたのです。
残酷な運命を嘆くプロセルピナは従者のガブリエルにやつあたりを始めました。見苦しい内輪もめが始まります。
「勝負はおあずけよ。それまで誰にも負けちゃだめだからね。あんたをやっつけるのは、このあたしなんだから！」
従者に逃げられた彼女は、結局、ほうきに乗ってその場を去るよりありませんでした。それからプロセルピナは、大人になる方法を探し続けたのでした……。

第1話

古びた小屋
ガブリエルに案内されて隠れ家を決める
↓
ナッツビル
パン屋でタバサのおかあさんと話す
↓
夜の森で子供を捕まえる
↓
古びた小屋
小屋で動物になった子供と話す
↓
グラドリエルと戦う
↓
グラドリエルに勝つ
↓
爆弾イベント
↓
グラドリエルに負ける
↓
子供をもとに戻す

第2話

魔女の小屋
オババのもとに逃げ、助言をもらう
↓
ドランゴラ
傭兵を助けて戦う
↓ ドラゴンの肉入手
パンプキンハウス
ハロウィーンを救うため料理を集める
↓ 精花草の種入手
ローグローブ
迷いの森で迷子の女の子を助ける
しぼりたてミルク入手

第3話

魔女の小屋
アダルトプロセルピナにしてもらう
↓
グラドリエルと対決

最後の物語



本は全部で5冊。左から、プロセルピナ、グラドリエル、エドワード、ポートガス、そして、一番右の本が最後の物語となっている

グラドリエルの「王冠の姫」、エドワードの「魔の剣」、プロセルピナの「魔法の薬」、ポートガスの「宝の島」。

ひとつの王国をめぐって、4人の若者の数奇な運命を克明に書き記した、これら4冊の本を、すべて読み終えた者だけに与えられる1冊の本がある。

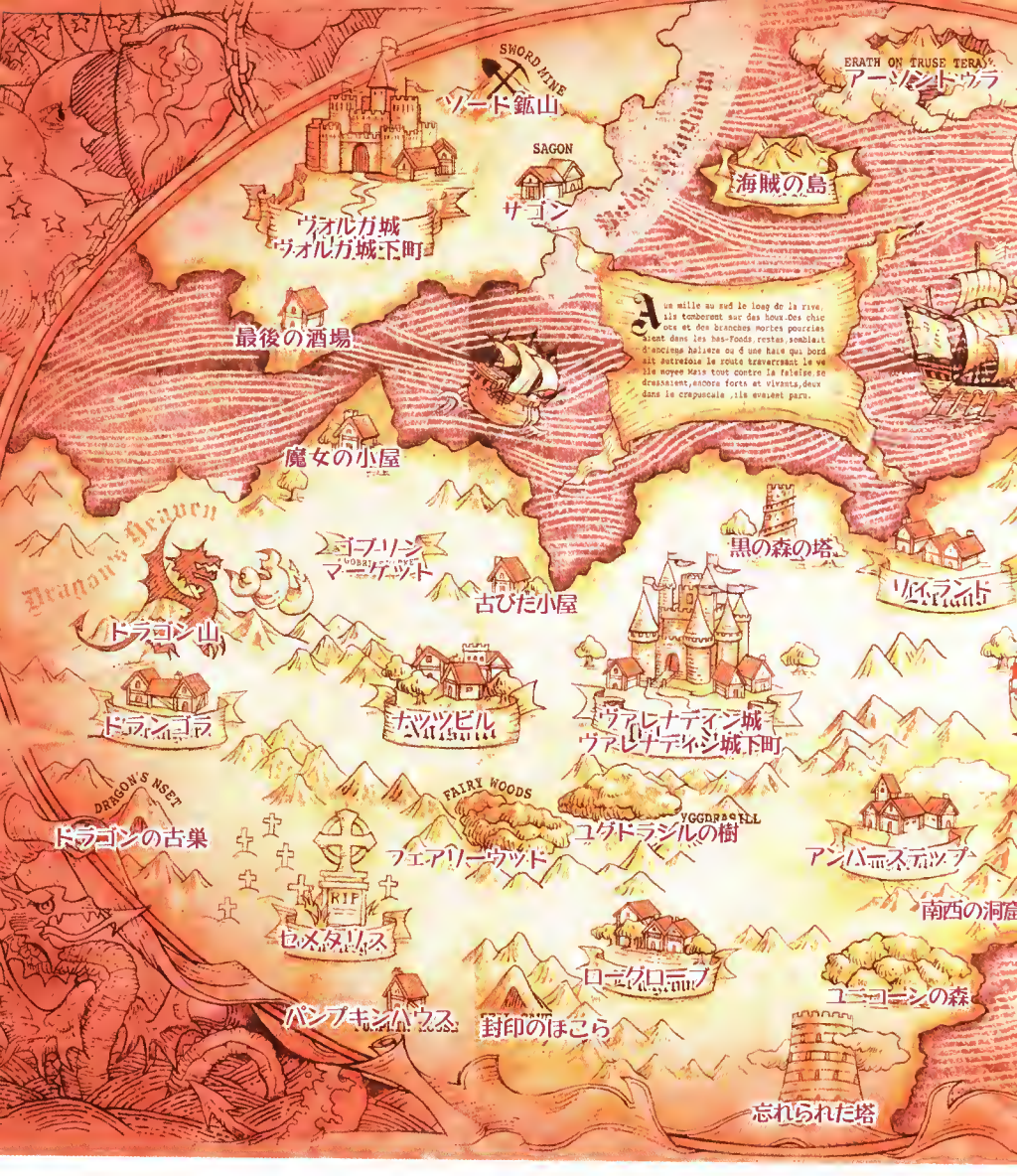
すでに誰からも忘れ去られ、けっして読まれることがなかった幻の書……。美しい装飾が施された、その表紙には「最後の物語」という銘だけが記されているという。

この本を手にしたとき、この物語を真にしめくくる、本当の意味でのエンディングを、見ることができるであろう。

神秘的な景色を背に、魔法石をはさんで向かい合うグラドリエルとハインデル…。果たして、最後の物語とは、一体何なのだろう？




未知なる土地を旅するとき
もっとも頼りになるのは、確かな情報だ。
地形、環境、風土、そして人々の暮らし……。
あらゆる情報を持つことで
体験したことのない危険から
身を守ることができるのである
冒険に出発する前に
ぜひ、このページで土地ごとの
情報を確認してほしい。
Area Guide
【エリアガイド】



ヴァレナディン城 …… 64
ヴォルガ城 …… 66
ヴァレナディン城下町 …… 68
ナッツビル …… 68
古びた小屋 …… 70
ドランゴラ …… 70
魔女の小屋 …… 71
ゴブリンマーケット …… 72
セメタリス …… 72
ローグロープ …… 74
アンバーステップ …… 74
カドゥ・バドゥ …… 76
ティタニア湖 …… 78
リィランド …… 78
パンプキンハウス …… 79
ネルト …… 80
ドワーフ王国 …… 80
カエルの村 …… 82
サゴン …… 82
ヴォルガ城下町 …… 84
最後の酒場 …… 84
ユグドラシルの樹 …… 88
ドラゴンの古巣 …… 89
封印のほこら …… 90
忘れられた塔 …… 91
南西の洞窟 …… 92
黒の森の塔 …… 93
画家の館 …… 94
南東の洞窟 …… 95
魔の森の塔 …… 96
ドンファンの隠れ家 …… 97
神託の洞窟 …… 98
海辺の洞窟 …… 99
魔界への入口 …… 100
魔王の塔 …… 101
ソード鉱山 …… 102
いにしえの洞窟 …… 103
宝島の洞窟 …… 104
騎士の試練場 …… 105
迷いの森 …… 106
戦士のダンジョン …… 107
魔術師のダンジョン …… 108

光の女神ガイアの守護の下
繁栄を約束された聖なる大地ヴァレンディア
その姉妹ヴォルガ
そして、混沌を呼ぶ闇の神ラルヴァの地への入口
アーソントゥラ――全景





ページの見方

エリアガイドは、2つの城と、人々との出会いがあるタウンエリア、戦闘が展開されるダンジョンやその他の場所で構成されるバトルエリアの3つに分かれています。

ページ構成には、主に会話によってストーリーが展開タウンエリア系と、行く手を妨げるモンスターを倒しつつ目的地までたどり着いてボスと戦うバトルエリア系の2種類があります。

タウンエリア系



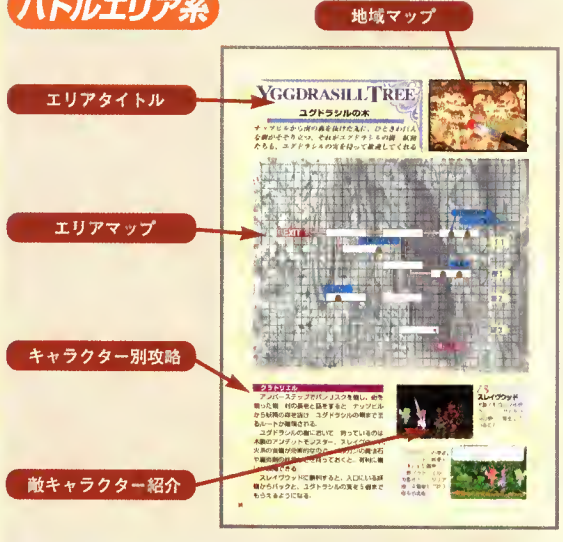
タウンエリア系・バトルエリア系とも、主としてエリアタイトル、地域マップとエリアマップ、キャラクター別攻略、敵キャラクター紹介の5つの共通要素で構成される。

攻略のときにもっとも重要となるキャラクター別攻略はキャラクターごとに分かれており、ポイントとなる場所や名前の色は、エリアマップに表示されている色と対応している。

またタウンエリアには、バトルエリアにはない独自の構成要素として、名物紹介とショップデータの２つがある。

これらは、人々との交流がメインとなるタウンエリアで、その街で手に入れることのできる食べ物やアイテム情報として役立つ。

バトルエリア系





王国の秩序と権威を象徴する城。
戦士、魔術師、商人、司祭、予言者など
各地から様々な人が集い、あらゆる情報が飛び交う……
その姿は、さながらひとつの町である。

VALENADINE CASTLE

——ヴァレナディン城——

光の女神ガイアの守護を受け、繁栄を約束された民を先導する女王が住まう城、ヴァレナディン。幾度も戦乱をくぐり抜けてきた城であり、その守りは堅固であるが、その姿は壮麗だ。いまの城の主は、弱冠13歳で王位を継いだグラドリエル女王陛下である



4F



3F



2F

BATTLE POINT エドワードVSゴースト（エドワード第5話）



1F



城門



BATTLE POINT グラドリエルVSグリフォン(第3章第1話)
エドワードVSデーモン（エドワード第5話）

グラドリエル

グラドリエル編のスタートであり、また最後となる場所。途中でも、物語の起点となる。

■第1章第1話
①両姉姫エリエル、シドラエルの部屋を訪れ会話する
②門番に呼び止められる。その後、アーリアと出会う。

■第1章第7話前半
①帰城すると城門で門番に出迎えられ、謁見の間ジェストナイのもとへ向かう。

FREEイベント『騎士の試練』
①ジェストナイとの会話後、黒の森へいくまでに、中庭のカード騎士と会話する。
②その後、地下ダンジョンへの入口が開く。

■第1章第7話後半
①城内に突入後、3階へ。
②最上階へ上がり、スカルグを打ち破る。
③シドラエルの部屋へ向かう。

■第2章第1話
①入口でエドワードと会う。
②ジェストナイの部屋へ赴く。

■第2章第6話
①城の2階へ上がる。
②謁見の間で悪のゴルゴダと対決、打ち破る。
③ジェストナイの部屋へ行き、時空の魔法石を受け取る。
④4階、右端の客室に入る

■第3章第1話
城門でグリフォンを倒す。

■第3章第6話
①謁見の間でリヨンと対決。
②魔法陣から異空間へ向かう。

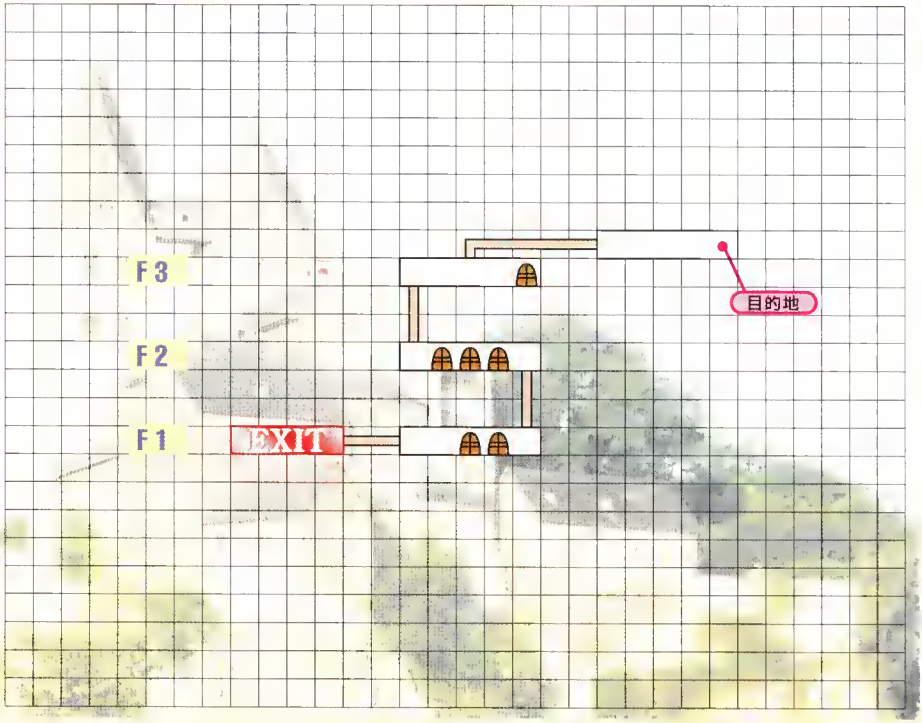


VORGA CASTLE

—— ヴォルガ城 ——

ヴァレナディンより北へ、大海を渡った国ヴォルガ。ヴァレナディンと双璧をなす、光の女神ガイアに加護を受けた国であり、その国の中心となる城である





グラドリエル

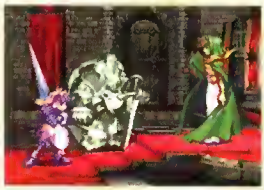
ヴォルガ城が舞台となるのは、まさしく終盤の山場。魔王ヴォーグロドを倒し、再度魔王の塔を登りリヨンの野心の全貌が明らかになった後だ。ここに至るには、リィランドよりポートガスの船によりサゴンへ渡航する。その後、サゴンにてヴォルガ兵士より、城までの抜け道を聞き、ソード鉱山を経て入城する。

■第3章第4話、第5話

①入城後、謁見の間へ。

②夢の世界で悪のグラドリエルと対決する。

③謁見の間でジャディスと会話後、ヴァレンディアへの帰途に着く。

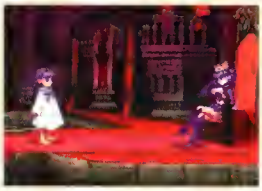


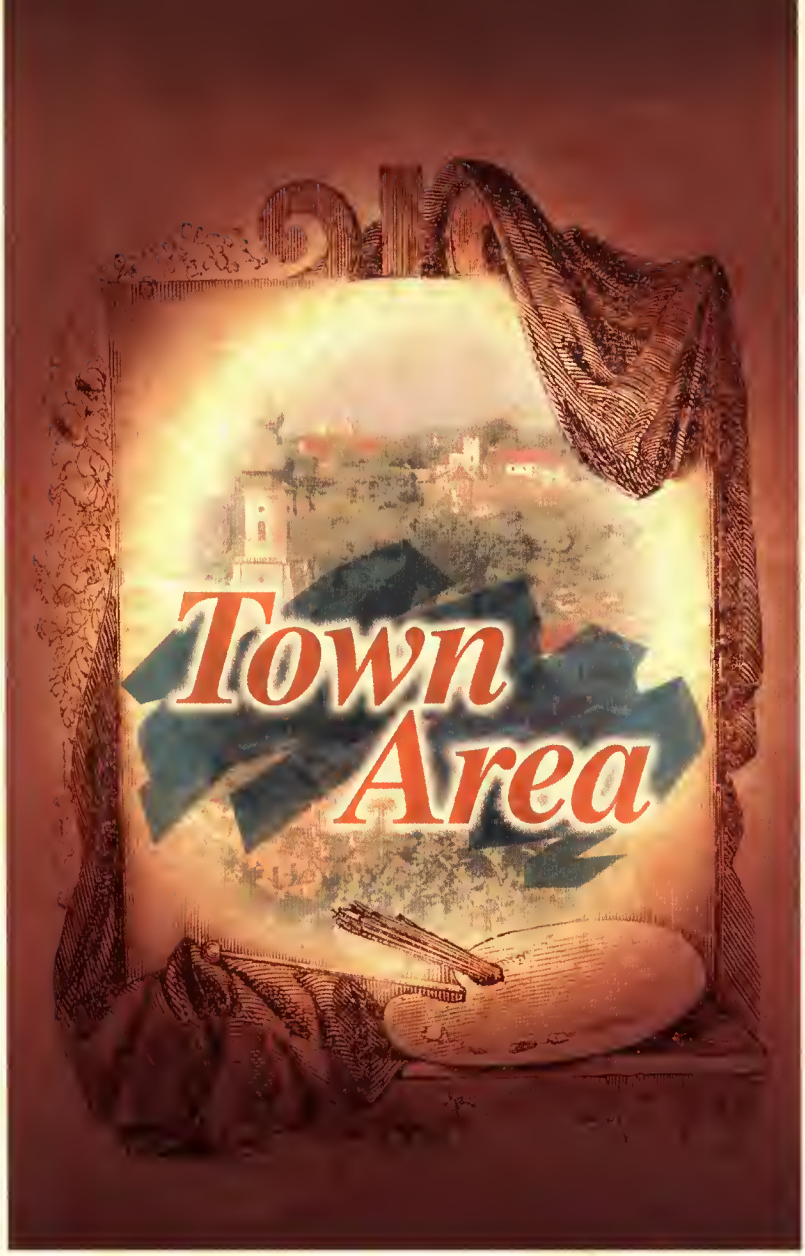
最上階の謁見の間では、グラドリエルの祖父ジャディスとリヨンが対峙している

VS

悪のグラドリエル

夢の世界でグラドリエルと、グラドリエルの闇部の化身が戦うことになる





人々が暮らし、行き交う街道の宿となる街……
冒険を彩る重要なポイントだ。
ここでは、そんな街などをふくめ、人が集う場所をタウンエリアとして紹介する。
各街では、名物料理やアイテムの紹介をはじめ、
街で発生するイベントや、会話を聞く人の位置など克明に掲載している

VALENADINE CITY

——ヴァレナディン城下町——

ヴァレンディア王国の中心地、それがここヴァレナディン城下町。通りから北を見れば、女王さまが住まうヴァレナディン城がおごそかにそびえている。天気がいい日には、城のバルコニーから姫さまたちがお姿を見せてくれる、そんなにぎやかな街である



SPECIAL PRODUCT



おべんとパン

焼き立てサクサクのパンに、ドードーの半熟たまごをトローリと！

PRICE 40G



NUTSBILL

——ナッツビル——

ヴァレナディン城下から西へ行った豊かな森のなか、静かにたたずむ農村…、それがナッツビルだ。村の中には、放し飼いにされたアヒルやヒヨコがあふれる穏和な村である。南の森には妖精もいるのといわれ、幸運な旅行者はその姿を見られるかもしれない



SPECIAL PRODUCT



果物のケーキ

ブランデーにつけ込んだ果物を、ふんだんに使った自家製ケーキ！

PRICE 16G



グラドリエル

旅に出て最初の街。ヴァレナディン城への通過点であり、たびたびこの街には足を踏み入れる。魔物が城を襲撃したさいには、被害がこの街までおよぶ。また、25年前の世界でも立ち寄る街だ。

■第2章第6話

①街のすべての人と話をする。

②ヴァレナディン城への入り口へ行く。すると青年が、城の危機を告げ、城へ行くことができるようになる。

FREEイベント『さすらいの吟遊詩人』

①街のナッツビル側の入口にいる、吟遊詩人と話す。

②楽譜の切れはし Ⅰ Ⅱ Ⅲ（P89、90、80）を集め、吟遊詩人に渡す。

エドワード

ブラックドラゴンとの戦闘後、城の窮地に駆けつける。

FREEイベント『ヴァレナデンの娘』

城下町で娘を助ける。城で悪魔を倒したのち話しかけると、バッグがもらえる。

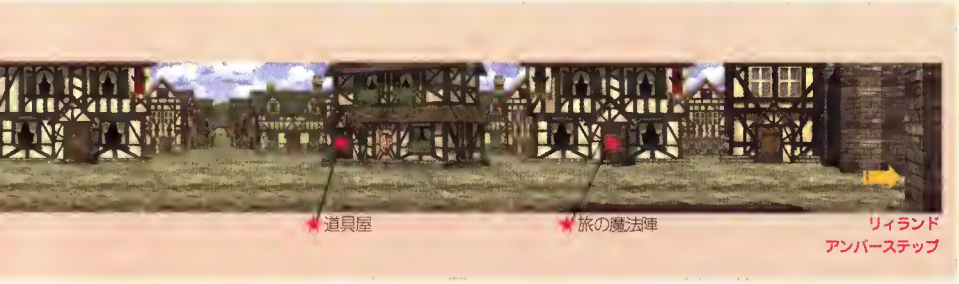
FREEイベント『ありがとうドラゴンスープ』

瀕死の青年にドラゴンスープを飲ませる。

SHOP DATA

道具屋

ハートの実	10G
装備強化の呪文	30G
料理のスパイス +1	4G
スープのもと +1	4G
戦士のグローブ +1	80G
まばたきのブーツ +1	92G



SHOP DATA

道具屋

ハートの実	10G
装備強化の呪文	30G
飛行石の指輪 +1	98G
呪い破りの呪文	40G
魔法のキノコ	14G
料理のスパイス +1	4G





ヴァレナディン城下町
フェアリーウッド
（ユグドラシルの樹）

グラドリエル

ナッツビルまでは、ヴァレナディン城下町で老人に道を教えてもらうこともできる。

■第1章第2話

①村の西側にいる、太ったパン屋の主人と話す。

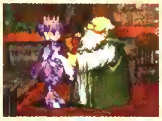
②村の右手から出て、妖精の森へ行き、妖精と話す。

③村を経由し左手から行けるようになった、北の森にある古びた小屋へ向かう。

④古びた小屋でプロセルピナと対決し、打ち破る。

⑤村の右手から、再び妖精の森へ行き、妖精と話す。

⑥村長の家を訪ね、村長と話をする。



ドランゴラへは行くなと言われるが…

プロセルピナ

アジトとなる古びた小屋を手にいれた後、子どもをさらいにやってくる。その後は、当然のごとく、2度とこの地に足を踏み入れることはない。

■第1話

①パン屋で店を切り回しているおばさんに話しかけ、娘のタバサに関する情報を聞く。

②井戸のまわりで遊んでいるタバサとニルスに話しかける。



パン屋でおばさんに話しかけると、タバサが遊びに行っていることを教えてくれる

WORN HUT

―― 古びた小屋 ――



ナッツビルから北へ上った森の中に、小さな古びた小屋がある。この小屋には、いままで誰も住んでいなかった。でも、どうやらいまは、小さな赤い魔女が居座り、アジトとして使っているようだ……

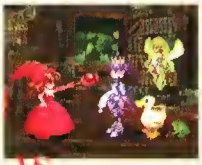
グラドリエル

妖精の森で、妖精にナッツビルからの道を教えてもらえば、ルートが開く。

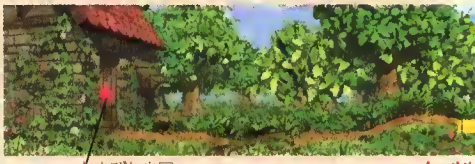
プロセルピナ

ゴブリンマーケットの東端にたどり着くと、従者のガブリエルがこの小屋へ導いてくれる。

VS プロセルピナ



VS グラドリエル



★古びた小屋　ナッツビ



ニルスとタバサ

小屋の外へ

BATTLE POINT グラドリエルvsプロセルピナ（第1章第2話）（プロセルピナ第1話）

DORANGORA

―― ドランゴラ ――



ヴァレンディアのもっとも西にあり、荒れ果てた山谷に囲まれた町ドランゴラ。ドラゴンたちの住む荒れ果てた山、ドラゴンズヘブンが近くにそびえる。ドラゴン見たさ、恐いもの知らずのあなたには、一見の価値あり。食事はぜひグリル肉をご賞味あれ！

SPECIAL PRODUCT



グリルにく

ガーリック味で外はカリッとこうばしく、中はとってもジューシー

PRICE 52G



ドラゴン山

★酒場＆宿屋

BATTLE POINT グラドリエルvsドラゴン（第1章第2話）エドワードvsドラゴン（エドワード第4話）

★おばさ

WITCH'S HOUSE
——魔女の小屋——

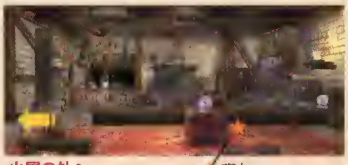
ゴブリンマーケットを抜けると、昼でも薄暗い森があらわれる。その森にある小屋が、大魔女のオババが経営するマジックショップだ。ただ、ここで共に暮らす、いたずら好きの小さな魔女には要注意！

SHOP DATA

いてつく指輪 +1	80G
ゴム化の呪文	40G
復元の呪文	50G
ゴブリンの杖	96G
風神の杖	88G
マナのしずく	50G







グラドリエル

ドランゴラの酒場で、傭兵の話を聞くとルートが開く。

プロセルピナ

集めてくる魔法の薬の材料の集積場。オババに話しかければ、袋の材料を引き取ってくれる。



小屋に入ると、オババが出迎えてくれる

グラドリエル

ナッツビルでプロセルピナの悪戯を阻止したのち、村長と話をすれば、ドランゴラへ行けるようになる。

SHOP DATA

料理のスパイス +1	4G
スープのもと +1	4G
マナのしずく	50G
手投げオノ +3	12G
天使のブーツ +1	94G
エリクシルの実	10G

■第1章第3話

①村の若者から、ドランゴがすむ山の情報を得る。

②ドラゴン山へ向かい、ドラゴンと遭遇する。

③村に戻り、村を襲う手負いのドラゴンから少女を救う。

FREEイベント『**いてつく指輪**』

ドラゴン山へ行く前に、酒場で傭兵と会話する。すると、魔女の小屋の情報を得れ、魔女の小屋で凍てつく指輪を購入することができる。

FREEイベント『**ドラゴンの古巣**』

ドラゴンを退治した後、おばさんと会話すると、セメタリスへ行く途中にある、ドラゴンの古巣へ行けるようになる。

エドワード

カドゥ・バドゥでイベント終了後、ルートが開く。

■第1話

①村の若者から、ドラゴンがすむ山の情報を得る。

②ドラゴン山へ行き、ドラゴンと戦うグラドリエルを救う。

③村に戻り、村を襲うドラゴンを倒す。

プロセルピナ

ナッツビルでの作戦が失敗した後、オババのもとへもどると、ルートが開かれる。

①村の若者から、ドラゴンがすむ山の情報を得る。

②ドラゴン山へ行き、傭兵を救う。2回傭兵と話し、ドラゴンの肉を2個手に入れる。



GOBLIN MARKET

——ゴブリンマーケット——

ナッツビルとドランゴラを結ぶ街道の途中から北に向かう道を折れると、ゴブリンたちが商いにいそしむマーケットをのぞくことができる。薄暗い森のなかで飛び回るゴブリンたち。でも、素人が安易に近づくと、売られてしまうかもしれないので要注意だ



SPECIAL PRODUCT



ゴブリンジュース
ふしぎな果実と秘密の粉をじっくりと煮込んだ甘くて苦い逸品
PRICE 26G



CEMETERYTH

——セメタリス——

ドランゴラとローグロープの中間に位置し、いつも闇で染められている町、セメタリス。墓場の町とも言われ、赤い月光に照らされた墓碑が寒々しい。しかし、この町の唯一の住人であるエサソン司祭は、旅の者に対しても、神の祝福を分け与えてくれるのだ





BATTLE POINT グラドリエルvsボルターガイスト（FREEイベント）

SHOP DATA

ハートの実	10G
壊れたフライパン	2G
壊れた料理なべ	2G
空きビン	2G
メッキの呪文	？G

グラドリエルのみFREEイベント後100G



グラドリエル

ドランゴラで酒場の傭兵と会話し、魔女の小屋へのルートが開いたとき。もしくは、アンバーステップで石化したリヨンと話した時に、ここまでのルートが開かれる。

FREEイベント『メッキの呪文を取り返せ』

①道具屋に行き、メッキの呪文を返せと迫る。

②外に出て、戦闘。ゴブリンを打ちまかす。



★謎の店　街道へ

プロセルピナ

魔女の小屋からの通過点であり、最初から行ける場所だ。

■第1話

ナッツビルで子どもを捕らえ動物に変えた後、謎の店でゴブリンジュースを買う。

FREEイベント『エクストラバッグ』

バッグを買うことができる。



ゴブリンたちも、趣味でアイテムを拾っていただけじゃなく、ちゃんと商売をしていたんだね。しかも、自主流通で！

SHOP DATA

エリクシルの実	20G
マナのしずく	50G
聖水	18G
呪い破りの呪文	40G
神聖なる紋章	100G
精花草の種	20G



グラドリエル

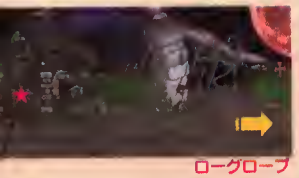
ドランゴラでドラゴンを退治すると、ローグロープまで開かれるルート上に存在する。

FREEイベント『セメタリスのゴースト』

①ローグロープを抜けたところにある森で、ユニコーンを助けたのち、セメタリスを逃げ出した司祭エサソンと話す。

②すると、セメタリスの町の中央付近に、ポルターガイストがあらわれる。このポルターガイストを打ち破る。

③ポルターガイストを倒すと、彼にとらわれていたゴーストのハロウィーンがあらわれ、パンプキンハウスへの道が開かれる。



道具屋

ローグロープ

パンプキンハウス

(エドワード)カドゥ・バドゥ

VS ポルターガイスト

ポルターガイストとの対決は、直接ストーリーに関係する物語ではない。ただ、ポルターガイストを倒すとアンデッド系に有効なアイテムが、司祭エサソンから買えるようになる



LOWGROVE

——ローグローブ——



ヴァレナディンのほぼ真南に位置するのが、ローグローブという豊かな森林に囲まれたのどかな村である。人なつっこいヤギの牧場や、村の中央を流れる小川に、疲れた体も癒せるだろう。また村は、古くから伝わる森を護る聖獣の伝説と共に暮らしている

SPECIAL PRODUCT



おべんとパン

ハーブの香りのヘルシーなパンに、塩こしょうした半熟たまごのせ

PRICE 40G



AMBERSTEP

——アンバーステップ——



ヴァレナディン城より南へ下ったところにある砂漠の村、アンバーステップ。村の北側には砂漠地帯が広がり、そこからは乾燥した風が絶え間なく吹きつけ、村中を砂埃が覆う。貴重な水源である井戸はひとつしかないので、水分を補給できるものが必要だ

SPECIAL PRODUCT



やきもろこし

とれたてのあま〜いとうもろこしを、特性のタレにつけて焼いた！

PRICE 44G



グラドリエル

ドランゴラでドラゴンを倒した後、ローグローブまでのルートは確保される。

■第1章第4話

①若者から、村の右手から続く、ユニコーンの森についての情報を得る。
②ユニコーンの森で、ゴブリンからユニコーンを助ける。
③森の奥で捕まっている、ユニコーンの子どもを、赤い髪の毛をした魔女から救うタランチュラと戦う。

FREEイベント『ゴブリンのいたずら』

①男の子から牧場のゴブリンの話を聞く。
②牧場の奥でゴブリンを倒す。
③牧場の少女がバッグをくれる。

FREEイベント『セメタリスのゴースト』

①ユニコーンの親子を助けたのち、小さな女の子と話す。
②民家でセメタリスから逃げてきた司祭と話をする。
③セメタリスへ行き、ポルターガイストを倒す。

プロセルピナ

ローグローブへの道は、グラドリエルとの戦いの後、オババに会いに行った時点で、ルートが確保される。

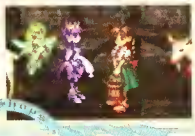
■第2話

①山羊の小屋で女の子から、妹が戻らないことを聞く。
②あばあさんと話し、迷いの森の場所を知る。
③迷いの森へ行き、マイコニドを倒して、女の子を助ける。
④山羊の小屋へ行き、しぼりたてミルクをもらう。



SHOP DATA

しぼりたてミルク…… 24G



グラドリエル

ローグローブでユニコーンの親子を、助けた時点で、ここまでの道は開かれる。

■第1章第5話

①酒場に入り、唯一の生存者である幼い少女に会う。
②砂漠地帯に入り、石化されたリヨンに会う。
③砂漠地帯の奥へ進み、バジリスクを倒す（苦戦するものの、メッキの呪文なしでも、バジリスクは倒せます）。

FREEイベント『メッキの呪文を取り戻せ』

①リヨンの話を聞く。
②ゴブリンマーケットへ行く。
③道具屋で、メッキの呪文の返却を強く求める。
④店の外でゴブリンを倒し、メッキの呪文を取り返す。

FREEイベント『ユグドラシル』

①バジリスク撃破後、村長からユグドラシルの話を聞く。
②妖精の森を抜け、ユグドラシルの樹まで行く。
③ダンジョンで、スレイヴウッドと戦い打ち破る。
④樹の前にいる妖精の所まで戻ると、バッグと、ユグドラシルの実が手に入る。





宿屋にいる唯一の生存者。彼女は宿屋の代わりに、体力回復とセーブを行なってくれる



VS バジリスク

石化を防ぐ、メッキの呪文があれば、苦労せずに倒せる。なくても、力技で倒せないことはない

CADHO・BADHO

――カドゥ・バドゥ――

戦士、魔術師、商人の3つエリアからなるヴァレンディア王国最大の町、それがカドゥ・バドゥである。それぞれの名所といえば、戦士のエリアでは剣の石像、魔術師のエリアなら杖の石像の歴史ある建造物。商人のエリアなら、中央の美しい噴水広場だろう





グラドリエル

アンバーステップでバジリスクを倒せば、カドゥ・バドゥへの道は開く。

■第1章第5話

①商人エリアで男の子と話し、ティタニア湖の怪物話を聞く。
②魔術師エリアから、ティタニア湖へ向かいエドワードそして人魚と話す。
③カドゥ・バドゥへ戻り、商人エリアと魔術師エリアを結ぶルートで、商人親子の話を立ち聞きする。
④戦士と商人エリアを結ぶルートで、盗賊2人組と出会う。

デブ盗賊を追い商人エリアへ

⑤左端にいる商人の男と会話をし、チビがハンサムに変身したことを聞く。
⑥道具屋の前に立っている、長の娘と会話し、空き家へ男が入っていったことを聞く。
⑦空き家で男を問いつめ、真犯人のアジトを聞く。そうすると、南西の洞窟へのルートが開く。

ノッポ盗賊を追い戦士エリアへ

⑤幼い女の子からノッポが女の子に変身したことを聞く。
⑥銀の剣亭で飲んでいる男から、男のような声の女の子の話を聞く
⑦戦士エリアの右端にいる女の子に話しかけ、裏路地に追いつめ問いただす。そして、南西の洞窟へのルートが開く。

FREEイベント『商人ギルド』

①ヴァレナディンがデーモンに襲われたあと、商人の長の娘と話をする。
②ドワーフ王国でメイトを探し、話しかける。その後の二者択一で、心当たりがあるを選ぶ。
③カドゥ・バドゥへもどり、商人の長の娘と再び話をする。
④秘密の店の前にいる店の番人に話をすると、店に入れてくれるようになる。

FREEイベント『盗賊団』

①魔術師のエリアで魔法学校へ行き生徒と話し、そして、先生に話しかける。
②民家のオウムに話しかける。
③ネルトへ行き酒場の男に話しかけ、不

SPECIAL PRODUCT
戦士エリア　銀の剣亭



おべんとパン

両面を焼いた卵を、サクサクパンにのせ、手作りバターで仕上げた

PRICE　40G

SPECIAL PRODUCT
商人エリア　秘密の店



ハンバーガー

ジューシーなハンバーグを手作りパンではさんだ逸品

PRICE　24G

SHOP DATA

道具屋（魔術師エリア）

魔法のキノコ	14G
マナのしずく	50G
魔女の杖	132G
魔導師の杖	120G
呪い破りの呪文	40G
非常口の呪文	60G

道具屋（商人エリア）

エリクシルの実	20G
フライパン	40G
薬花草の種	16G
非常口の呪文	60G
幸運のペンダント +1	82G
オウガのグローブ +1	84G

秘密の店（商人エリア）

ハートの実	10G
ルビー	60G
分身の呪文	56G
魔炎剣の呪文	48G
銀のガントレット +1	88G
力持ちの薬 +1	1G



審な人物の情報を得る。
④ネルトの奥へ行き、隠れ家の盗賊を倒しかたみの指輪を得る。
⑤魔法学校へ戻り、指輪を渡す。
⑥アタックドロップをもらえる。

FREEイベント『戦士と魔術師のダンジョン』
①戦士エリアにいる兵士と話す。
②剣の石像のところに出現した入口からダンジョンに入りゴーストを倒す。
③魔女エリアにいる魔術師と話す。
④杖の石像のところに出現した入口からダンジョンに入り、ゴーストを倒すと、ユニットドロップが手にはいる。

エドワード

カドゥ・バドゥはスタート時の町である。攻略のポイントは、酒場にいる戦士の長への会話だ。

■第3話
①銀の剣亭に行き、戦士の長へ話しかける。そして、ティタニア湖の調査依頼を受け湖へ行き、バーバリアンにやられた後、人魚のオンディーヌに会う。
③ティタニア湖の出口で、タランチュラと戦い、撃破する。
④カドゥ・バドゥへ行き、銀の剣亭で事情を戦士の長に話す。
⑤ティタニア湖にもどり、オンディーヌに結果を知らせる。そこへあらわれるグラドリエルを説得し、オンディーヌの守備につく。その後、ティタニア湖を急襲する偽のグラドリエルを倒す。
⑥三度、カドゥ・バドゥへ行き、銀の剣亭で戦士の長に結果を報告する。すると、報酬としてバッグを一つもらい、北のネルトへのルートが開く。

ポートガス

FREEイベント『バッグ購入』
商人エリアにいる男と話すと、エクストラ・バッグを売ってくれる。

プロセルピナ

FREEイベント『精花草の種』
商人エリアの秘密の店の前にいる男と話すと、精花草の種をとても高価な値段で売ってくれる。

TITANIA LAKE
——ティタニア湖——

カドゥ・バドゥの南東にある、美しい湖がティタニア湖だ。若者たちの絶好のデートスポットであり、運が良ければ、湖に住む人魚に会えるだろう



グラドリエル

カドゥ・バドゥの商人エリアにいる男の子と話すと、ルートが開かれる。

■第1章第5話

エドワードとの戦いの後、洞窟の奥にいるオンディーヌと話す。

FREEイベント『南東の洞窟』

オンディーヌへ事件の真相の報告後、再度オンディーヌに話しかける。すると、南東の洞窟へのルートが開かれる。

エドワード

カドゥ・バドゥの戦士エリアにある酒場で、戦士の長と話をすると、湖に行ける。



カドゥ・バドゥ 魔術師エリア

BATTLE POINT
- エドワードVS偽グラドリエル（エドワード第3話）
- エドワードVSバーバリアン（エドワード第3話）
- エドワードVSタランチュラ（エドワード第3話）

洞窟の内へ



洞窟の外へ

オンディーヌ

LEELAND
——リィランド——

ヴァレナディン大陸の北に広がる大海を一望できる港町、それがリィランドだ。北方のヴォルガ王国からの珍しい物品が集まってくるこの街は、異国情緒にあふれている。青い海から飛んでくるカモメの下、観光船フリードルフィン号で遊覧してはいかが？



SPECIAL PRODUCT



やきざかな

活きのいい魚を、ピリリとしたスパイスで焼いた。ライムで食べる

PRICE 48G



ヴァレナディン城下町

道具屋

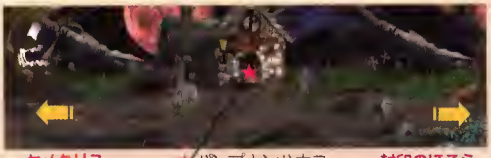
港へ

トロントの酒場 & 宿屋

PUMPKIN HOUSE
——パンプキンハウス——

墓場の町セメタリスから南東へ。パンプキンハウスは墓場にある酒場だ。きっと、集っているゴーストたちが旅人を陽気に迎えてくれるだろう





セメタリス　★パンプキンハウス　封印のほこら



外へ

SPECIAL PRODUCT



やきもろこし
バーベキューソースにつけ込んだあつあつの品。しょう油が隠し味
PRICE　44G

グラドリエル

セメタリスでポルターガイストを退治すると、パンプキンハウスの主人ハロウィーンを助けることになる。そして、ここまでの道が開かれる。

プロセルピナ

ここまでの道は、オババに試練を与えられた時点で、開かれている。

■第2話

パンプキンハウスで、ハロウィーンが捕まっている情報を得る。すると、封印のほこらへ行けるようになる。

SHOP DATA

道具屋 海賊退治前

ハートの実	10G
精花草の種	20G
振り返りの呪文	54G
銀のガントレット (+1)	88G

海賊退治後

呪い破りの呪文	40G
マナのしずく	50G
装備強化の呪文	30G
金のガントレット (+1)	100G

グラドリエル

人魚を救うイベントをクリアすると同時にルートが開く。

■第1章第6話

①港へ行くと強制的に、観光船に乗せられてしまう。
②海賊ポートガスに拿捕され、海賊島へ。
③海賊島で捕まった人質、若いカップル、船員を助ける。
④本物のポートガスの協力のもと、偽ポートガスを倒す。

■第2章第3話

①港の船乗りから、仲間が無実の罪で捕まったことを聞く。しかも、町外れの画家が怪しいという情報も得る。
②画家の館へ行き、画家の正体ドッペルゲンガーと戦う。すると、港からアーソントゥラへ行けるようになる。

■第3章第3話

①港に行き、フリードルフィン号で、ヴォルガを目指す。
②遭難後、港でポートガスの協力を得、再度出航する。

ポートガス

このリィランドが旅立ちの街となる。基本的にこの港を中心行動している。そのため、グラドリエル編では、このリィランドで再三遭遇する。

■第1話

準備を整え、港へ向かう。



画家の館　カドゥ・バドゥ商人エリア

KNELT

——ネルト——

ヴァレンディア王国の東の果てにある村が、このネルトである。村から先には岩山が連なるだけで、目をひく名所も少ない。ただ、馬の名産地であり、馬なしでは生活できないといわれるほど、馬が多い村である。乗馬を習うためこの村を訪れるのも一興だ



SPECIAL PRODUCT



グリルにく

ネルト産の肉の塊をしっくりグリルし、ヒリリとこしょうで味付け

PRICE 52G



DWARF LAND

——ドワーフ王国——

大陸最大の街カドゥ・バドゥから、最果ての村ネルトへと行く間に位置するドワーフ王国。洞窟に働き者の鉱夫、ドワーフたちが住む国だ。鉱山からは質のいい宝石が掘り出され、国では細工された宝石を売っている。誰もが一度は訪れたいと願う町である

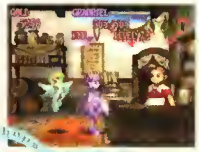




SHOP DATA

道具屋

ハートの実	10G
マナのしずく	50G
料理のスパイス (+3)	10G
スープのもと (+3)	10G
装備強化の呪文	30G
やけつく指輪 (+1)	80G



グラドリエル

ネルトへは、ヴァレナディン城がスカルグ率いるデーモン軍に襲われ、シドラエルがさらわれたあとルートが開かれ、行けるようになる。

■第2章第4話

エドワードを生き返らせたいという願いに、ユニコーンはグラドリエルをネルトへ連れてきて、村の西から神託の洞窟へ至る道を教える。

FREEイベント『**盗賊団**』

①カドゥ・バドゥの魔術師エリア、魔法学校で先生と話し、戦士エリアのオウムから情報を得る。するとネルトへの道が開かれる。

②酒場でおじさんから町の奥の情報を聞くと、ドンファンの隠れ家へ行けるようになる。

③ドンファンの隠れ家で、盗賊を一網打尽にやっつける。

FREEイベント『**ドジな魔術師**』

①魔術師の家を訪ねると、魔術師がカエルになっている。

②葉がとがった草を渡す。もしくは、ドワーフ王国への道の途中に、ハーブの草原へのルートが開く。そこで、葉がとがった草を採取する。

③楽譜の切れはしⅢが、もらえる。



旅の魔法陣

ドワーフ王国

(エドワード)カドゥ・バドゥ

グラドリエル

ドワーフ王国へのルートは、ヴァレナディン城がデーモン軍に襲われたあと開かれる。

■第2章第5話

①神託の洞窟でハインデルに会う。するとドワーフ王国の鉱山に、タランチュラが巣くってしまう。

②王の館へ行きドワーフ王と話し、タランチュラ退治を引き受ける。

③退治後、ドワーフ王と会話し、大地の魔法石をもらう。

FREEイベント『**ドワーフ王の頼み**』

①魔王を倒した後、ドワーフ王国へいき、国王からトロッコチェイス場を魔女っ子に占領されたことを聞く。

②トロッコチェイス場で、魔女っ子プロセルピナを倒す。

③ドワーフ王に話しかけ、剣を鍛え直してもらい、攻撃力を上げてもらう。

SHOP DATA

宝石屋

バルカンの魔法石 (+3)	100G
ツンドラの魔法石 (+3)	112G
トールの魔法石 (+3)	104G
ゴルゴンの魔法石 (+3)	108G
星々の魔法石 (+3)	116G
聖なる魔法石 +3	120G



トロッコチェイス場へ

宝石屋

魔の森の塔

FROGOER POND

——カエルの村——

カドゥ・バドゥの東南にあるこの村は、フロッガーたちのたまり場。彼らが呼び寄せる雨によって、うっそうとした森には湿気が充満している。両棲類が苦手という旅人にはちょっと酷だろうが、ここのフロッガーは温和なので、安心して立ち寄ってほしい





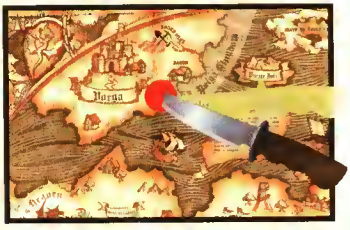
カドゥ・バドゥ
魔術師エリア

宿屋

SAGON

——サゴン——

北の大陸、ヴォルガ王国の玄関的存在である港町サゴン。ヴァレンディア王国のリィランドと結んでいる貿易関係により、交易も盛んで街も賑わっている。異国の町から見渡す海に、つい遥か彼方にある故郷を思い出してしまうヴァレンディア人も多いとか…



SPECIAL PRODUCT



やきざかな
北方の海にいる新鮮な魚を香辛料で香ばしく焼き、レモンで食べる
PRICE 48G



ヴォルガ城下町
ソード鉱山

魔法屋

BATTLE POINT グラドリエルVSカオティックアイ（第3章第3話）

グラドリエル

カドゥ・バドゥで盗賊団のイベントが発生した時点か、ユニコーンによってネルトへ運ばれた時点で、カエルの村へのルートは確保される。

FREEイベント『**フロッガーの憂鬱**』

①リィランドのドッペルゲンガーによる絵描きの事件を解決したのち、カエルの村にやってくる。そして、カエルから森に毒をまき散らし、食料となる虫を殺すマイコニドの情報を手に入れる。

②マイコニドの森へ行き、マイコニドとの戦闘で打ち勝つ。



VS
マイコニド

③カエルの村に虫がもどり、カエルに話しかけると、お礼にいにしえのカギをもらう。

④いにしえのカギで、パンプキンハウスの先にある封印のほこらに入り、楽譜の切れはしⅡを手に入れられる。

⑤楽譜Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを手に入れ、ヴァレナディン城下町にいる吟遊詩人に渡すと、キュアドロップが手に入る。

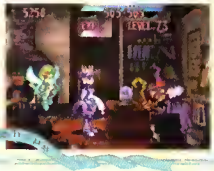


ドワーフ王国
ひだまりの森

SHOP DATA

魔法屋

呪い破りの呪文	40G
非常口の呪文	60G
聖なる魔法石	120G
復元の呪文	50G
呪術師の杖	98G
魔導師の杖	120G



グラドリエル

魔王ヴォーグロドを倒した後、リィランドからポートガスの協力で、セイレーンを倒しつつ海を渡ってたどり着く。

■第3章第4話

①サゴンにたどり着くと、ポートガスのはからいで、宿屋に向かい一泊する。

②一泊後、サゴンの街でネクロサマンサと遭遇。彼女が召喚したカオティックアイと戦闘になる。

③戦闘に勝利すると、ネクロサマンサの退却と入れ替えに、ヴォルガの兵士が出現。グラドリエルはヴォルガ城へ行くための抜け道の情報を得る。

④ソード鉱山への道が開け、グラドリエルはヴォルガ城へ向かう。



★空飛ぶくじら亭
&
宿屋

リィランド

VS
ネクロサマンサ



VORGA CITY

—— ヴォルガ城下町 ——

光の女神ガイアに、心をささげた聖騎士たちが命をかけて守る、難攻不落のヴォルガ城。そのお膝元に広がる街がここである。この城下町に住む人たちは、みな心やさしい人たちばかりだ。気がねせずに話しかけてみれば、旅のよい思い出も膨らむに違いない



SPECIAL PRODUCT



果実のケーキ
新鮮な果実をふんだんに使った、ボリューム満点のあまーいケーキ
PRICE 16G



HIDING BAR

—— 最後の酒場 ——

ヴォルガ城下の南西に、ひっそりとたたずむ酒場には、世界中のグルメたちが集結する。まさに食通のあこがれの地！　ここへ来なくては真のグルメとはいえない



SPECIAL PRODUCT



ドラゴンステーキ
特性のドラゴン肉を使ったステーキ。ジューシーで、濃厚な味わい
PRICE 56G

グラドリエル

すべての名物料理を購入し、ヴォルガ城下町で若者に、ソード鉱山で手に入れるこわれた剣を返すと、この地へたどり着ける。ドラゴンステーキを購入し、再度話しかけるとリムーブドロップをプレゼントされる。





SHOP DATA

道具屋

エリクシルの実	20G
フライパン	40G
料理なべ	40G
マナのしずく	50G
魔法の剣 (+3)	16G
するどいトゲの盾 (+1)	104G

宝石屋

バルカンの魔法石 (+3)	100G
ツンドラの魔法石 (+3)	112G
トールの魔法石 (+3)	104G
ゴルゴンの魔法石 (+3)	108G
星々の魔法石 (+3)	116G
聖なる魔法石 (+3)	120G

グラドリエル

リヨンがヴォルガ城を急襲し、グラドリエルは自分の分身である悪のグラドリエルを倒すまで、ヴォルガの城下町へやってくることはできない。また、この街に足を踏み入れたときには、ヴァレナディンに帰国しなくてはならない。

FREEイベント『**最後の酒場**』

①すべての町に売っている名物料理を、すべて買う。

②ヴォルガ城下町にいる、親孝行な若者と会話する。

③ソード鉱山に向かい、カオティックアイと戦い、打ち破りこわれた剣を手に入れる。

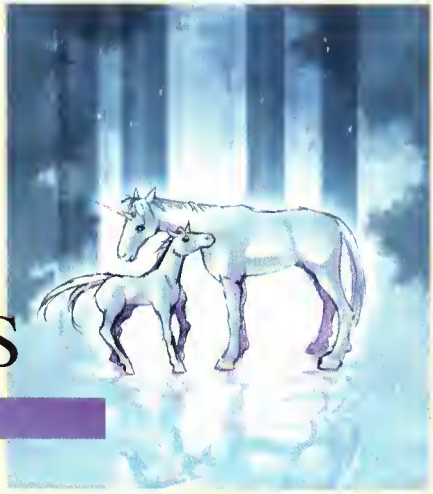
④こわれた剣を若者に渡すと、最後の酒場の情報が手に入り、ヴォルガ城下町から最後の酒場へのルートが開かれる。

⑤最後の酒場に行き、ドラゴンステーキを買い、もう一度話しかけるとリムーブドロップをもらえる。





ヴァレナディンからはあまりにも遠いヴォルガ城下町。でもこの辺にも、あのわがまま娘が…



PRINCESS CROWN

ドワーフ王国トロッコレース



ドワーフ王国にあるミニゲーム「トロッコレース」。ドワーフが乗ったトロッコを操作して、先にゴールすれば、アイテムゲットだ。ジャンプを駆使して高速で駆け抜けろ。ここでは、3つあるコースの必勝法をちょっと触れてみる！

初級コース

まずはゲームに慣れるのが先決。トロッコのスピードと、ジャンプの感覚を覚えよう。このコースは、アクセル全開で走りきれ。キノコをできるだけ取り、最初と最後の岩をジャンプでよければ相手に楽勝だ。



中級コース

相手が二人となり、スピードアップしてくる。このコースでのポイント、途中で4回ある分岐でのルート選択だ。基本的には、最後の分岐で上のルートを選べば、途中Cボタン押しっぱなし、ジャンプいっさいなしで勝てるぞ！



上級コース

ドワーフ王にチャレンジするコース。まずは、スタート直後の岩を穴に落ちないようにかわそう。そして、ポイントは2つ目と、3つ目の分岐。この分岐で上のルートを選べれば、あとはCボタンの押しっぱなしでOKだ。





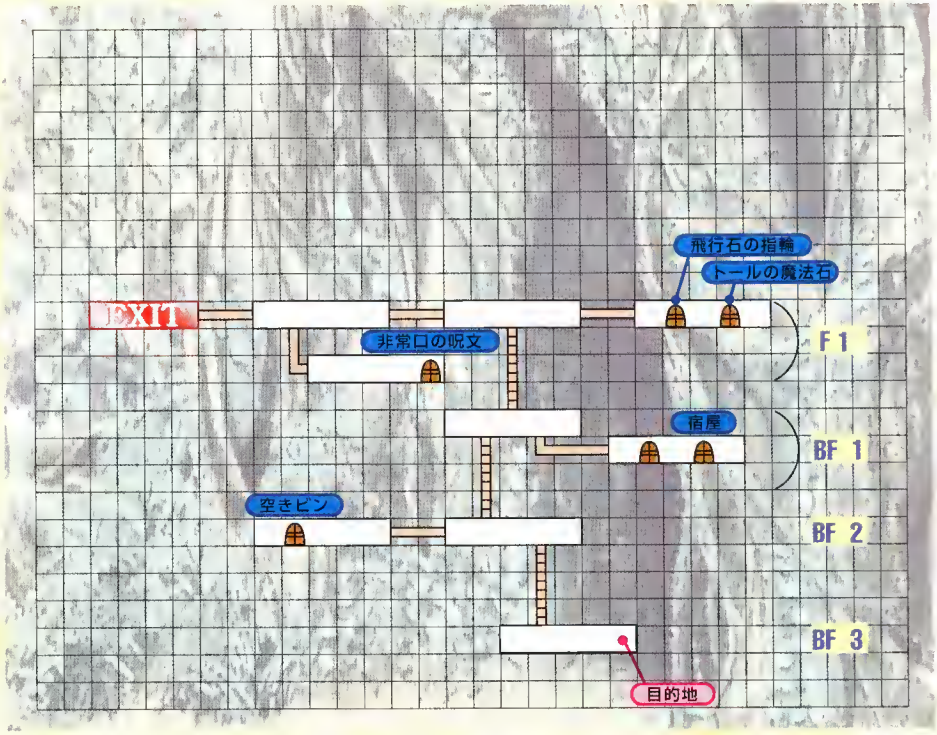
行く手を阻む敵を倒しつつ
物語の閉ざされたカギを解くために目的地へ向かうダンジョン……
ここには倒さなければならない敵が待ち受ける
そして、その敵を打ち破ったとき
物語は次の展開へと進んでいく

YGGDRASILL TREE

—— ユグドラシルの樹 ——



ナッツビルから南の森を抜けた先に、ひときわ巨大な樹がそそり立つ。それがユグドラシルの樹。妖精たちも、ユグドラシルの実を持って歓迎してくれる



グラドリエル

アンバーステップでバジリスクを倒し、街を救った後、村の長老と話をすると、ナッツビルから妖精の森を抜け、ユグドラシルの樹まで至るルートが確保される。

ユグドラシルの樹のもとで、待っているのは木製のアンデッドモンスター、スレイヴウッド。火系の攻撃が効果的なので、バルカンの魔法石や魔炎剣の呪文などを持っておくと、有利に戦いが展開できる。

スレイヴウッドに勝利すると、入口にいる妖精からバッグと、ユグドラシルの実を4個までもらえるようになる。



VS スレイヴウッド

木製人形のスレイヴウッド。ユグドラシルの樹に、寄生しているのだ！

ユグドラシルの実は、
・グリフォン城侵入
・リィランドの画家
・悪グラドリエル
の各イベントクリア後、4個単位で計3回もらえる

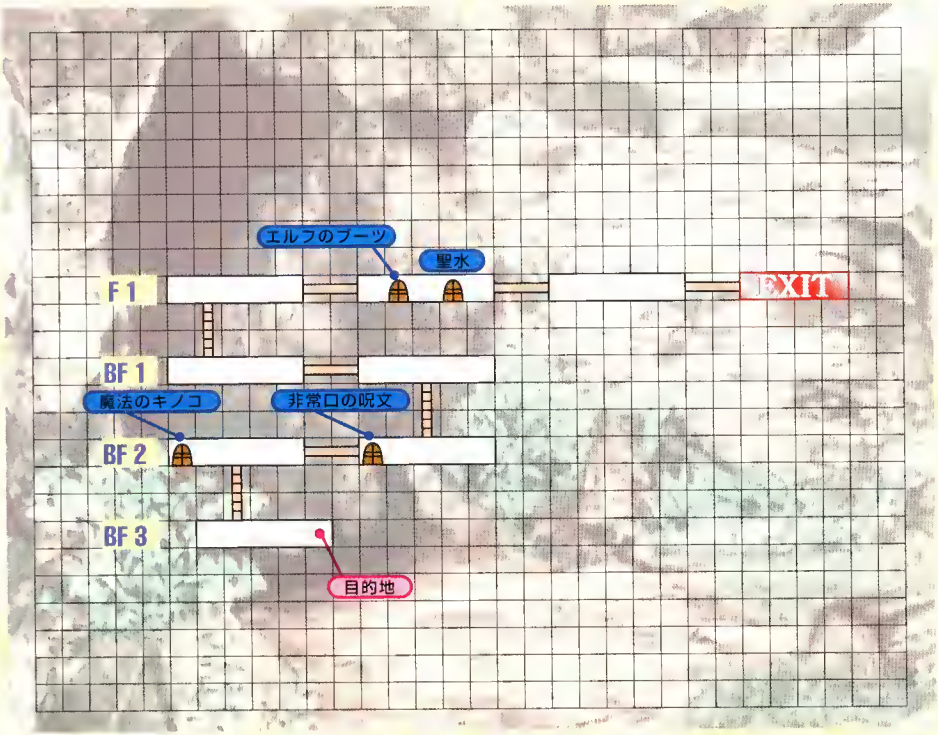


DRAGON'S NEST

——ドラゴンの古巣——

ドランゴラとセメタリスの間に、ドラゴンの古巣と呼ばれる洞窟がある。恐るべきモンスター、ドラゴン発祥の地…。命がおしかったら素直に引き返そう





グラドリエル

ドランゴラで手負いのドラゴンを倒した後、村のおばさんと会話することによって、ドラゴンの古巣までのルートが開かれる。

ドラゴンの古巣には、ノーマルのドラゴンが待ち受けている。ドラゴンのみならば、凍てつく指輪と数個の魔法石を用意しておけば、難なく攻略できる。だが、問題はドラゴンがいる目的地までに、消耗してしまうことだ。特に、地下3階に入り右に移動すると。いきなりドラゴンに遭遇する。こまめな体力回復と、アイテムの充実が、最大の攻略法となるダンジョンだ。



ドラゴンの古巣へのルート開いてくれるドランゴラのおばさん。井戸の前にいる

VS ドラゴン

ドラゴンを倒すと、楽譜の切れはしⅠが手に入る。楽譜は全部で3つ。あと2つそろえヴァレナディン城下町へ

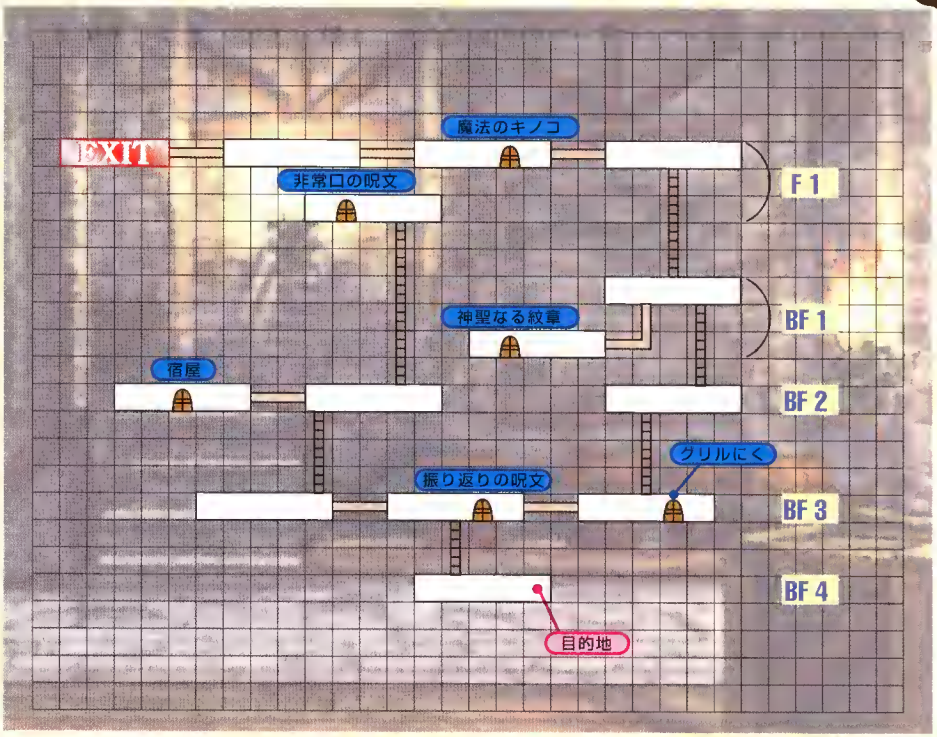


SEAL CAVE

—— 封印のほこら ——



パンプキンハウスを抜けたところに、青銅色の重々しい扉が現われる。この封印のほこらの扉の中に入ったが最後、新たに自分の名前が墓碑に刻まれる…



グラドリエル

リィランドでのドッペルゲンガーによる絵描きの事件を解決後、カエルの村を救うと手に入るいにしえのカギを使い、パンプキンハウスの東にあるほこらの扉を開くことができる。

ほこらの最深部では、ガイストアーマーがボスとして登場する。ボスを倒せば、楽譜の切れはしⅡが手にはいるのだ。

プロセルピナ

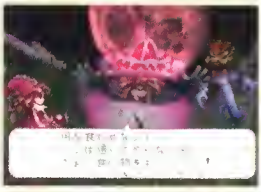
パンプキンハウスでハロウィーンの話を聞くと、ほこらの入口まで行けるようになる。入口には闇の王がいて、ハロウィーンを助ける代わりに食べ物を集めてくることを依頼される。



VS ガイストアーマー

アンデッド系のモンスター。聖なるアイテムさえあれば、問題なく倒せる！

闇の王はくいしん坊。食料を大量に要求してくる。とにかく、バッグを増やしてからやってこよう

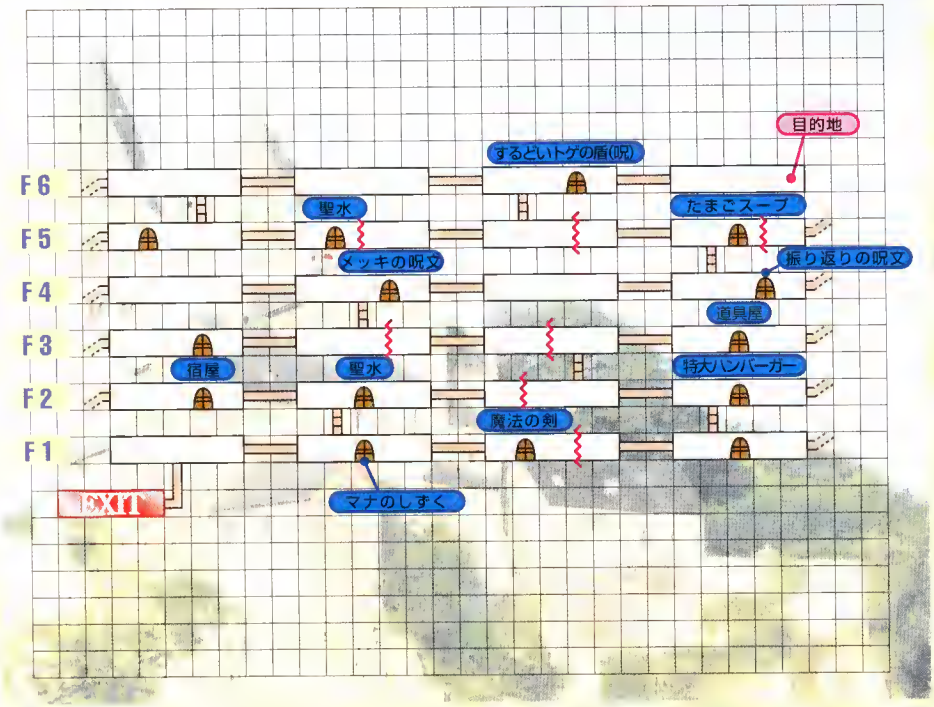


FORGOTTEN TOWER

—— 忘れられた塔 ——



ローグローブとユニコーンの森の間にある塔を、君は知っているだろうか。古びた塔で最後に人が訪れたのはいつのことか…。そう、ここは忘れられた塔



グラドリエル

ハインデルに大地の魔法石を渡し、時の魔法石に関する情報を得た後、再びハインデルと話すのだ。情報を得る代償として、バルカンの魔法石を渡すと、グラドリエルの力になってくれるものを見つけてくれる。そして、この忘れられた塔までの道を教えてくれるのだ。

この塔には、最上階にグリフォンが待ち受けている。グリフォンは動きが素早く、しかも空中を移動する。そこで、必ずキノコなどのパワーを増幅できるアイテムと、星々の魔法石など広域にダメージを与える魔法石を用意しておこう。倒せばノーティスドロップが手に入る。



赤き塔ともよばれる、この忘れられた塔…。すでにいたるところが朽ち果てている

VS グリフォン

攻撃力も高く、素早い。しかも、塔を登る間に消耗しているとかなりきつい敵だ

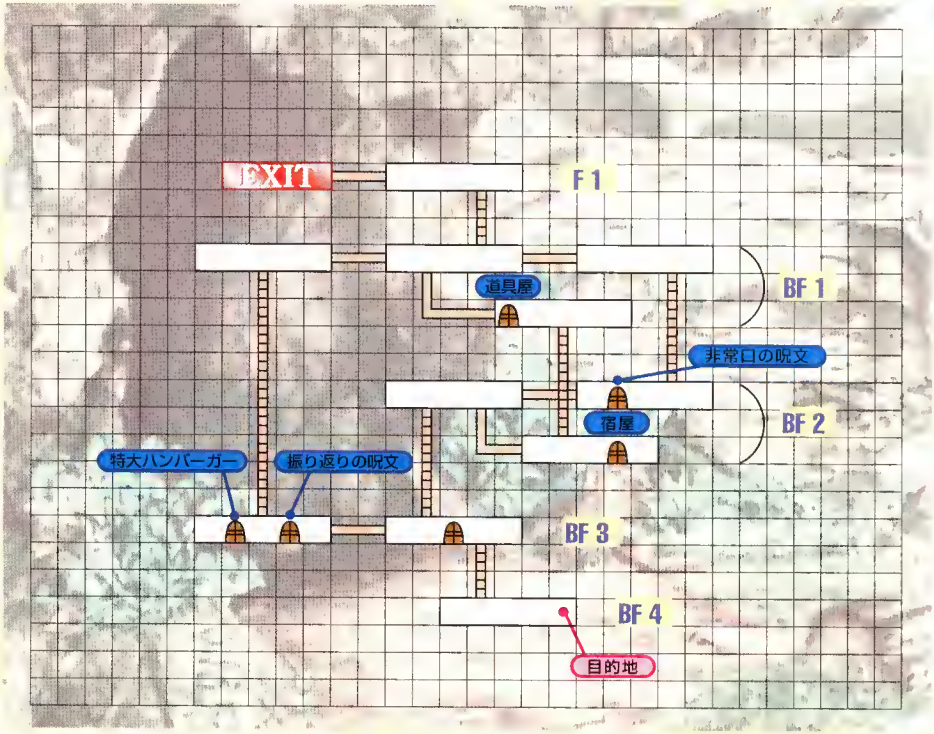


SOUTHWEST CAVE

—— 南西の洞窟 ——



カドゥ・バドゥからアンバーステップへ向かう街道を、途中南に折れると南西の洞窟がある。洞窟の中は草木一本生えてなく、石だらけで非常に肌寒い…



グラドリエル

カドゥ・バドゥで人魚をおとしめた事件の真相を追ううちに、たどり着く洞窟…。それが南西の洞窟だ。この洞窟には、人魚を苦しめた陰謀を巡らした張本人、赤毛の魔法使いがいる。

赤毛の魔法使いは、自ら戦おうとせず、バーバリアンを召喚する。このバーバリアンはアイテムを多用する傾向があるので、切れ目ない攻撃が勝利の最大要因となるだろう。そのためには、パワー維持のアイテムを多めに用意しておく必要がある。バーバリアンを倒せば、人魚のイベントはクリアとなり、リィランドへのルートが開かれるのだ。



再びグラドリエルの前に現れる、赤毛の魔法使い。だが、また戦うことはない

VS バーバリアン

ボスといっても所詮はバーバリアン。恐れることはない。だがアイテムには注意

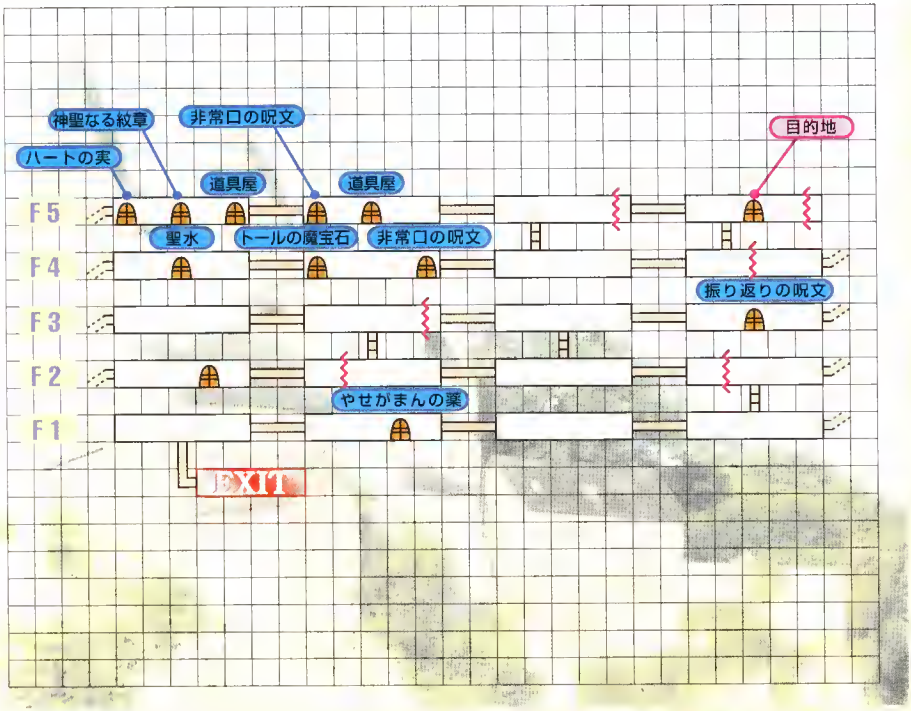


BLACK WOOD TOWER

黒の森の塔



黒の森の塔。ヴァレナディン城の東に位置し、リィランドへ至る街道から進む。やがて、薄暗い森のなかに黒っぽい石壁で造られた建物が、見えてくる…



グラドリエル

この塔へは2回訪れることになる。

1度目は、リィランドで偽ポートガスを打ち破った後。ヴァレナディン城に戻り、失踪したエリエルの目撃の報を受け、この塔へ向かう。塔の最上階で待ち受けているのは、エリエルが闇の力により変化した赤毛の魔法使いだ。

2度目はエリエルを救出し、ヴァレナディン城を襲撃するデーモン軍を打ち破ったのち訪れる。最上階で待ち受けている敵は、デーモンだ。

悪エリエルとデーモンは強敵である。そこで、パワーを維持できるアイテムと、敵の動きを封じるためにツンドラの魔法石を用意しよう。

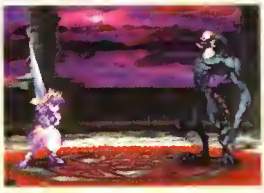


VS 悪エリエル

エリエルはラルヴァの書を巧みに使い攻撃を仕掛けてくる。攻撃を当てるためにはスピードが必要だ

VS デーモン

デーモンは動きが速く、しかも攻撃力が高い。動きが止まったときを見計らい、確実に攻撃しよう

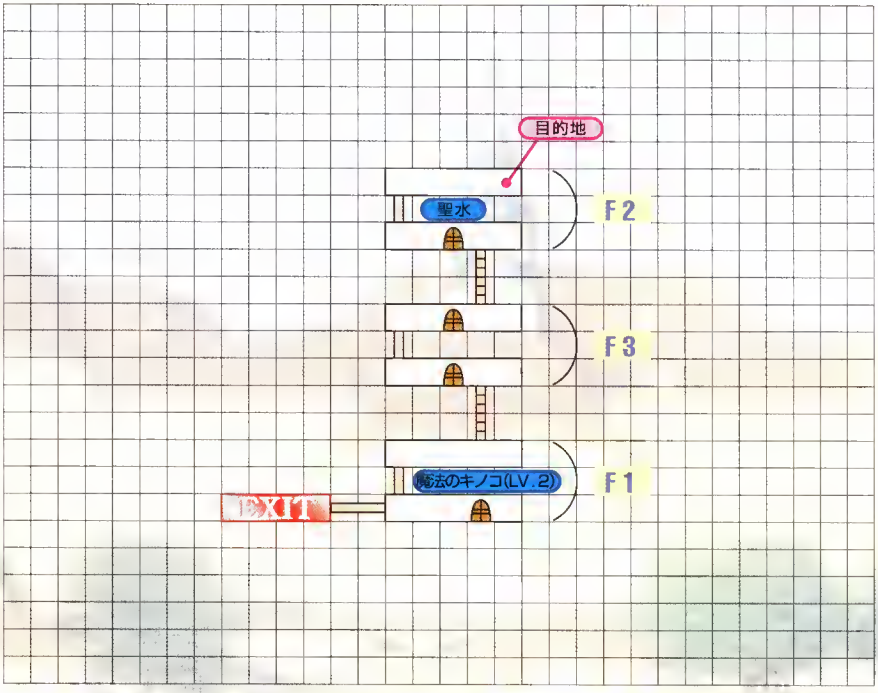


GHOST HOUSE

画家の館



画家の館は、リィランドの町はずれにある由緒ある建物だ。館へ入ると、通路に数々の絵画や骨董品、格式ある鎧などが並び不気味な雰囲気に包まれる



グラドリエル

アーソントゥラへ渡るため、リィランドに再びやってきたときに、クリアするイベントで立ち寄る。港にいる船乗りと話すと、街の奥へのルートが確保できるのだ。

館ではポルターガイストや、ガイストアーマーなどのアンデッド系が頻繁に出現する。ボスはドッペルゲンガーであり、偽グラドリエルとして登場するが、そこに至るまでにかなりの消耗をしいられる。回復系のアイテム、スープなどを多めに用意して館に挑もう。また、聖なる魔法石は回復ができ、しかもアンデッドにダメージを与える。ぜひ、持っておきたい。



ポルターガイストやガイストアーマーに会ったら、ある程度の被害は覚悟しよう

VS 偽グラドリエル

自分とは戦いづらい。分身の呪文と，無敵の薬などを併用し、瞬殺するのも手だ

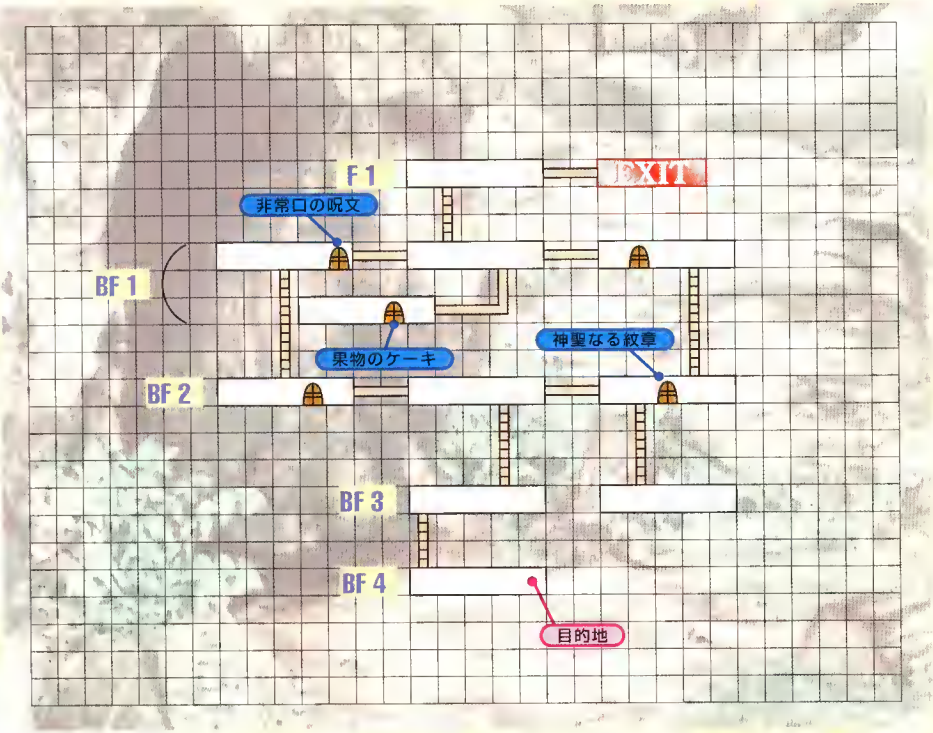


SOUTHEAST CAVE

—— 南東の洞窟 ——



ティタニア湖へ向かう途中、西南へ折れると洞窟を見つけることができる。近くには名も知れない湖が横たわり、湖岸には色とりどりの花が咲いている…



グラドリエル

人魚のオンディーヌにかかっていた疑いを晴らした後、再びオンディーヌに話しかけると、南東の洞窟へ行けるようになる。

この洞窟に巣くうタランチュラを打ち倒すと、従者が戦闘中にアイテムを運んできてくれる、カインドドロップが手にはいるのだ。

タランチュラは、物語前半ではかなり手強いモンスターだ。タランチュラに有効なツンドラの魔法石などをしっかりと用意し、ダンジョンに入りたい。マナのしずくなどを用意しておくのもいいだろう。また、食料は回復率のいいグリル料理などを、多めに用意しておきたい。



カドゥ・バドゥでの人魚騒ぎを解決し、その後再度オンディーヌに話しかけると、道は開かれる

VS タランチュラ

タランチュラは手強い。だが、空中からの攻撃にしっかり対処すれば問題はない

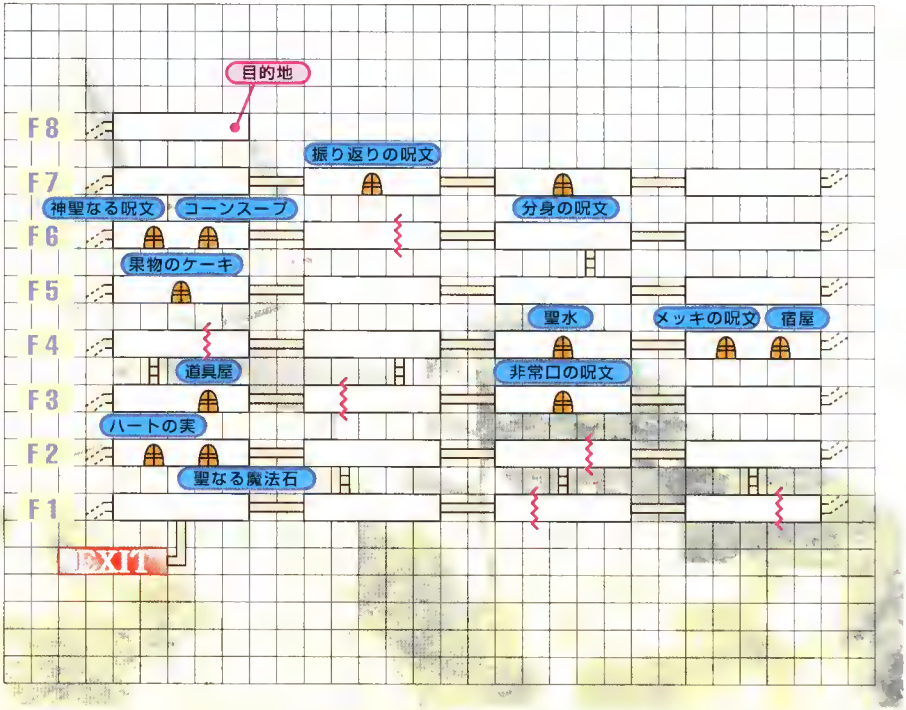


EVILWOODTOWER

—— 魔の森の塔 ——



ドワーフ王国の西方、うっそうとした森の中に建つ石作りの塔…。道端には打ち捨てられた武具が数多く転がり、かつての激しい戦闘の名残がここにある



グラドリエル

ハインデルに大地の魔法石を渡すと、この塔へ至る道のりを教えてくれる。

ボートガス

同じくハインデルに、海の魔法石を渡すと、この塔へのルートがひらかれるのだ。

この塔の主はデーモンの一人、シャドウ。通常のデーモンと違い魔法石を多用し、しかも戦闘中に、一度体力の回復を行なう。最初から、そのつもりで対応するのが得策だが、攻撃の手をゆるめると、一気に畳み込まれる。できるだけ、塔を登るときにはアイテムを浪費せず、最後の決戦に備える必要があるだろう。



ボートガス編では、このシャドウが最後の敵となる。気合いを入れてのぞめ！

VS シャドウ

時の魔法石をはじめ、多くの石を腹中に隠し持つ。しかも、その原料はなんと人間

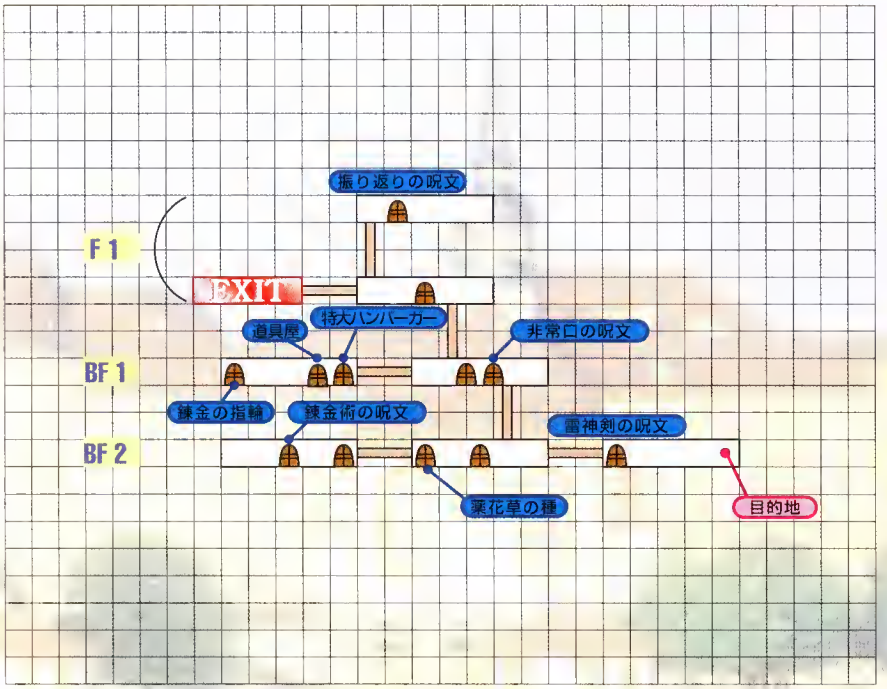


DONJUAN'S HIDING PLACE

—— ドンファンの隠れ家 ——

ネルト北部に建つ屋敷。地上1階、地下2階。地上部分にくらべ地下はやや荒れてますが、倉庫や隠れ家として充分機能を果たせます。お安い物件です！



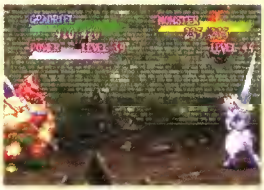


グラドリエル

リィランドの画家のイベントが終了後、カドゥ・バドゥの魔法学校で生徒から指輪の話を聞き、先生、そして戦士エリアのオウムから情報を収集する。そして、ネルトの酒場でおじさんの会話を聞くと、ネルトの街の中からこのドンファンの隠れ家へ行くルートが開かれるのだ。



次なる盗みの計画を立てるドンファンと手下たち。早くとめなければ！



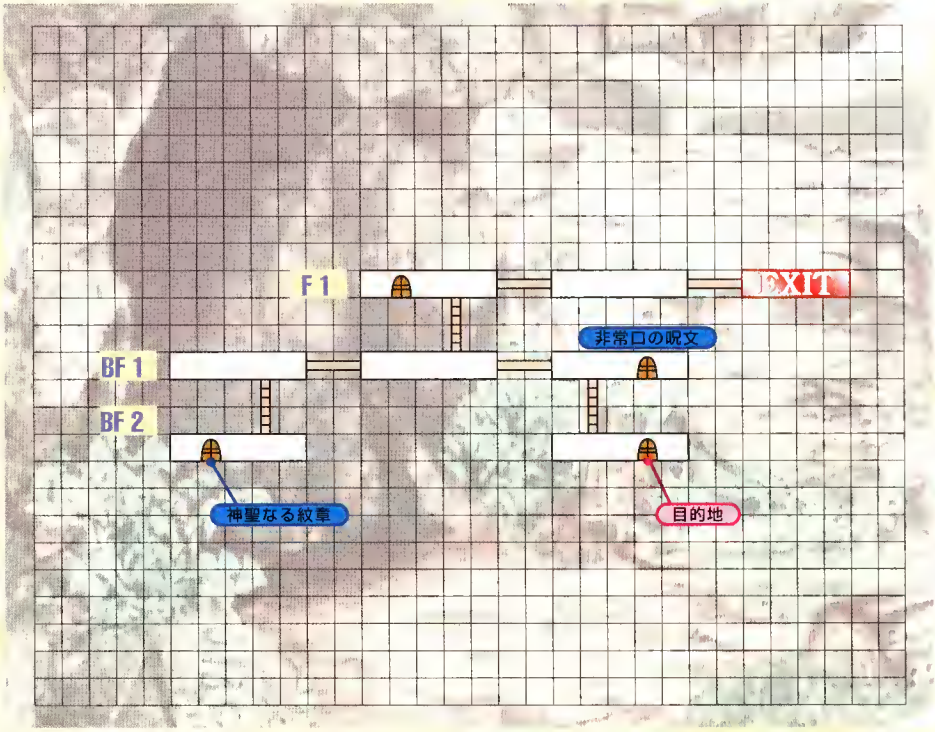
ドンファンは大きなオノを振り回しながら襲ってくる。さすがに強敵だ！

ORACLE'S CAVE

—— 神託の洞窟 ——



ネルトから西へ、神託の洞窟に遭遇する。荒れ果てた山谷の中で静かに腰をすえる洞窟に入れば、かつては荘厳であっただろう神殿の面影がうかがえる



グラドリエル

アーソントゥラから、ユニコーンに助け出された時点で、この洞窟への道は確保される。

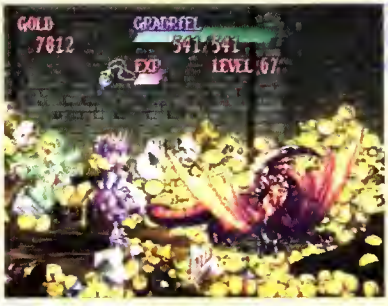
エドワード

デーモンに急襲されたヴァレナディン城に加勢に行き、ゴルゴダの死を目の当たりにした後、この洞窟の主、ハインデルのもとへ訪れる。

ポートガス

偽ポートガスを打ち破り、リィランドに帰港した時点で、ここまでの道は確保できている。

このダンジョンには倒すべきボスは存在していない。すべてを見渡せる黄金竜ハインデルがおり、彼に会いに行くことが目的となる洞窟だ。



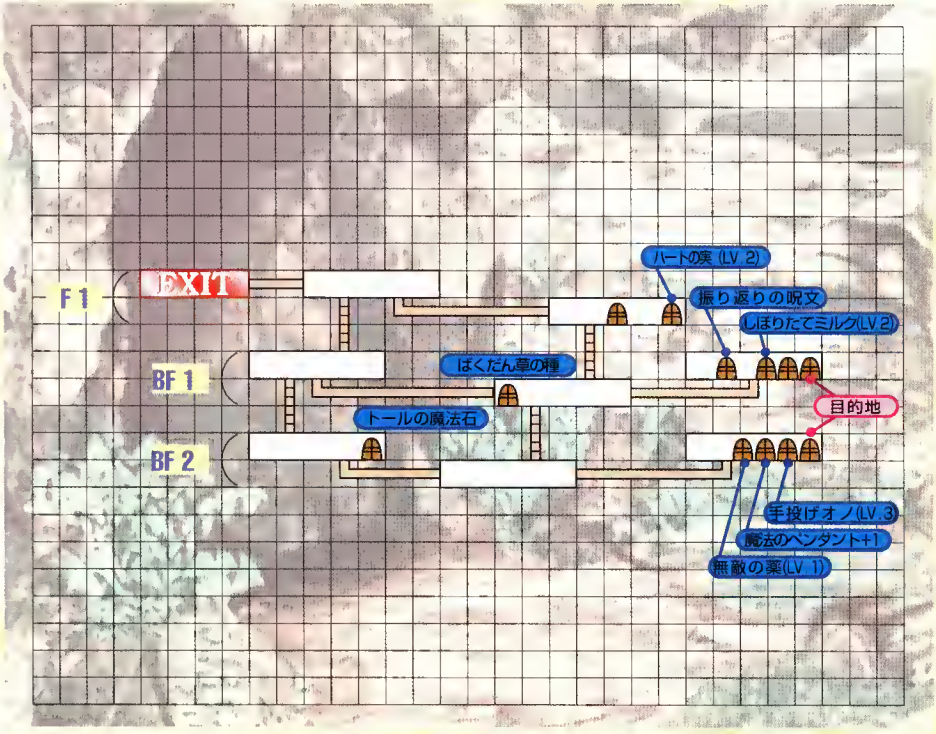
この洞窟の主ハインデルは貴重なアイテムと引き替えに、情報を与えてくれる

SEABOARD CAVE

—— 海辺の洞窟 ——



リィランドの北に浮かぶ海賊島。荒れた土地を踏みしめ、島の内部へ入ると洞窟がひとつ。寂しい小島に寒い洞窟。孤独を感じたい人はいつでもどうぞ



グラドリエル

リィランドの海賊騒ぎのさい、偽ポートガスに連れてこられる海賊島の洞窟。偽ポートガスがアジトとして使っているらしく、なかには捕虜を閉じこめておく牢屋に改造した部屋もある。

このダンジョンでの目的は、グラドリエルと共に捕らえられた若いカップルと、船乗りたちの救出にある。頻繁に出現する海賊団などを撃破しつつ、洞窟内の２カ所の目的地へ向かうのだ。そして救出後、洞窟を出ようとするとイベントが発生し、海賊ポートガスの偽者とバトルとなる。洞窟を抜けるさいには、装備を変更し、対ボス戦の準備が必要だ。



人質を救出するには、目的地の部屋へ入ればいい。入口で海賊団が警備している

VS ビッグフック

ポートガスの偽物ビッグフック。さすがに人の名をかたるだけあり醜悪だ

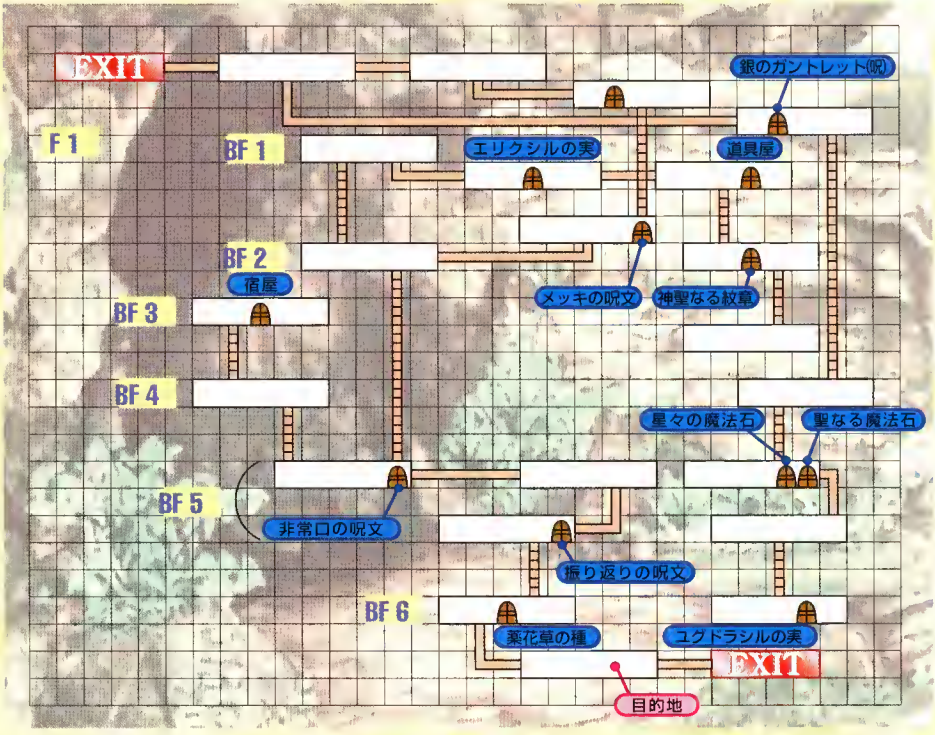


BAINDFEARGATE

—— 魔界への入口 ——



悪魔の島として名高いアーソントゥラ。島には鳥のさえずりが聞こえる温和な森が続く。だが、洞窟へ一歩入れば呼び声通り、ここは魔界へ通じる入口…



グラドリエル

この洞窟は、リィランドで画家に扮していたドッペルゲンガーの陰謀を阻止し、フリードルフィン号で渡るアーソントゥラにある。

エドワード

ヴァレナディン城の危機に参じたあと、ハインデルに父が自分に託した魔の剣のありかを聞き、人魚のオンディーヌの力を借りて海を渡る。

この洞窟は、複雑で最大級の広さを誇る。しかも、袋小路に突き当たるダミーの通路もあり、道は慎重に選択しよう。また、この洞窟のボスは、赤いデーモンであるブラッディだ。アイテムを最大限に利用し、立ち向かおう。



父が託した剣を求めて、運命の導くままに、ブラッディと対峙するエドワード

VS ブラッディ

あまりにも強すぎる魔界の番人。果たして、この悪魔を倒す術など、この世に存在するのだろうか!?

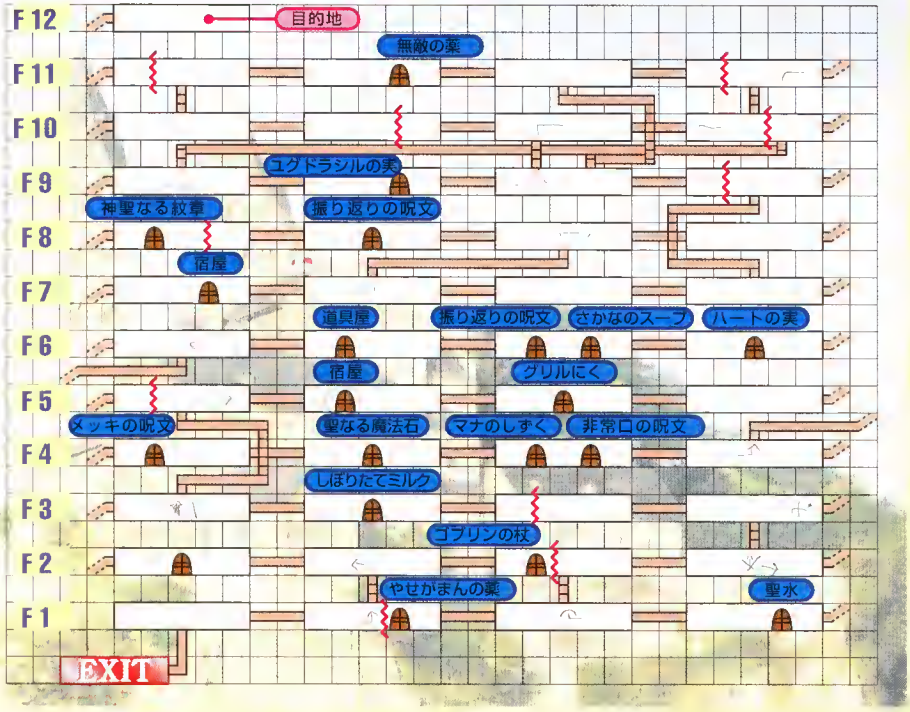


DEMON'S TOWER

―― 魔王の塔 ――



洞窟を抜けると、そこは魔界であった。紅の雲が渦を巻き、朽ちた樹木と腐敗した土壌が、正気を失わせる。そこに静かにそびえる塔がある。魔王の塔だ



グラドリエル

25年前からもどりブラッディを倒す。そして、扉を抜け魔界にそびえ立つ魔王の塔へ行く。

魔王の塔には、魔王ヴォーグロドをつなぎ止める鎖が、全体に巻き付けられている。そして、最上階でその魔王が待ち受けている。塔に徘徊する魔物も、アイスドラゴンやカオティックアイなどボス級の強力なもの。アイテムを最大装備し、塔に進入したい。

エドワード

魔王の塔へは、魔界の入口でゴルゴダから託された剣を受け継ぎ、ブラッディを倒した後、行くことになる。



魔界の主城にふさわしく、この塔は何から何まで、すべてが不気味な雰囲気だ

VS
ヴォーグロド

完全復活した魔王のパワーは、まさしく圧倒的！　少しも油断できないぞ

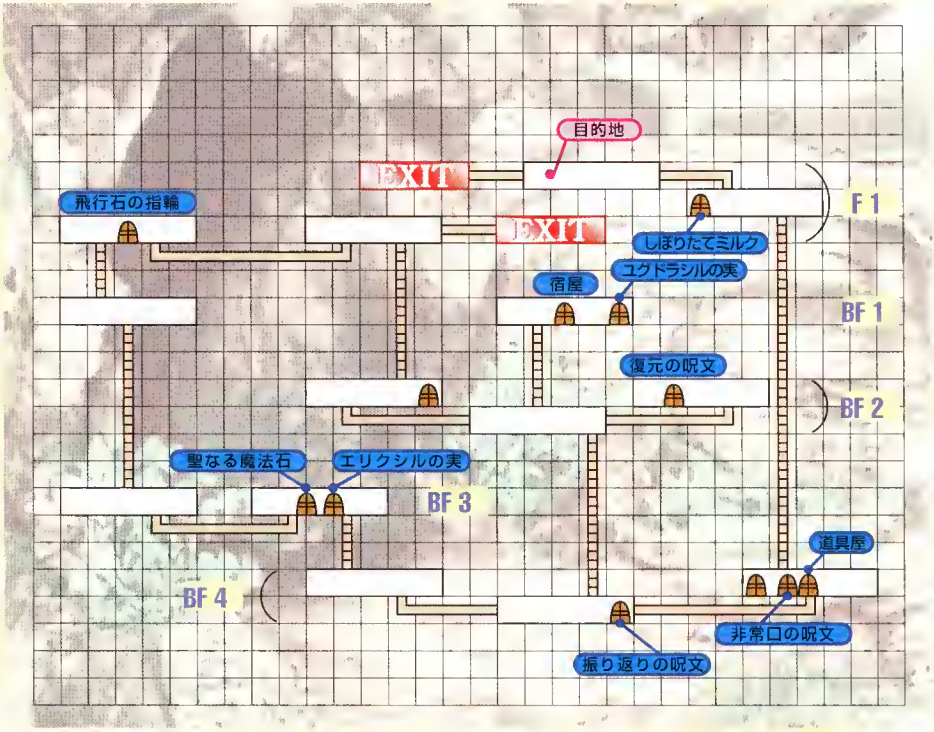


SWORDMINE

―― ソード鉱山 ――



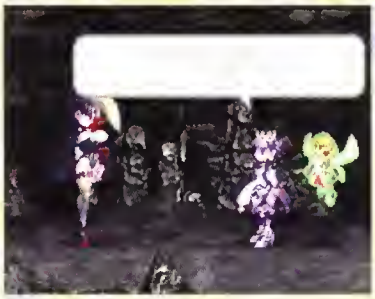
サゴンの北に鉱山があった。かつては大量の鉱石が掘り出されていたが、いまでは寂れてしまい、廃坑に…。昔の栄光も、寒風に吹き飛ばされたようだ…



グラドリエル

魔術師リヨンの危機をヴォルガ王国へ知らせるために、リィランドよりポートガスの船で海を渡る。そして、サゴンの街からヴォルガ城へ抜ける裏道にあたるのが、ソード鉱山である。

ソード鉱山は、あくまでもサゴンとヴォルガ城をつなぐもの。目的地は、もう一方の出口となる。しかし、出口ではリヨンの手下であるネクロサマンサが待ち受けている。しかも、鉱山内の宿屋から先、ヴォルガ城をクリアするまではセーブポイントはない。できるだけ効率的なアイテム装備を行ない、ダンジョンを進みたい。



VS
ネクロサマンサ

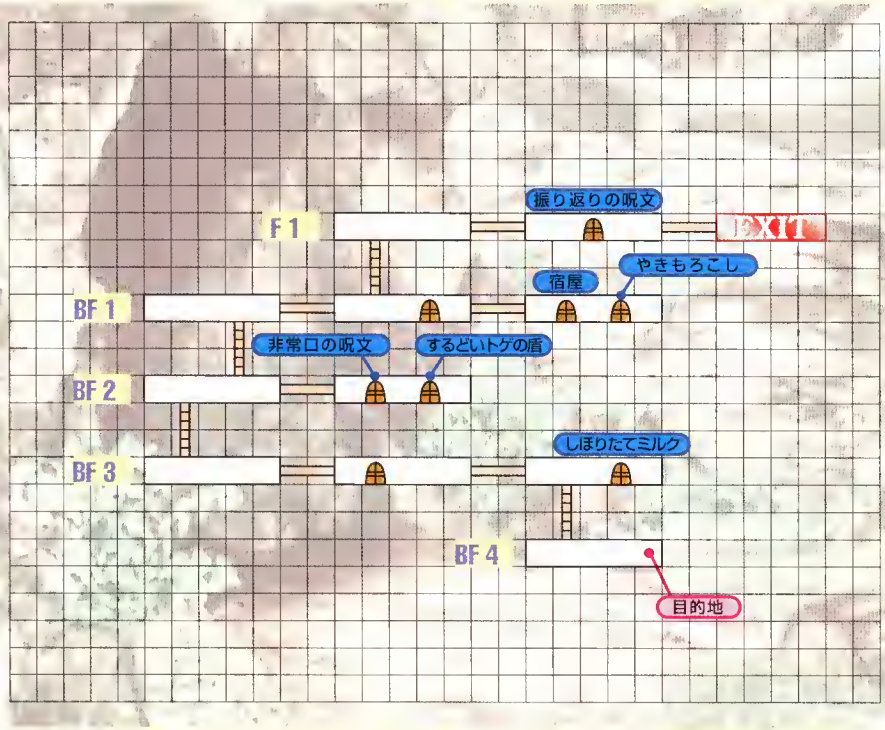
リヨンの片腕とも言うべき忠実なる配下。自慢のスピードで速攻技をしかけてくるぞ

ANCIENT CAVE

―― いにしえの洞窟 ――

カドゥ・バドゥからネルトへ進む途中に、いにしえの洞窟はある。入口には多くの白骨が転がり、ブラックドラゴンが住むと噂されるが、その真相は…





エドワード

カドゥ・バドゥで人魚の濡れ衣を晴らした後、戦士エリアの酒場で戦士の長と話すと、いにしえの洞窟までの道が開かれる。

この洞窟のボスは、ブラックドラゴンである。だが、ブラックドラゴンは目的地で出現するのではなく、ブラックドラゴンがいないことを確認し、帰路について洞窟を出ようとした時点で遭遇する。そのことを踏まえ、戦闘の準備をしておきたい。



VS
ブラックドラゴン

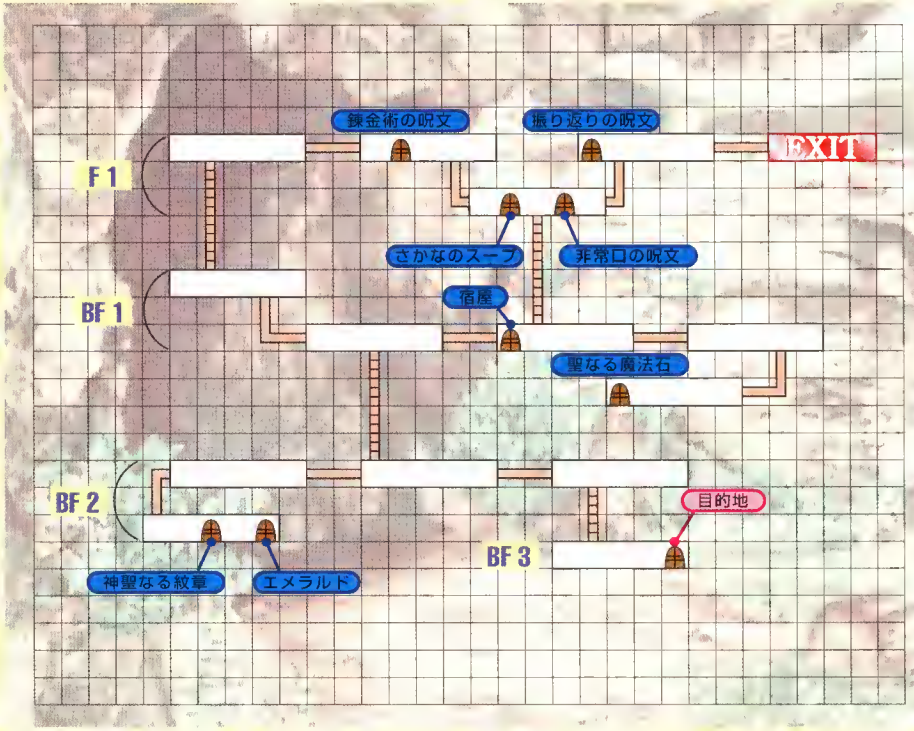
全身が真っ黒の、見るからに恐ろしいドラゴン。攻撃力が並じゃない！

TREASURE ISLE CAVE

—— 宝島の洞窟 ——



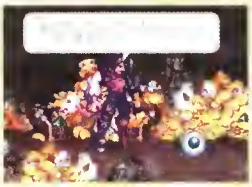
リィランドから北へ…。謎の宝の地図が示す、ドレイクの宝が埋まっているという島だ。だが、その真相は定かではない。さぁて、出るのは蛇か、鬼か!?



ポートガス

物語が始まり、リィランドからふしぎな老人が持つ、宝の地図に導かれたどり着く。

洞窟の主は宝を埋めた本人、ドレイクである。ドレイクは目的地となる宝の部屋で、グールと化してあらわれる。スタート時にポートガスは、対アンデッド用のアイテムを持っていない。そこで、ダンジョン内にある神聖なる紋章や、聖なる魔法石を手に入れてから、ドレイクに対峙したい。また、ドレイクを倒した後、連続してビッグフックと戦うこととなる。アイテムもそのことを踏まえ回復系を多めに装備し、節約して使っていこう。



ハインデルへの貢ぎ物となる、海の魔法石。その名の通り、海原のように青く輝く…



VS ドレイク

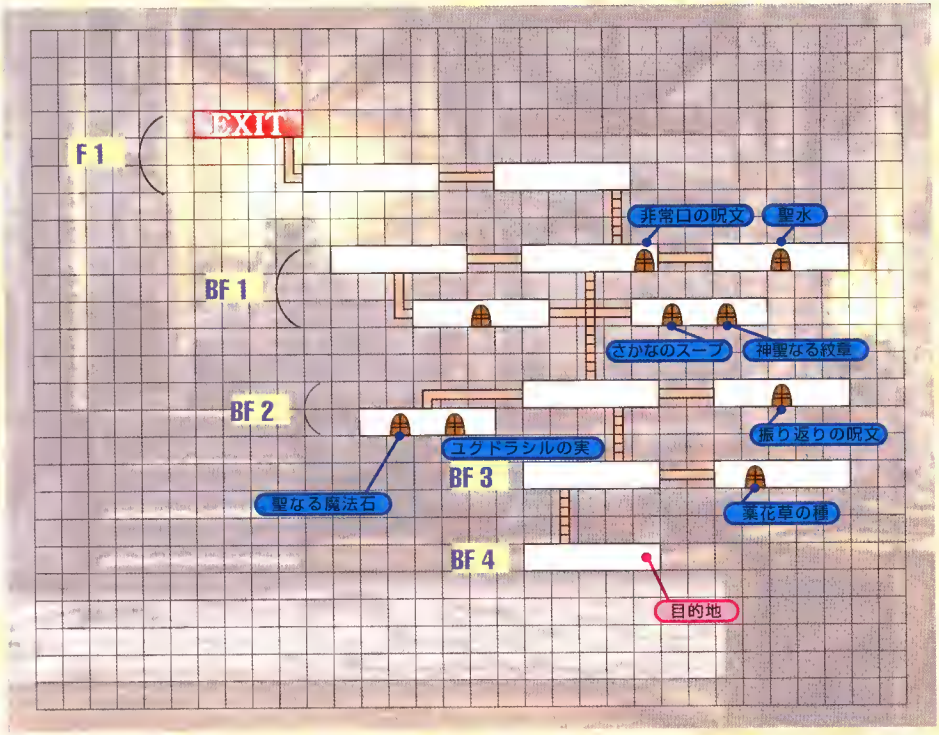
かつての大海賊も、今や朽ちた屍。でもなめてかかると痛い目にあうぞ！

TRIAL LABYRINTH

―― 騎士の試練場 ――

カード騎士団が、騎士の称号を得るためにチャレンジするという地下迷宮。ヴァレナディン城の中庭の奥にあり、一般人は目にすることすらできない





グラドリエル

リィランドで偽ポートガスを倒し、ヴァレナディンへ帰城したとき、中庭の騎士と話す。すると、ダンジョンへの入口が開かれる。

ヴァレナディン最強の部隊である、カード騎士団の団員を育成するために用いられるだけあり歯ごたえがあるダンジョンだ。しかも、待ち受ける敵は、強力なアンデッド系のモンスター。まさしく自分の力量が試される、試練のダンジョンだ。アイテムはスープを中心とした食料系で固め、挑戦した方がいいだろう。当然、対アンデッド用の攻撃アイテムとして、神聖なる紋章や聖なる魔法石は、大量に持っていきたい。



中庭の奥にある練習場で、兵士に話しかけると、ダンジョンに入れるようになる

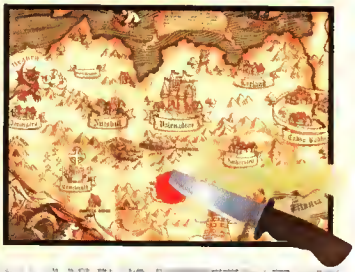
VS グール

地下4階に待ち受けるは、ジェストナイが召喚したグール。倒すとトラストドロップが手に入る

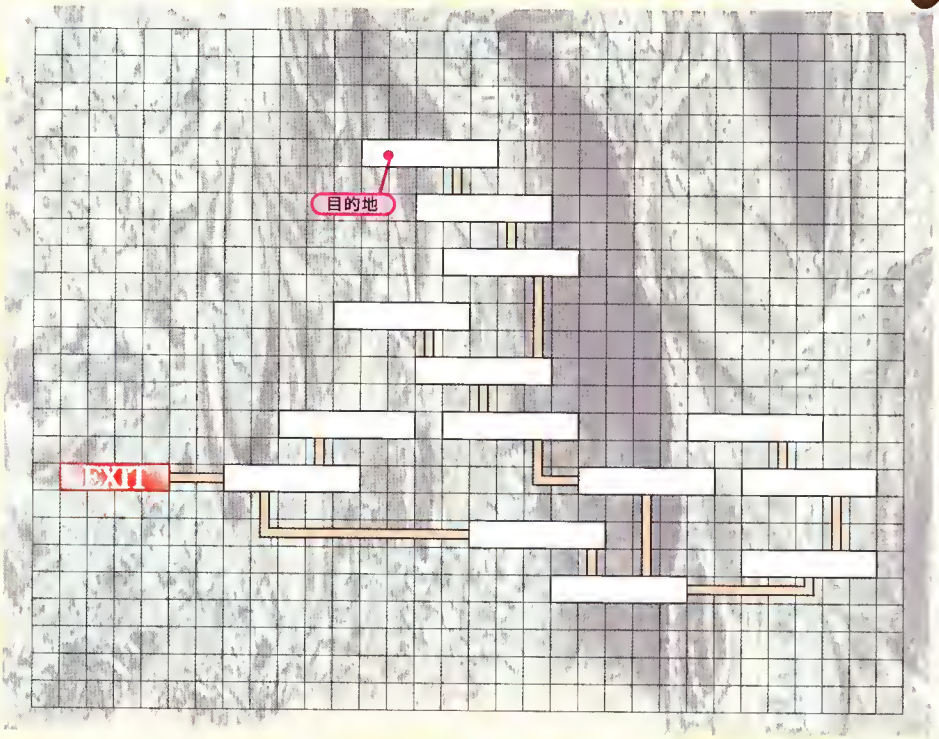


FAKE WOOD

—— 迷いの森 ——



のどかな農村ローグローブ。その奥に広がるのが迷いの森…。何本もの道が入り組み、似たような風景ばかりが続く。もし、中に一歩足を踏み入れると…



プロセルピナ

オババと話しローグローブへの道が確保された後、ローグローブの山羊の小屋で少女と話し、その後村の右手にいるおばあさんと話す。そうすると、村の奥への道が開かれる。

森の奥で待ち受けているのはマイコニド、キノコのお化けだ。マイコニドは動きが特徴的で、プロセルピナでは攻撃を当てにくいかもしれない。しかし、基本的に強い敵ではなく、苦戦することはないだろう。だが、森自体が迷いやすく、目的地までたどり着く前に、体力を消耗しやすい。できるだけ、アイテムを温存しつつ、目的地まで行くように心がけるようにしよう。



VS
マイコニド

迷いの森で、幻影を作り出している張本人だ。でも、はっきり言ってザコ！



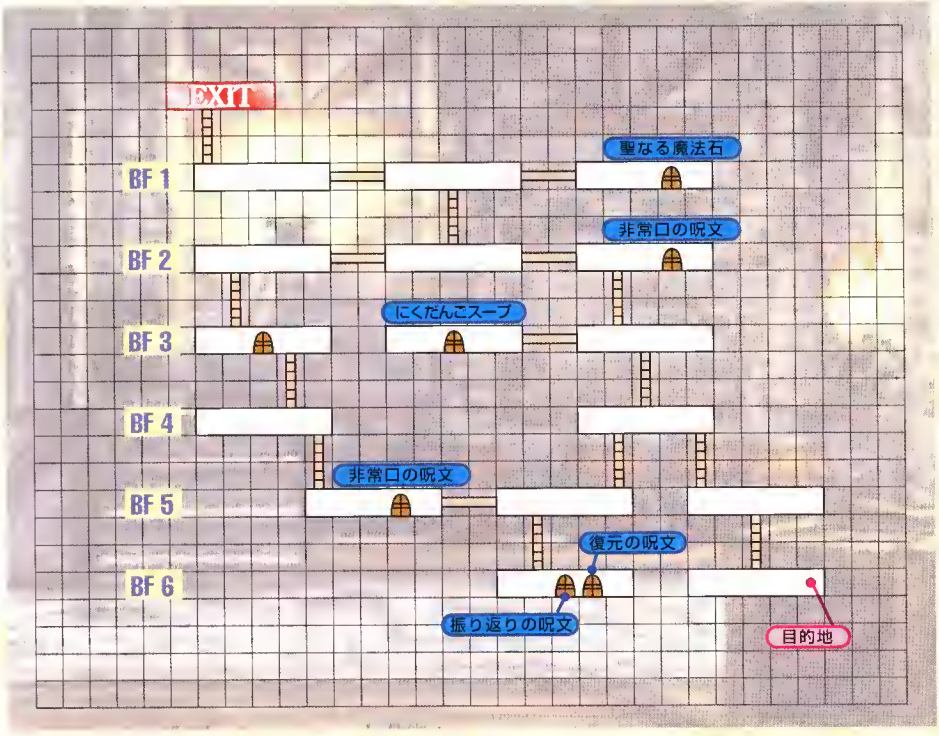
マイコニドを倒して迷子を救い出そう。これでミルクが好きなだけもらえるぞ！

DANGEON OF SOLDIER

—— 戦士のダンジョン ——



カドゥ・バドゥ、戦士エリアの中央に建てられた剣の石像。その像の下にはダンジョンが広がっており、一流の戦士を志す者の、絶好の修行場となっている



グラドリエル

魔王ヴォーグロドを倒し、ヴァレナディン城でグリフォンと戦った後、カドゥ・バドゥの戦士エリアで、兵士と話すと入口が出現する。

最短ルートで、手早くクリアしたいところだが、ボスのゴーストとの戦いに備えて、聖なる魔法石は取っておきたい。また、体力回復のアイテムが乏しい場合は、にくだんごスープも見逃すわけにはいかないぞ。

出現するモンスターは、マイコニドやオーカージェリーなどのザコばかりだし、マップも単純なので、レベルが極端に低くない限り、苦労することはないだろう。



謎の声が、どこからともなくダンジョンに響きわたる……。声の主は一体!?

VS ゴースト

戦士のダンジョン最後の試練は、ゴーストとのバトル。

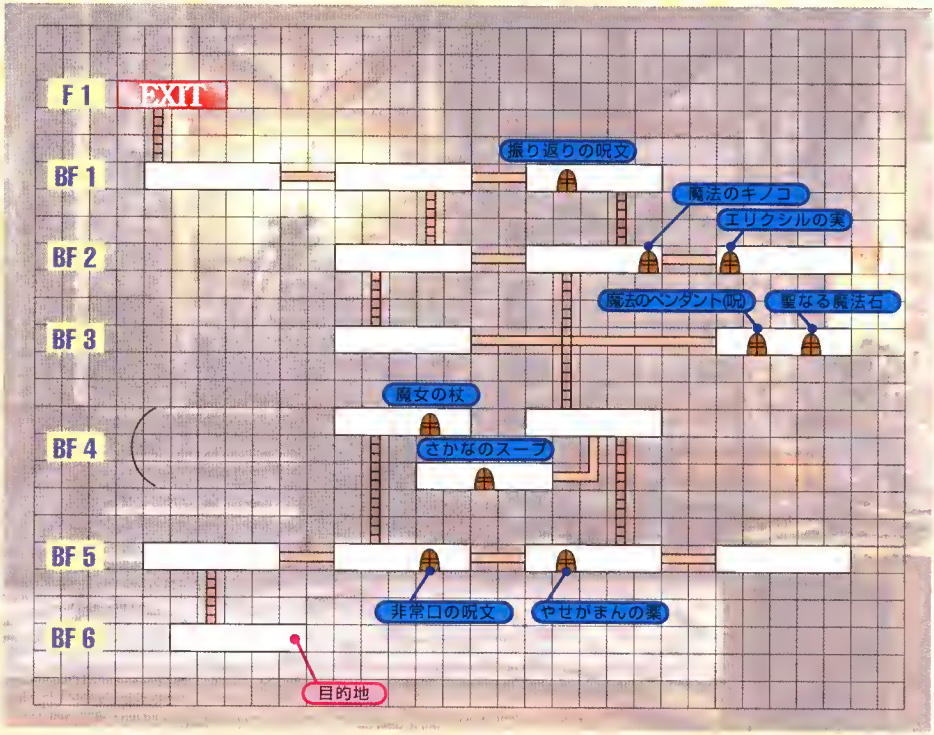


DANGEON OF SORCERER

—— 魔術師のダンジョン ——

カドゥ・バドゥ、魔術エリアにある杖の石像…。魔物を倒した白銀の魔術師を讃えるこの像の地下にも、ダンジョンが広がり、未来の魔術師を育てている





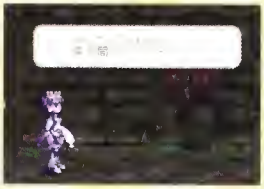
グラドリエル

魔王ヴォーグロドを倒し、ヴァレナディン城でグリフォンと戦った後、カドゥ・バドゥの魔術師エリアで、魔術師と話すと入口が出現する。

戦士のダンジョンと同じく、町の中心にある石像が入口になっている魔術師のダンジョン。

共通点は他にもたくさんあり、謎の声が響きわたる、最後のボスがゴースト、出現するモンスターが似ている…など、ほとんど同じダンジョンだと言ってもいいほどだ。

ただ、ダンジョンの作りが少しだけ複雑になっているので、迷わないように注意しよう。



戦士のダンジョンと同じような声が、ここでも…。何か関係があるのだろうか？

VS ゴースト



最後のボスは、戦士のダンジョン同様、ゴーストだ。何かワケでもあるの？


すべては
平和という時代のために
すべては
失われた名誉のために
すべては
消え去った愛のために
すべては
地位と権力のために
眼前の敵を打ち砕く
Must be Battle Enemies
マスト ビー バトル エネミーズ

BATTLE TECHNIQUE 勝利へと

敵に打ち勝つための戦術法を、基本、準備、応用の3項目に分けて、ここでは扱っていく。再度押さえておきたい項目を基本で、戦闘に入る前に必ず用意しておきたい事柄を準備で、そして、戦闘中での特殊な戦い方を応用で紹介していく。

基本

戦闘に関する基本的な項目、事柄をおっていく。戦闘に入る前に、もう一度踏まえておきたいことを基本として、まとめてみた。



意外と連撃を入れずに初撃で止め、一撃一撃、攻撃を加えていく方が確実なダメージを与えられる。特に空中を飛ぶモンスターには効果的だ

●連続攻撃

基本的な攻撃は、Cボタンによる攻撃だ。剣や杖での直接攻撃となる。この攻撃は、ボタンを連打することで、次のモーションへ移行し、連続的な攻撃、連撃が可能となる。

連続攻撃の一発あたりの攻撃力は、攻撃を繰り出すごとに減っていく。また、連撃を繰り返すと、敵に回避されやすくなり、反撃を受ける可能性が大きい。そこで、2～3発連撃を入れて、必殺技へとつなげるのが効果的だ。

また、確実に敵へ攻撃をヒットさせるためにも、連撃を使わず、わざと単発で止めるのも効果的なダメージを与えられる。特に、空中を浮遊する敵に対しては効果的な戦法である。



必殺技が当たれば敵の足をとめられ、しかもアイテムを落とさせることができる。ガンガン使おう

●必殺技

必殺技は、一定時間以上Cボタンを押し続けると繰り出される技だ。その攻撃力は大きいのだが、攻撃後パワーが切れ、一定時間動きが停止してしまい、大きな隙を作るという弱点もある。

また、モーションが大きくガードされやすいが、逆に、連撃がガードされているときに必殺技へつなげると、ガードをくぐりヒットさせることができるのだ。なるべく連続攻撃と併用すると、効果的だ。

導く基本戦闘術

●会心の一撃

必殺技を繰り出したとき、通常1/16の確率で会心の一撃が放たれる。会心の一撃時には、キャラクターが一言セリフをしゃべり、気合いを入れた後、繰り出される。そのメリットは、攻撃中プレイヤーが完全に無敵化し、そして、攻撃力が必殺技の2倍となる。また、プロセルピナだけは、さらに敵をゴールド化することができる。



プロセルピナの会心の一撃が決まればラッキー！　コインの取り放題だ

●属性

モンスターには属性が存在している。属性は6種類あり、その属性を見極め攻撃するのが、必勝へのカギとなるのだ。存在している属性は以下の通りである。

剣	大型の敵、ドラゴンやポルターガイストは剣攻撃に強い
火	氷の属性を持つ敵や、木製など燃えそうな敵は、火の属性攻撃に弱い
氷	火系のドラゴンや、液体状のモンスターには、氷の属性攻撃が効果的
雷	金属製の鎧であるガイストアーマーや、海上の敵には、雷の属性に弱い
魔	魔族や悪魔に洗礼されている敵以外に効果的な、魔法の属性攻撃
聖	ゴーストや、グールなどのアンデッド系のみに効果がある、聖なる属性

●魔法石

宝石にマナのしずくを使用し、魔力を持たせた魔法石を用い、魔法攻撃を行なうことができる。基本的には飛び道具であり、遠距離攻撃を可能とする便利なものだ。魔法石は6種類存在しており、それぞれ属性を持っている。

★属性に関するアイテム

■プレイヤーの属性に干渉

凍てつく指輪	炎のダメージ1/2
やけつく指輪	氷のダメージ1/2

■敵に属性の攻撃を加える

各種魔法石	各種の属性による魔法攻撃
ばくだん	爆発の炎で、火属性の攻撃
魔炎剣の呪文	剣の攻撃が火の属性となる
雷神剣の呪文	剣の攻撃が雷の属性となる
大地震の呪文	岩を落とし攻撃する。魔属性
聖水	聖属性の投げアイテム
神聖なる紋章	聖属性の全方位攻撃アイテム

■魔法石の属性

バルカンの魔法石	火属性による属性
ツンドラの魔法石	氷属性による攻撃
トールの魔法石	雷属性による攻撃
ゴルゴンの魔法石	魔属性による攻撃
星々の魔法石	魔属性による攻撃
聖なる魔法石	聖属性による攻撃



さぁ、掲げた魔法石が輝き、魔法が炸裂！

BATTLE TECHNIQUE

準備

戦闘に入る前に、準備しておきたいことがある。準備が万全でなければ、ザコに負けることもある。また準備さえ整っていれば、強敵さえも恐くはない。戦術の前に戦略を再考すべし。



アイテムを大量に持っていても、使用中のバッグに入っていなければ意味がない

●戦闘用のバッグ

まず確認しておきたいのは、必要なアイテムが戦闘中に扱えるバッグに入っているかである。戦闘に入ると、従者が持っているサブのバッグと交換ができなくなる。そこで、たえず戦闘を終えたなら、バッグのアイテムを整理し、戦闘用に装備し直しておく必要があるのだ。



当然、ユグドラシルの実が最強の回復アイテムだ。でも、普段はスープがお手軽で便利である

●回復アイテム

当然、戦闘の中で窮地に陥ったとき、アイテムで回復を行ないたい。そのために、回復系のアイテムを戦闘用のバッグに必ず装備しておこう。このさい、体力回復系だけでなく、パワーを維持できるアイテムも装備しておくといい。これは、一気に敵を倒すのにも、ピンチを脱するにも便利なアイテムだからだ。そこで回復系は、両方の効果を兼ね備えるスープ系などを装備するといいだろう。



たとえ強敵の悪ゴルゴダでも、アイテムさえ万全なら怖いモノはない。特に分身の呪文や、無敵の薬などはボス戦のまえに用意しておきたい

●攻撃・攻撃補助アイテム

強敵の出現が前もってわかっているときは、回復系アイテム以外に、攻撃補助アイテムも用意しておこう。たとえば分身の呪文や、無敵の薬など、敵との戦いを有利に展開できるアイテムを、戦闘用のバッグに装備しておくのだ。その準備こそが、確実に敵に勝ちチャンスをもたらしてくれる。

また、もし属性が判断でき、弱点がわかるのなら、その属性に適した魔法石やアイテムなどを装備しておこう。特に、アンデッド系が出没するエリアでは、神聖なる紋章は当然のこととして、せめて回復にも役立つ聖なる魔法石も装備しておきたい。また、緊急回避用の魔法石として、トールの魔法石や星々の魔法石のような、広範囲にダメージを与えるものを装備しておくといいだろう。

応用

戦闘における効果的な戦法が存在する。特に、アイテムを併用する戦法は、絶対的は威力を発揮するだろう。ここでは、その応用戦術を追う。

●併用バルカンの魔法石

魔法石のなかでバルカンの魔法石は、他の魔法石と併用すると圧倒的な破壊力を発揮する。たとえば、ツンドラの魔法石といっしょに使うと効果は絶大だ。

まず、ツンドラの魔法で動きを止め、その足下へバルカンの魔法石を打ち込む。すると、落下地点で上がった火柱が、効率よく敵から体力を奪うのである。レベルが高くなっていれば、100以上のダメージを与えることができる必殺の攻撃だ。当然、ツンドラだけでなく、コルゴンの魔法石の併用でも同等の効果を得ることが可能である。



デーモンのような敵にも効果は大きい。ポイントは足下でバルカンの魔法石を爆破させることだ

●分身の呪文と無敵の薬

薬は薬同士を併用するとマイナスの影響を受けてしまう。だが、他のアイテムとの併用なら、なんら問題はない。そこで、攻撃力が2倍になる分身の呪文と、無敵の薬を併用するのだ。そうすれば、一定時間、敵の攻撃を受けずに、最大の攻撃効果をもたらすことができる。このとき、キノコやスープでパワーをフル状態にしておくと、なおいっそう効果的だ。また、敵の属性によっては、魔炎剣や雷神剣の呪文を使うのもいいだろう。



薬と複数の呪文の併用は、強敵に対する有効な戦略の一つだ

●冷ややかな目の盾

盾の中には、装備していると防御後に、物理的ダメージや属性によるダメージを与えることができるものもある。なかでも、冷ややかな目の盾は、防御時に敵を凍らせることが可能だ。凍らせることにより、敵の動きを封じ、大きな攻撃のチャンスを得ることができる。特に、一撃目をわざとはずし、必殺技を命中させるのが効果的だ。また、同時にバルカンの魔法石を打ち込むのもよい。

空中に舞い上がったりし、その動きがとらえにくいタランチュラなどには、効果的な攻撃法といえる。



敵の直接攻撃が当たった時点で、敵が凍りつく。動きを封じるのには絶好のアイテムだ

KWEIN

――クエイン騎士団長――

ヴァレンディア王国が誇る最強部隊、カード騎士団。その団長であり、かつグラドリエル女王のご指南役である。その髭面は敵を圧倒するが、女王の前では穏和な中年男性と化す…

ダッシュ後のなぎ払い、水平切りからつながる連続攻撃。その両刃の重量感あふれる剣から繰り出される攻撃は、どれをとっても強力である。デーモンやドラゴンに対してさえ、一撃一撃、致命的なダメージを与えていく剣豪。残念ながらその実力を、対女王の稽古で見ることはできない



クエインは基本的に練習相手の木偶(でく)である。しかも、たとえクエインにやられても、ゲームオーバーになることはない。再度、訓練が再開されるだけ。アイテムなどは使わずに、ガンガン攻撃しよう。当然ながら、基本動作の確認を怠らないように。特に、Bボタンでの回避運動や起き上がり攻撃などは、ここでタイミングを計るのがGOOD！
また、必殺技や、連撃のつながりを見るのも忘れずに。



クエインは木偶といっても、しっかり防御や回避運動をする。防御されてからの連撃の練習にはもってこいだ

ダッシュには要注意。思わぬダメージを受けたりする





クエインの必殺技、剣の大降り、しかも縦！　技を繰り出すときのモーションがわかりやすく、回避しやすいが、ダッシュ後に出されると、結構やっかいなのだ

OCHRE JELLY
――オーカージェリー――

世界中に生息する粘液状のモンスター。体の色はさまざまで、青や緑などのものがいる。変幻自在の体でどんな場所にも出没してくる。愛くるしい表情のわりに、いやらしい敵だ

愛くるしい顔に、スライム状の形態。その典型的な雑魚（ザコ）の様相とは裏腹に、非常にいやらしい敵だ。

まず、ジャンプ攻撃は厳禁。敵の食らいつきは対空防御として使われ、ガリガリとかじられる。当然、ダッシュなどの硬直時間が長い攻撃は、ガリガリの餌食。しかも、ガードしていても、ガリガリとやられる。終いには、ジャンプ攻撃でもガリガリと食らいついてくる。

そんな、オーカージェリーの最大の攻略法は体力まかせ。ふんだんにある体力にモノを言わせぶっ倒すしかない。また、贅沢な選択として、ツンドラの魔法石がある。とにかく動きを封じれば勝ったも同然だ。



どろどろからのガリガリ…。
うっきー！　ムッカー！

もし、体力が減少していて、魔法石を持っていないときは、運を天に任せて特攻…。連撃の第一撃目だけで、間合いを取りつつ戦うとか、オーカージェリーがばらばらに崩れ、再び合体するときに攻撃するとかあるが、はっきり言って気休めだ。諸君の幸運を祈る。



ガリガリだけでなく、こんな飛び道具も持っていたりする。おっと、ツルカメツルカメ



愛らしい顔から、こんな顔に…。さすが、単純細胞集合体、食欲第一なんだわな



オーカージェリーは、その粘液状の体をいかして攻撃をしかけてくる。ジャンプしながら間合いをはかると、小さな口をいきなり大きく開いて敵を飲み込んでしまう。また、自分の体をドロドロに変化させては、地面から敵にからみついてくる。そうやって徐々に相手の力を吸い取っていくのだ

DOHDOH

―― ドードー ――

巨大なくちばしが、最大の武器となっている。上から一気に振り下ろす攻撃と、首をめいっぱい伸ばして足元を狙ってくる攻撃とがある。また、翼をはばたかせ、空から飛び蹴りをお見舞いしてくる。さらに、一声鳴いた後で仲間たちが押し寄せ、一匹ずつ飛び蹴りを繰り出す連続攻撃も存在する

主として森に生息する巨大な野性の鳥。かんだかい鳴き声と、ワシのような巨大なくちばしが特徴的だ。また、ドードーの産む卵は栄養満点で、各地の名物料理にも愛用されている



敵の攻撃でもっとも怖いのは、ジャンプしてからの攻撃。ジャンプからは、ただの前蹴りと、空中で体を静止し蹴りを連続で入れてくる連撃の２種類がある。この２種類が、ガードしづらいのだ。しかも、レベルが上がるとジャンプが素早くなり、チョコチョコ動くドードーの蹴りをガシガシ受けてしまうのだ。

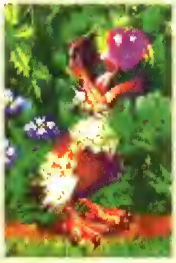
しかし、ザコはザコ！その動きにスキは多い。特にくちばしの下段攻撃をすると、しりもちをつき大きなスキができる。必殺技を繰り出せば、バシバシヒットするぞ。連撃を２つ入れてからの必殺など、効果的なアタックをかけていこう。



驚異!?　空中で炸裂する蹴り、蹴り、ケリ！　一度入ったら、途中で回避は不能。なすがままだ…



下段のくちばし攻撃。クリーンヒットされると転ばされるが、転ばなければ反撃のチャ～ンス！



あまり手間をかけると、ほらハートの実で体力回復をするぞ！　まっ、ちょっとだから、いっか…



ドードーの必殺技、仲間呼びが炸裂。次から次に出てくるドードー。ラストはちびドードーで締め

MYCONID

——マイコニド——

森などで出くわすキノコ型モンスター。胴長短足でつぶらな瞳がかわいらしい。また、体から採取されるキノコは、戦士達の間で戦闘時に服用する一種の興奮剤として愛用される

マイコニドはトコトコと、前へ後ろへと動くのが特徴だ。その動きは、勝手気ままなもの。しかも、こちらのことなどお構いなし。たまには回避運動や、攻撃を仕掛けてくるが、攻撃のプッシュプッシュで、か〜るく撃破できてしまうはずだ。動きが読みやすいので、必殺技もガンガン入るぞ。

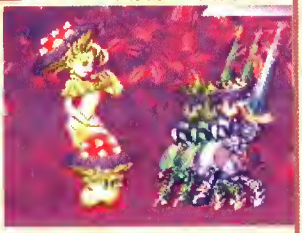
唯一の注意点は、幻影として現れる妖しいねーちゃんの吹く息を喰らい、マッチョなアニキと化す攻撃。ボタンの連打でいいので、ダメージを与えれば回避できる。だが、モロにアニキに蹂躙(じゅうりん)されると、キャラの体力だけでなく、プレイヤーの精神的ダメージも大きいぞ。要注意だ。



往年のラッシャー木村を彷彿とさせるような、頭突きが炸裂！　無防備で喰らうと、吹っ飛ばされるぞ



迫るアニキ、危うしグラドリエル！　これを喰らうと強烈！



妖しいお姉ちゃん登場！見たいためにワザとやられるのもいいけど、基本的に押せ押せで、マイコニドは倒せる。楽勝！



マイコニドの最大の武器は、体の半分をしめる頭のかさ。近かろうが、遠かろうが、頭突きを仕掛けてくる。その攻撃を喰らえば、かさからまき散らされた毒で幻影を見るはめに…。第一段階は艶っぽい女。さらに毒をくらうと、幻影はマッチョなアニキと化し、攻撃力さえもアップしてしまう

GOBRINS

――ゴブリン――

3匹が1組となって出現するが、攻撃してくるのは1匹ずつ。通常の攻撃は2種類。近場の敵を叩きつけるトンカチ攻撃と、剣を手にしたダッシュ攻撃。トンカチは剣での突き上げにつながるので要注意。また、3匹いっせいの袋叩きや、相手に取りついて、アイテムをばらまかれることがある

どんなところにでも出現する、イタズラ好きなモンスター。ちゃっかりものな性格で、旅人が道端に落とした荷物をすかさず横取り！　自分たちのマーケットに流してしまうのだ



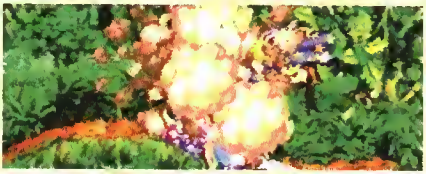
物語のはじめから、佳境に至るまで、たえず現れるモンスター。落ちたまま放置されているアイテムを、回収していく嫌な連中。レベルが低いときはザコであるが、後半になるともっとも嫌な敵の一つとなる。なにせ、せっかく集めたアイテムを、四方八方へまき散らすわ、笛を吹いて仲間呼んでフクロ叩きにするわと、やりたい放題やってくれるのだ。

さて、ウイークポイントだが、おちょくっておしりペンペンをしているときが狙い目。ただし、通常攻撃をかければ、その直後に攻撃される。たとえ連撃を加えても、2から3に移るとき、4から1へ戻るときにかわされる公算が大。そこで、必殺技をいきなりぶつけてやろう。第1撃をわざとはずし、必殺技を出せば効果的にヒットする。





ハンマーからのかち上げは、結構喰らいやすい。特に攻撃を加えた後は要注意だ



笛を吹かれた後の集中攻撃。もう、それはフクロ状態



リンにアイテムをばらまかれた

取りつかれてアイテムをばらまかれる。連続でやられた日にゃ〜…。や、やめてけれ〜！

FROGGER

――フロッガー――

湿気のあるところに生息する、カエル人種のモンスター。高い知能を持っており、性格は温和だ。しかし、中には狂暴な者もいて、餌場を通り過ぎる旅人へ襲いかかることもある

フロッガーは、とにかく捕まえるのが一苦労。その持ち前のジャンプ力で、頭の上を飛び越えていき、なかなか攻撃を当てることができないのだ。しかも、大きな一枚葉で、的確に防御はするし、根性据えてかからないと痛い目にあう。

そんなフロッガーに有効なのが、ダッシュ攻撃だ。地面にいるときを狙い、ダァッーとかぶせるように攻撃するのだ。もともと体力が少ないので、ダメージを与えることさえできれば、まったく問題なし。…とはいえ、必殺技である雷雨攻撃だけには、要注意を！



頭の上にいるハチへ、カエルのベロがうにょ～んと伸び、アウッ！



カエルの舌は、ハチのいるところめがけ、上へ下へと伸びてくる



あぁ、終末へのカウントダウン！　轟く稲妻、きらめく閃光、哀れグラドリエルは黒こげに。途中でダメージを与えれば回避できたのに…





驚くべきジャンプをみせるフロッガーの脚力。その脚から繰り出されるキックの連続攻撃が、一番の得意技だ。どこまでも伸びる長い舌で、飛んでる蜂を捕まえにいくとき、舌が当たりダメージを受けてしまう。また、雨雲を呼び寄せることができ、雨の後、敵へ向けて雷を落とす必殺技もある

BARBARIAN

——バーバリアン——

モコモコ筋肉から繰り出される、パワフルな攻撃が特徴。巨大な斧を軽々と操り、敵に向かって叩きつけてくる。また、魔法石などを活用するところをみると、ただの怪力バカでもなさそうだ。その証拠に、重量級の体格ながら軽快な動きを見せ、ダッシュ攻撃からの連携攻撃などをしかけてくる

主に荒野で暮らす蛮族(ばんぞく)。中には、かつて戦士だったという者もいる。だが、いまでは略奪行為を繰り返す集団と化している。旅人や商人たちのキャラバンにとって最大の敵である



ボスとしてもたびたび登場し、旅の行く手を阻むのが、このバーバリアンである。その動きは敏捷で、しかも強靭な肉体から繰り出される攻撃によって、大きなダメージを受けることを覚悟しなくてはならない。

攻撃する上での最大の注意点も、そのことに尽きる。連撃を入れようとしても、途中で抜けられ反撃を喰らいやすいのだ。そこで、攻略のポイントとなるのは、敵が硬直するガード時と、アイテム使用時だ。

ガード後の必殺技が入りやすい特性をいかし、敵がガードしたときすかさず必殺技だ。また、アイテムを手にした瞬間、攻撃を加えるか、もしくはこちらもアイテムで反撃すれば確実なダメージを与えられる。また、斧の叩きつけ攻撃は動作が大きく、攻撃後スキができる。そこへ、反撃を加えるのも効果的である。

大オノ、飛び越え、そして突かれる。こんなの決まった日にゃ〜、ねぇ…







デーモンに匹敵するほど、アイテムをよく使うぞ！





レベルが上がれば、防御される確率も上がる。だが、そこがチャ〜ンス！　さぁ、必殺技だ！

GHOST

——ゴースト——

暗闇に潜み、墓場に集う者たち。その正体は謎だが、非業の死を遂げた人間の魂が、実体化したものと伝えられる。行き場のない恨みをぶつけるため、生きている者へ襲いかかる

ハロウィンでお馴染みのかぼちゃ頭で出現するゴースト。体力を半分にするとかぼちゃがパカンと割れ、本体がむき出しとなるのだ。

ゴーストは空中を浮遊しながら攻撃を仕掛けてくる。しかも、動きが素早いので、なかなかクリーンヒットを決められないのだ。聖なる魔法石や神聖なる紋章で、確実にしとめる手もあるが、それは緊急事態の回避法。ダンジョンなどでの遠征では、そうそうアイテムばかりに頼っていられない。

そこで、注目なのがちょこちょこ斬り！　連撃を入れずに、第一撃目だけで倒すのだ。ゴーストは攻撃に対する抵抗力が弱く、ダメージを喰らうと吹っ飛ばされスキができる。そこへ、再び一撃目を重ねればOKだ。ただし、ポートガスの場合は、一撃目が当たりづらいので、二撃目のイーグルレイドを使おう。



死神の大鎌の攻撃時はバックステップでよける。サイドステップだとやられるぞ

パンプキンヘッドをかぶっているときの基本攻撃。シッポアタック！

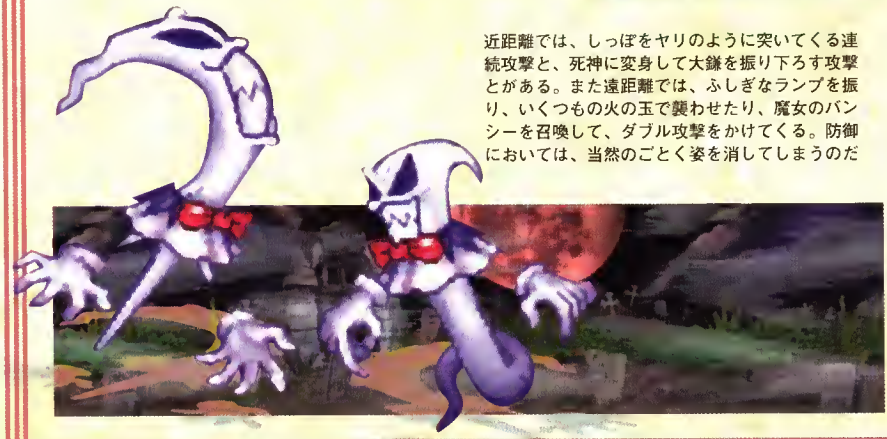


キャッチ、アンド、プレス。見る見るうちにHPが…

ゴーストに召喚されるバンシー。アンデッドのツープラトン攻撃が炸裂する



近距離では、しっぽをヤリのように突いてくる連続攻撃と、死神に変身して大鎌を振り下ろす攻撃とがある。また遠距離では、ふしぎなランプを振り、いくつもの火の玉で襲わせたり、魔女のバンシーを召喚して、ダブル攻撃をかけてくる。防御においては、当然のごとく姿を消してしまうのだ



GHOUL

――グール――

グールの最大の武器は、だらりと垂れ下がった長い腕だ。５本の指が瞬時に鋭いハサミに変わるや、２本の腕から連続攻撃。さらに、敵を追いつめた途端、口から黄色い嘔吐を垂れ流し、逃げる者には首を打ち出し串刺しに。極めつけは、地中から茨の椅子を出現させて、敵を縛りつけるのである

土の中で眠っていた死者が魔力を得て甦った。かりそめの命とはいえども、再び現世に戻ってきたその姿に人は恐怖する。そして、その恐怖が、いま仲間を増やすべく生者を狙う。



アンデッド系だが聖攻撃は効きにくいし、リーチが長く飛び込みにくいし、ＨＰは高いし、攻撃力も高いし、動きは遅いけどスキはないし…。嫌なヤツである。

とにかく、出会いたくない敵、ナンバー１と言っても過言ではない。もし、茨（いばら）の拷問椅子など喰らったら、パッドを投げ捨てリセットしたい、そんな敵である。

対処法としては、属性が火系の、バルカンの魔法石や魔炎剣の呪文が効果的。ゴルゴンやツンドラの魔法石で動きを止めて、バルカンの魔法石をぶち込め！

剣で叩きのめすなら、必殺技しかない。相手の守備範囲内に飛び込み、ちまちま攻撃するのは自殺行為。一撃必殺で敵を圧倒するしかない。グールが歩んでくるときや、後ずさるときがチャンスだ。

グールが出現しやすいセメタリス付近やダンジョンでは、パワー増幅アイテムを必ず用意しておこう。



グールの必殺技、茨の椅子。茨がグラドリエルの体に食い込む、まさしく拷問椅子



腕による通常攻撃。捕まったらカゴの中のトリ状態。逃げられない



物体Ｘ状態で飛んできた首から、トゲが飛び出し串刺しに…



攻撃を回避し、地中へもぐるグール。串刺し状態で突如現れる

CENTAUR

——ケンタウロス——

下半身は四本脚の馬の姿。上半身は金髪碧眼のあどけない子供の姿。その実態は半人半獣のモンスター、ケンタウロス。かわいい顔をして無邪気に弓を引きまくるアブナい子供だ

持ち前の四本脚で高速移動し、次から次へと矢を放ってくる。しかも、矢は広範囲に連続速射され、バックステップでも、タイミングが合わなければジャンプでも、避けきることは不可能だ。さらに、画面の外へ駆け出していき、ダッシュ攻撃をしてくる。そのため、攻撃を仕掛けるタイミングすらつかみにくいのだ。

そこで、的確に敵を捉えるために、サイドステップを利用する。つまり、敵の背後に回り込み、攻撃を加えるのだ。サイドステップは、ケンタウロスが画面から外へ出たとき、または矢を近距離で次々に放たれたときに、Bボタンを押し続け、使うのが確実だ。あとは連撃からの必殺技で倒してしまおう。また、魔法系の攻撃では、聖なる攻撃以外、どの属性も効果がある。魔法石などを有効に使うのもいいだろう。

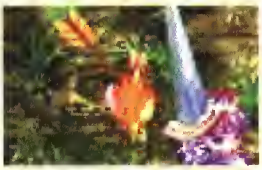


連射装置が付いているかのごとく、矢の雨が降る…　接近されたら、サイドステップ以外、逃げようがない！



外へ走り去ったら、どっちから来るかドキドキ状態。油断するとだだっ子パンチの餌食





グラドリエルの頭上めがけ、降るは懐かし矢ガモ君？



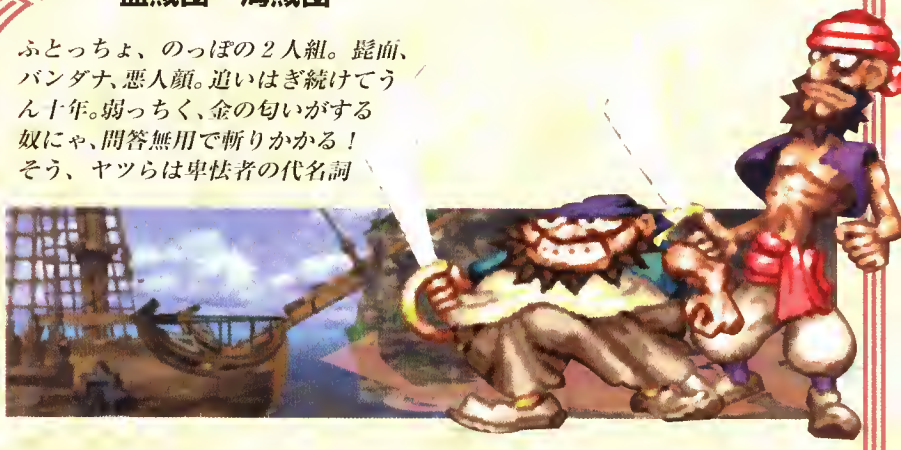
武器はなんといっても弓矢。まるでオモチャで遊んでいるかのように、楽しく攻撃してくる。放つ矢は１本だけでなく、ときには一気に３本、５本と射ってくる。また、空に向かって矢を放ち、射抜いた鳥を敵に当てて、ダメージを与える。弓矢以外には、画面外からの体当たりに注意が必要だ

BANDITS・PIRATES

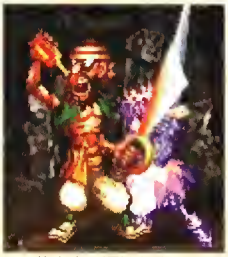
盗賊団・海賊団

2人組で現れるが、襲ってくるのは1人ずつ。攻撃は剣の連続技と、手投げの剣が中心。のっぽの方が兄貴分であり、動きが若干素早く、ふとっちょに比べてダッシュ攻撃を多用する。時には片方の号令のもと、大砲による連携技を見せる。また、携帯している酒を飲めば、体力が回復していくぞ

ふとっちょ、のっぽの2人組。髭面、バンダナ、悪人顔。追いはぎ続けてうん十年。弱っちく、金の匂いがする奴にゃ、問答無用で斬りかかる！
そう、ヤツらは卑怯者の代名詞



攻撃に対してのガード力や、回避能力が低いのか、連続攻撃が決まりやすい。敵の攻撃も、剣によるけん制から大斬りと、単調なため、ガンガン攻めるのがベスト。だだし、ダッシュ攻撃などの体当たり技で吹っ飛ばされ、起きがけに攻撃しかけてくることがしばしばある。起き上がり攻撃などを利用し、間合いを確保しながら戦おう。また、戦闘中に装備強化の呪文をよく落とす。必殺技を多用し、装備アイテムの補強相手に使うのも手である。



仕事中の酒はうまい！
…じゃなくて、戦闘中の酒は体力を回復させる



ナイフ投げは、二人のオーソドックスな攻撃。威力はないので、防御で充分だ



のっぽが戦闘中、2人組が怪しい動きをみせると、ふとっちょが大砲を撃ってくるのだ。どっかぁーん！





中段からの連続斬りが、基本の攻撃。一撃一撃の間が短く、一発喰らうと立て続けにダメージを！

CHAOTHIC EYE

——カオティックアイ——

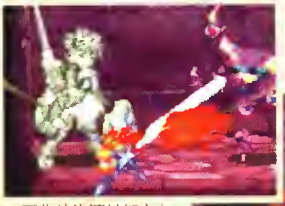
主として洞窟に生息する目玉のモンスター。ヒトデのような体に、中央からギョロッととび出た眼球が特徴的だ。5本の足先にも小さな目がそれぞれあり、常に敵を見据えて動く

ひとたびその巨大な目玉が放つ攻撃を受けると、何人も逃れる術はない。

カオティックアイが放つ、ゴルゴンやツンドラの魔法は絶対に避けなくてはならない。もし、石化や氷づけにされ、さらに連続でゴルゴンの魔法などを放たれたのなら、なす術がないのだ。じっと体力が消耗し、死に至るのを待つしかない。

とりあえず魔法からは、バックステップとジャンプを駆使して、逃れるしかない。サイドステップでは、ツンドラの魔法などは回避できない。あくまでも戦闘フィールド内を有効に使い、後ろへ逃げるのがベスト。

そして、空中にいるカオティックアイには、連撃ではなく、必殺技を用いよう。連撃は、下段判定の攻撃が入った時点で、敵に回避されるからだ。そして、ジャンプ攻撃による追撃で、しとめるしかない。また、戦闘時に天使のブーツや、飛行石の指輪を持っていると、空中への回避がしやすく、有利に戦えるぞ。



石化や氷漬けにされ、動きを止められると、次の攻撃を回避できない。ピンチである

地面に脱ぎ捨てられた残骸。注意しないと、ダメージを受ける





基本の攻撃はテレキネシス。光線に近い技だ





カオティックアイの攻撃には、打撃系のものはなく、魔法的な攻撃が主となる。巨大な目玉からはあらゆる魔法が、しかも連続に繰り出される。また、空中で波紋を放つテレキネシスや、地上に放置された体の抜け殻から、酸性の液体を吹き出し、敵にダメージをあたえる攻撃などを持っている

SLAVE WOOD

——スレイヴウッド——

主に左手の回転ノコギリを使い、攻撃を仕掛けてくる。時にはノコギリをタイヤ代わりにして走行し、まるでローラーをかけミンチにするかのごとく、体の上を行き来する。また、ノコギリ以外にも、空中から降下しつつ伸ばした鼻で敵を突きまくったり、強烈な頭突きでかち上げる攻撃がある

左手にいかつい回転ノコギリを装着した木の人形。普段はピエロのようなひょうきん顔だが、人を襲うときには残忍な表情に変貌。血を求める回転ノコの唸りが、恐怖を倍増する



心ない木製のドール…。ボスとしても登場するスレイヴウッドは、ゆったりとした動きから、攻撃をしかけてくる。しかも、木製という軽さからか、ジャンプ力があり、空中を舞うように移動することもあるのだ。

この敵へ確実にダメージを与えるためには、ダッシュ攻撃が適している。地上を滑るように移動しているときを狙え！　もし、飛び上がったなら、上段に当たり判定がある技を利用して叩き落とし、間合いをつめて必殺技を繰り出そう。

また、材質が木だけあり火系の攻撃に弱い。バルカンの魔法石や、魔炎剣の呪文を利用し攻撃しよう。



ノコを突き出し、ガガガとダメージを与える中段攻撃！



全身直立！髪の毛(?)逆立て、ズッコーンと頭突きでかちあげる！



ピザのカッティングローラーのように…、上り下りのJR電車（笑）のように…、あぁ無惨！



伸びた鼻でのフレスをくらい、グラドリエルはべっちゃんこ。立てぇ、立つんだ！

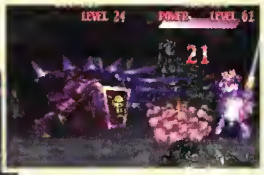
GEIST ARMOR

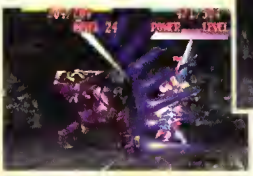
——ガイストアーマー——

その正体は、不運な死を遂げた強兵（つわもの）という。敵の大将を倒せなかった後悔が、浮かばれない魂を鎧にのり移らせた。愛用の剣と盾を携え、再び剣を交える時を心待ちにしている…

遠距離、近距離、対空と多種多様の攻撃をしてくる。しかも、一撃で数ヒットのダメージを与えることができる攻撃ばかりだ。その動きの機敏さと、攻撃スピードに押し切られやすい。敵の攻撃に当たらないのが第一だが、ダメージを喰らっても慌てずに、防御からBボタンで回避運動に入る冷静さを持つようにしよう。

攻撃ポイントは、接触するほど接近したときだ。敵は近接での回避能力が弱いため、連撃が入りやすい。だだし、4ヒット以上にはせずに、必殺技につなげるようにしよう。また、雷への抵抗力が低いため、距離が離れたらトールの魔法石を利用したり、雷神剣の呪文で剣を強化して戦えば、展開はかなり有利になる。



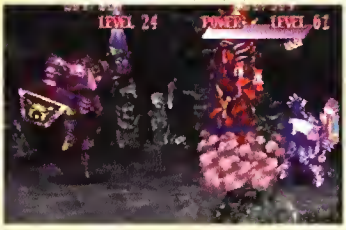


縦と横。基本となる攻撃でも、直撃を受けるとダメージは大きい

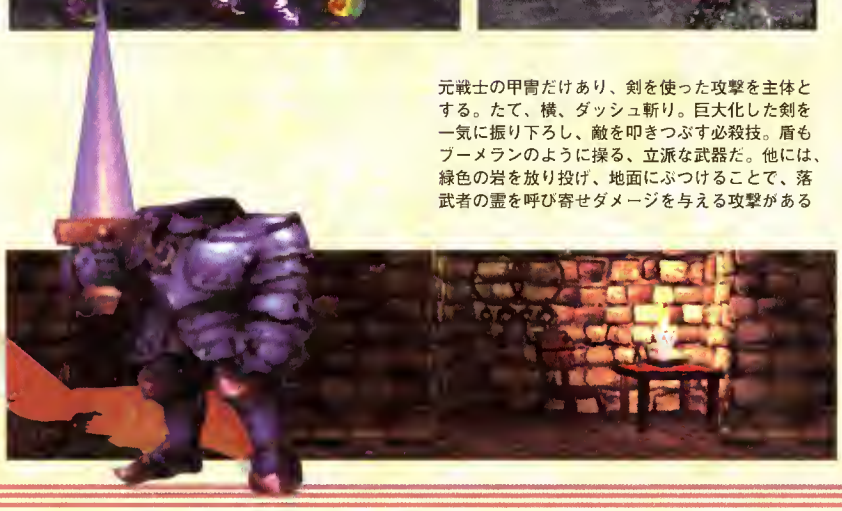
空中からの攻撃。敵の攻撃をかいくぐれば、反撃のチャンス

必殺の一撃！　巨大化した剣が、画面を埋め尽くしプレイヤーを襲う





元戦士の甲冑だけあり、剣を使った攻撃を主体とする。たて、横、ダッシュ斬り。巨大化した剣を一気に振り下ろし、敵を叩きつぶす必殺技。盾もブーメランのように操る、立派な武器だ。他には、緑色の岩を放り投げ、地面にぶつけることで、落武者の霊を呼び寄せダメージを与える攻撃がある



TARANTULA

——タランチュラ——

必殺技は網を大きく張り、獲物を捕え子クモに襲わせる攻撃だ。通常攻撃として、爪や子グモ攻撃もあるが、特徴的なのは上空に飛び上がった後である。頭上に急降下し、獲物を捕える攻撃や、張った糸を利用し、網を放ってくる攻撃がある。また、ジャンプ後は敵に抱きつきダメージを与える

森林、荒野、洞窟など、さまざまな場所に生息する巨大クモ。その性格は極めて凶暴。巣の側を通る旅人には、頭上から静かに忍び寄り、糸と8本の脚でからめ取って逃さない



タランチュラに対して注意しなければならないのは、画面上空に姿を消してからだ。姿を消してからの動きは3種類。急降下し捕まえようとしてくるもの、糸を張り網による攻撃をしかけてくるもの、そして、ゆっくりと降下してくるものだ。基本的に上空へ上がったら、急降下してくると考え対処する。それは、降下してきたのを確認してからでは間に合わないからだ。防御でもBボタンによる回避でもいいので、準備しておこう。もし、急降下でなければ反撃のチャンス！　ジャンプ攻撃でも、必殺技でも決めることが可能だ。

また、地上にいるタランチュラには、ジャンプ攻撃は厳禁。対空防御になる飛びかかりでキャッチされ、ダメージを受ける可能性が高いからだ。地上をダッシュで接近し、攻撃しよう。



片手を上げて、きつい突っ込み！　リーチが長いのでよく喰らうぞ



上に逃げた後、横糸の上を移動するのをほっとくと、こんなのを喰らう…



上へ消えたら、左右に動いて止まらないこと！　急降下で、抱きつきにくるぞ



クモの巣広げ必殺技炸裂！　ゲットされると子グモにやられる

BASILISK

——バジリスク——

地中に潜む奇怪な姿のモンスターだ。ニワトリのような顔をし、ワニみたいな8本の腕がはえ、ヘビのような胴体を持つ。その姿を見た者の末路は、だだ冷たい石と化すのみである

バジリスクの最大の攻略法は、なんといってもメッキの呪文を使い、敵の石化光線を封じてしまうことにある。そうすれば、単なる耐久力のあるザコと化す。シッポの攻撃はあくまでもけん制だし、青白い光球の攻撃はバジリスクに近づくことで難なくかわせるからだ。

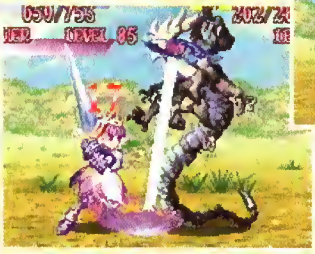
問題はメッキの呪文を使わないときだ。石化の光線をかいくぐり、攻撃を加えるわけだが、サイドステップは使わず、ジャンプによる飛び込みが確実だ。光線は上段、下段、対空用の3つの撃ち方がある。その撃ちはじめのクセを覚えてしまえば、ジャンプとダッシュで接近し攻撃できる。攻撃のポイントは、最初の一撃にある。もし攻撃が成功したら連撃を用い、ガードされたなら慌てず、そのまま必殺技につなげよう。また、敵の動きを封じる魔法石・ゴルゴンやツンドラも効果的に使おう。



砂をかきわけて地中に潜るバジリスク。近くでボーっとしてるとダメージを受けるぞ！



基本攻撃のシッポも、射程距離が長いから、うかつに近づくと危険





石化光線は、メッキの呪文を使用していれば、ダメージを受けない。あせらずに次の攻撃に転じよう



土の中がすみかなだけあり、地面に潜ってからの神出鬼没な攻撃は敵を不安にさせる。そして、バジリスク最大の能力、石化光線をそのギョロっとした目玉から放つのだ。そこへ、青白く光る誘導弾を発射し、とどめをさす。また、通常のけん制攻撃には、しっぽを振りかざした連続技を用いる

GRIFFON

——グリフォン——

上半身は鷲、下半身が獅子、そして全身から女性を感じさせる魔の怪鳥。多少の知能はあるが、性格は残忍で、凶暴。肉食であり、しかも獲物を殺すこと自体を楽しんでいる面もある

その翼をいかし、空中を自在に飛び回りながら攻撃をしかけてくる。基本攻撃はその鋭い爪だ。近づく物体は、どんなものでも引き裂かれる。巨大な翼から巻き起こされる風圧も脅威である。かまいたちのごとく切り刻むもの、渦に巻き込み、空中から叩き落とすものと、強力な破壊技を持つ

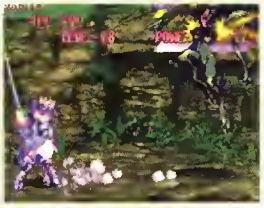


空中を自在に飛び回り、その鋭い爪と翼によって作り出される突風が体力を奪う。しかも、正面からの攻撃は、かなりの確率で回避されてしまう。

そこで、鋭い爪で下段を攻撃してくるところに、Bボタンを押したまま近づいていくのだ。すると高確率で回避モードに入る。その後、サイドステップで背後に回り込むのだ。背後からの攻撃なら、回避されることはない。必殺技を繰り出そう。ただし、Bボタンを押しっぱなしだとパワーは消費する。パワーが切れて、動けなくならないように！



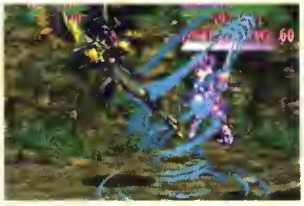
空中からのひっかき攻撃。予備動作が少ないので、避けにくいぞ



巨大な翼がくり出す突風は、ダメージこそないが、攻撃にうつれないので、やっかいだ



グリフォンの必殺技。ひっかきの連打から竜巻攻撃へとつなぎ、大きくHPを奪う。脅威！



POLTERGEIST

――ポルターガイスト――

人気がない部屋での不思議な音、暗闇で蠢きはじめる家具たち。霊現象を引き起こす根源、それがポルターガイスト。にぎやかな幽霊が、旅人の行く手を阻む、そういたずらで…

ポルターガイストは、体型は大きいが攻撃をヒットさせにくいモンスターだ。それは、常に空中を浮遊し、ガードの能力が高いためである。さらに地面に潜る回避運動や、周囲にアイテムを回転させながら攻撃してきたり、容易に近づけない。

攻撃のポイントは、アイテムの合間を強引に切り込むことだが、召喚したものなどが火の玉だと、集中攻撃を受けることにもなる。確実なのは緑の息を吐いたときや、シッポ攻撃のさいにサイドステップで回り込み、一撃ずつ相手の体力を削っていくことだ。また、氷の属性に意外と弱いので、ツンドラの魔法石を利用するのもいい。



大きな額を盾にしてガードする。余裕な笑い顔がにくらしい！

エクトプラズム攻撃は、懐に飛び込んでしまえばヒットしない。必殺技で反撃だ！





ポルターガイストの動きが止まったら回避行動の準備をしよう。巨大な宝箱が落ちてくるぞ



木馬や人形、花瓶などが、バリアのようにポルターガイストの周りを回転し、合図とともに襲ってくる。攻撃で破壊できるけど、回避して背後に回ったほうが安全だ



基本攻撃には、エクトプラズムを吐く下段攻撃、シッポによる中段攻撃がある。特徴的なのは、自分の周囲に物体を召喚し、その物体による攻撃を行なうことだ。召喚する物体には、火の玉、人形、木馬、皿、花瓶などがある。また巨大な宝箱を相手の頭上に落とし、ダメージを奪う攻撃も行なう

SIREN

―― セイレーン ――

航海中に稀に出会う人魚。７色に光る鱗、透き通るほど白く柔らかい肌、輝かんばかりのエメラルド色の瞳。見る者を陶然とさせるほどの美しさに、生きた海の宝石とも言われる…

尾びれから繰り出される攻撃は、その美しい姿からは想像もできないほど力強い。また、水中を泳ぐように、空中を飛んでタックルをしてくる。必殺技は、得意の海に引き込む攻撃だ。透明な彼女の歌声にうっとりと聞き入らせ、意識をなくさせてしまう。そして、異界の海へ引き込むのである



セイレーンは空中を飛ぶように泳ぎ回る。そのため、攻撃が非常に当たりにくい。そこで、ダッシュ攻撃を使うのだ。セイレーンが海中から浮き上がり、甲板の高さで止まったとき、ダッシュ攻撃を当てることができるのだ。そして、ダッシュ攻撃の後、連撃を数発入れることができる。その繰り返しが、確実だろう。

また、敵の攻撃能力が高いために、魔法石を多用してでもいち早く倒したい。広範囲にダメージを与えるトールや星々の魔法石を使えば確実にヒットできる。ツンドラの魔法石は、空中でヒットすると甲板に叩き落とすことが可能なため、効果的だ。



得意の歌声。惑わされるな！





人魚だから泡でガード。剣で突いても割れないぞ

尾びれでピンタ。地味だけど、ダメージはけっこう大きいのだ



必殺技の、つかみ潜り。上空から急降下しながら、相手をつかんで海にドボン！息ができずにガボガボ…と苦しむしかないぞ

CAPTAIN BIGFOOK

——ビッグフック船長——

悪逆のかぎりをつくす、海賊の大ボス。右目の眼帯にほうぼうの顎髭、左手の大きな鉤爪(かぎづめ)が、相手を威圧させる！　若い女性なら耳を覆いたくなるような、汚い罵り言葉が口癖だ

ビッグフックの攻撃は、ガードがしにくい。たとえガードできたとしても、戻ってきたフックによって、後方からダメージを受ける。ここは一番、体力まかせの攻撃が得策となる。

通常の攻撃では無理に必殺技を当てようとせず、ジャンプ攻撃や、連撃を当てるようにし、地道にダメージを与えていこう。特に敵がジャンプしている時には、連撃の初撃などの対空技で迎撃すれば、確実に体力を削っていくことができる。



あせりは禁物。確実に少しずつダメージを与えることが大事だ



その体型を生かした（？）転がり攻撃は、さすがに強力。スピードがあるので、よけそこなうとプレスされてしまう

右足のバネを使ったジャンプ攻撃。落下の瞬間をダッシュ攻撃して足下をすくってしまおう！



距離をとっているからといって油断は禁物。鉤爪のロケットパンチが飛んでくるぞ！





ダルマのような体から繰り出される攻撃は、重量感があり、ダメージも大きい。敵をつぶそうと、ゴロゴロ転がってきたり、全体重をのせた肘鉄をくらわせてくる。必殺の技も強力で、改造した体を使って、鉤爪を飛ばすロケットパンチや、義足を利用したジャンプ攻撃を繰り出してくる。

PROSERPINA

―― プロセルピナ ――

攻撃はもちろん魔法がメイン。地面に魔法陣を描くと、魔法陣自体が回転して相手を放り投げる。もちろん魔女の必需品、空飛ぶほうきに乗っては、魔法のしずくを落としたり、暴走状態でアタックする。基本は愛用の杖を振り回す、だだっこパンチ攻撃。わがままなおてんば娘、一番の得意技だ

負けず嫌いで，元気一杯なちっちゃな魔女。自分の行く手を邪魔するものは、すべてが敵。そんな相手には、大魔女のオババ直伝、強力魔法をぶち込んで、こっぱみじんに粉砕する



プロセルピナは古びた小屋での遭遇以降、グラドリエルにあわせてレベルを変化させて登場する。自分が強くなっても、相手も強くなっているという厄介ものだ。反撃が素早く、剣で攻撃の直後、魔法で攻められてしまう。また、だだっ子パンチは、ガードをくぐり抜けダメージを与えてくる。

そこで、攻撃はほうきに乗って空を飛んでるときに絞った方がいい。プロセルピナは、防御が弱いので攻撃しやすい。しかも必殺技を使えば、効果的にダメージを与えることができる。



攻撃のスキをついて、必殺技の魔法陣が襲いかかる！



空中戦の誘いに乗らないように！プロセルピナの思う壺だ







動きの予測がつけにくいプロセルピナの攻撃で、一番恐いのは、杖の振り回し。いきなり仕掛けてくるぞ！

GRADRIEL

——グラドリエル姫——

ヴァレンディアの女王様で、城を抜け出しては冒険を続ける、わがまま娘。行く先々で、か弱い動物をいたぶっては、去っていく。でも、それは魔物が化けた姿という話も…

グラドリエルと戦うのは、プロセルピナだけである。グラドリエルとエドワードが対峙するのは、ドッペルゲンガーが化けたもの。ただし、その能力は本人となんら変わらない。

グラドリエルは主人公なだけに、コンスタントにまとまった攻撃能力を持つキャラだ。しかも、アイテムを使用してくるので、持久戦に持ち込まず、短期に決着をつけるのがベスト。分身の呪文や、魔法石を駆使し、瞬殺を心がけた方がいいだろう。

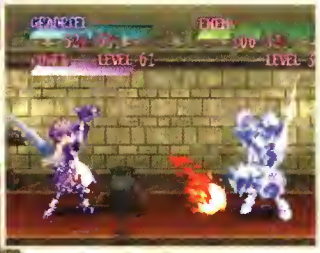
肉弾戦で応戦するのなら、サイドステップを巧みに使い、背後から攻撃するようにするしかない。もし、前面に入ったら、連撃のいい餌食となるのは、明らかだからだ。また体力まかせに攻撃するのもいいが、アイテム補給のタイミングを間違えると悲惨な目にあうぞ。

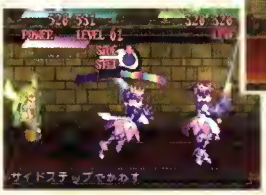


グラドリエル本人だったり、ドッペルゲンガーの変身だったり…。彼女とのバトルは何回かあるが…



ツンドラの魔法石で凍らせてからバルカンの魔法石を使うと大打撃を与えられるぞ





前で戦うと危険なので、常にサイドステップを使い背後から攻撃するのが鉄則だ



前後への軽快なフットワークから、繰り出される4段階の連撃は相手に脅威を与える。たとえ、逃げようとしても、ジャンプからの攻撃により、退路を絶たれる。そして、魔法石でけん制しつつ相手に近づき、間合いに入った瞬間、必殺技である最強の剣エクスカリバー炸裂！　相手を粉砕する

DRAGON

——ドラゴン——

生きとし生けるもの、すべてから恐れられる最強のモンスター、ドラゴン…。鋭い牙が見え隠れする巨大な口。あらゆるものを引き裂いてしまいそうな凶悪な鉤爪。一振りすれば、暴風を巻き起こす翼。存在そのものが凶器だ



ドラゴンとの戦いで油断は禁物！灼熱の炎で一瞬にしてステーキにされてしまうぞ

ドラゴンは、共通の攻撃パターンを持っている。そのパターンさえ見切れば、属性が変わっても問題なく対処できる。

ドラゴンと対峙するさい、最大の脅威となるのは、その口から吐かれるブレスだ。強力な攻撃力と、それぞれの属性を兼ね備えているだけあり、直接喰らえばそれ相応のダメージを覚悟しなくてはならない。また、急降下からのキャッチ攻撃も要注意だ。

だが、攻撃前の相手の動きを見て、攻撃をかわすことができる。ドラゴンは、ブレス攻撃の時は、吐く前に口を開いて上体を起こすのだ。上体が浮いてから、回避運動をとっても十分に

巨大な翼で上空に舞い上がるドラゴン。回避の準備をしよう



間に合う。ただし、サイドステップだとブレスの餌食となるので、バックステップやジャンプを使おう。

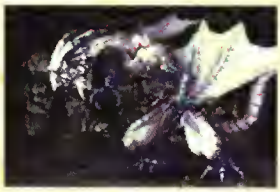
またキャッチ攻撃は、一度上空に舞い上がったあと、前方斜め上から進入してくるパターンと、真上から急降下してくるパターンの2通りがある。基本的にサイドに避けて、ガードするのが最適な回避法だ。



上空に消えたドラゴンが急降下してつかみかかってくるぞ！


斜め前ばかりに気を取られていると真上からつかまれる。注意！

アイスドラゴン



ブラックドラゴン



ハインデル



また、何といっても体力のありあまるドラゴンを攻撃するときは、確実に必殺技を入れていきたい。そのためには、動きが止まり、低空にいるときを狙わなくてはならない。

最大のポイントは２つ。翼を広げ上体を起こしたときと、斜めからの降下によるキャッチ攻撃をかわしたあとだ。両方とも動きが止まり、数回の連打から必殺技へとつなげられる。また、地を這うタイプではないブレスの場合、懐に飛び込むことができる。当然、ブレス中は動きが止まるので、最大の攻撃チャンスとなる。



上体を起こしてブレスのエネルギーを充填！



早めに防御しないと黒コゲになってしまうぞ



炎を身にまとって突撃しながら火の玉を吐く必殺技。火の玉は火柱となって襲いかかる



鋭い牙もドラゴンの恐るべき武器のひとつだ

ドラゴン系の最大の攻撃は、その巨大な口から吐きだされるブレスだ。その威力は絶大で、かつ数種のパターンが存在する。だが、ドラゴンの攻撃はそれだけではない。鋭い鉤爪での攻撃や、相手を捕獲し飛び立ち、地上へ叩きつける攻撃…。数多くある攻撃、ひとつひとつが強力なのである



DEMON

―― デーモン ――



魔界をすみかとするデーモン。強靭な肉体と、すべてを破壊する恐ろしい魔力を持つと言われる。混沌たる世界を欲し、魔王ヴォーグロドの復活のため、人と争い続ける彼ら…。そして、再び闇の使者は、地上に降り立った

デーモンの攻撃は、上空からのものより地上を滑ってくる左右の攻撃の方が脅威である。特にその爪を使った攻撃は強烈で、大量にＨＰを奪われてしまう。

これらの攻撃はぜひともガードか回避したいところなのだが、モーションなしで繰り出されてくるので、間合いを取っておくしかないのだ。

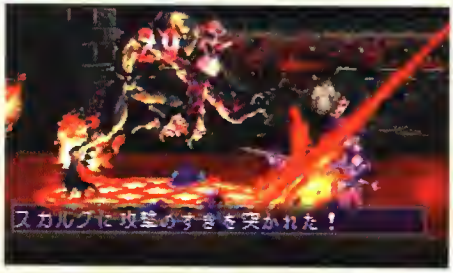
だが逆に、ブレス関係は放たれるまでのモーションが大きく、回避運動に移るのは容易だ。それは魔法石での攻撃にもいえる。また、ボス系のデーモンは、ＨＰがある一定以上減ると、回復系のアイテムを使ってくる。そのことを踏まえて攻撃プランを立てよう。



爪をドリルのように回転させる基本攻撃は、いきなり繰り出されるため、回避が困難。不用意に近づかないようにしよう



強烈なブレス攻撃。予備動作が大きく、動きがつかみやすいから回避は難しくない。当たったら大ダメージを受けるぞ

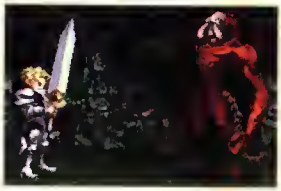


魔法陣から火柱を起こす必殺技。こっちの攻撃のミスを狙って容赦なく放ってくる

シャドウ



ブラッディ



スカルグ



攻撃のポイントは、ダッシュ攻撃や、ジャンプ攻撃をガードしたあとだ。

基本的にデーモンは連続した攻撃を繰り出してこない。そのため、連撃による押し込みでも充分に対応できる。

また、アイテムを使用しようとするとき、懐がガラ空きになるので、大きな攻撃チャンスとなる。ダッシュ攻撃で潜り込み、必殺技を決めていこう。

ボス級には、アイテムを使用するのがベストだ。

ただ、どのボスでも、魔法石による攻撃が非常に有効である。戦闘に入る前には、魔法石を十分用意しておこう。



地面を滑るように接近し、そのまま爪で突き上げる、爪アッパー。たまに3連続で打ち込んでくるときがあるから注意しよう

爪アッパーをサイドステップで回避し、背後に回り込んでから連撃。これが基本の攻略だ！





体内に保存している魔法石を惜しげもなく使いまくるデーモン。こいつの腹は底なしか!?

デーモンはその鋭い爪を、ドリルのように回転させて攻撃する。腕は伸縮自在。間合いは取りづらい。ダッシュのあとの攻撃も、爪によるものだ。また、口から火炎を放出する攻撃を行なう。体内には、魔法石をストックしておくこともでき、戦闘中に自在に吐き出しては使用してくる



EVIL GRADRIEL

―悪のグラドリエル―

悪のグラドリエルの攻撃は、魔法石による魔法攻撃である。空中に浮遊しながら、聖なる魔法石以外のあらゆる魔法石を連続に、しかも無制限に使ってくる。バルカン、ツンドラ、トール、ゴルゴン、星々の魔法石…。そして、必殺技は邪悪なるものの象徴であるヘビを召喚して攻撃してくる

物体に光が射せば、必ず闇ができる。光の女神の加護を受ける者にも、魔の心は根づいていた。人を恨む心、人を妬む心…。その闇が、実体と化す。もう一人のグラドリエルとして。



魔法石を多用してくる悪のグラドリエルを倒すためには、体力に訴えるしかない。スープなどの大量にＨＰを回復するアイテムを持って戦いに望もう。

戦闘は先手必勝。無敵の薬、分身の呪文、そして魔法のキノコなどのパワー増強アイテムを併用して、一気に体力を奪おう。あとは、悪のグラドリエルが魔法石を使う合間に、飛び込んで必殺技を繰り出すのだ。

また、ヴォルガ城に入ってしまえば、敵に遭遇しない。逆に謁見の間にたどり着くと、そのままイベントが続き、アイテムの装備換えができない。早めに準備を整えて、謁見の間へ行くのが、対悪のグラドリエルの必勝法だ。



彼女の体の周囲を回転する魔法石は使い放題。バシバシ魔法を使いまくって追い詰めてくるぞ





巨大なヘビを召喚して攻撃させる必殺技。すばやくガードしないと、かみつかれるぞ



EVIL ERIEL

——悪のエリエル——

グラドリエルの行く手に現れる赤毛の魔法使い。悪の策謀を巡らす赤き魔女。それは魔の書に心を奪われた、優しき姉の姿…。双子の姉エリエルが、いまグラドリエルに襲いかかる

敵の動きは素早く、空中を移動していく。また、ワープにより攻撃を回避し、体勢を入れ替えてくる。

ただし、魔の書によるかみつき攻撃はあまりしかけてこない。そこで、ダッシュで敵の懐に先に潜り込み、攻撃を加えるのがいいだろう。攻撃は単発斬りか、単発からの必殺技が効果的である。

また、空中を移動するので、足を止めるためにも、広範囲にダメージを与える魔法石、トールか星々の魔法石を用意しておこう。





エリエルの攻撃は遠距離が多い。魔界の炎やラルヴァのかみつきなどを巧みに使って近づかせてくれないのだ



魔界のサソリ召喚！急いで回避しろ



紙のはずなのに、盾になるぐらい固いラルヴァの魔導書。やっぱり魔法の力!?



すべての攻撃は、魔の書ラルヴァによるものだ。本によるかみつき攻撃、体当たり。ガードも本が開き、盾になってカバーする。そして、必殺技は、魔の書による魔法の召喚。相手を魔界の炎で燃え尽くす。また、召喚魔法によって、サソリのような魔界の生物を呼びだし、攻撃してくる

EVIL GOLGODA

――悪のゴルゴダ――

彼は騎士であった。しかし、魔の書がもたらす災いは、騎士団長を闇の世界に引きずり込んだ。そして、光の女神に守護されたヴァレンディアの女王を襲うべく悪の騎士と化した



カード騎士団を率いていた勇者が、恐るべきモンスターと化した。その破壊力は想像を絶する。そして、注目すべき点は、その攻撃スピードだ。絶え間なく繰り出される剣技は、ガードの上からもＨＰを奪い取っていく。そして、空中から放たれる離れ技により、下からえぐられ大ダメージを受ける

悪のゴルゴダに対する時は、とにかく距離をあけてはいけない。たとえ、剣の連打を受けようとも、できるだけ接近して対処するのだ。そうすれば、敵の強力な飛び道具を喰らうことがないし、こちらの攻撃をかなり高い確率でヒットさせることもできる。そして、Ｂボタンによるサイドステップで回り込み、反撃を加えるのが有効だ。そのときはダッシュ攻撃を使い、距離を詰めるようにしよう。

また、ダッシュ攻撃がヒットすれば、そのまま必殺技もヒットする可能性が高い。さらに、ゴルゴダが空中に浮いたときがチャンスだ。必殺技を使って確実に撃墜できる。しかし、ゴルゴダの高い攻撃力によって、体力の消耗も激しい。アイテムでの回復は絶対に必要なので、多めに持っておいた方がいい。



地面からニョキニョキと柱を生やす飛び道具。回避で間合いをつめてゴルゴダが落下してくるところを必殺技で撃墜しよう



盾を直接投げる技と、盾から火の玉を放つ技は、基本的に動きは同じ。十分に引きつけてから落ち着いて回避すればOKだ



NECRO SAMANSA

——ネクロサマンサ——

闇の力に取りつかれたリヨンの忠実なる下僕。魔に魅了され、その豊満なる肉体を駆使し、影の世界を駆け抜ける闇の手先…。そう、彼女の名はサマンサ。ネクロサマンサである

ネクロサマンサ攻略における最大の難点は、そのスピードにある。地上を滑るように移動し、放たれる蹴りは回避しにくく、大きなダメージを受けてしまう。

そこで、とにかくBボタンを押して、サイドステップを多用する。回り込みに成功すれば、一時的に敵の動きを止めたのと同じ効果を発揮し、高確率で攻撃をヒットさせることができる。

また、敵は動きを止めるような魔法を使ってくることはないので、パワーを増幅し、体力に任せて切り倒すのがもっとも効果的だ。

ただし、体力が低下すると、ネクロサマンサは広範囲型の魔法を放ってくる。詰めにしくじり、攻撃を受けないように注意しよう。



魔獣召喚の技は、何種類かある。骨竜の場合はダッシュで下をすり抜けるのも手だ







テレポーテーションからのキック連打が一番恐い。姿が消えたら、とりあえず回避の準備を！



次々と繰り出される彼女の攻撃には、息つく暇もないほどスピーディ。戦いの最中、突然姿を消したかと思うと、いきなり目の前に現れ、一気に攻撃をしかけてくる。蹴り技が中心だが、空中からのナイフ投げも得意技だ。さらに、魔法も扱うことができ、影法師や骨竜を召喚して攻撃してくる

RYON

――リヨン――

彼は華麗に舞い、ハチのように刺す。姿を消し攻撃を回避し、出現と共に魔界のバラ、妖花アルラウネを呼び出しダメージをあたえる。また、前方へは青白い閃光と、分裂する雷光を放ち、相手を威圧する。そして、自らの体力が100を下回ったとき、星々の王を呼び出しすべてを圧倒するのだ

高い知性と教養を持つ若き賢者が、闇の力に魅せられた。強大なる故か、絶対なる故か、なぜ彼は魔にその身を？　だが、一つだけ確かなことがある。それは、いまの彼は敵なのだ



ポイントはリヨンのHPが100時点での攻防である。まずHP100を切る直前までHPを奪っていく。

だが、リヨンに攻撃を当てるのは難しい。そこで、ダッシュ攻撃を用いて、確実にダメージを与えていく。また、ダッシュ攻撃から連撃、必殺技へつなげれば、高確率でヒットさせることができる。ただリヨンは防御力も攻撃力も高く、かなりのダメージを受けることを覚悟しておく必要がある。

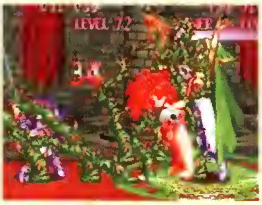
そして、HP100を切る直前になったら、まずは体力を回復する。そして、アイテムを利用して、魔法石を使い動きを止めたのち、バルカンの魔法石を撃ち込むのが効果的だ。魔法石の攻撃は当たりづらいが、出現するところを狙い、連続して使用しよう。ヒットすれば60～100のHPを減らすことができる。



おぞましい妖花アルラウネ。リヨンを守るように広範囲にわたって襲いかかるぞ



リヨンのHPが100未満になると、召喚される星々の王。大爆発を起こして大ダメージを与えてくるぞ





接近して攻撃しようとしても、すぐに消える。次に現れる場所を読んで先回りしよう

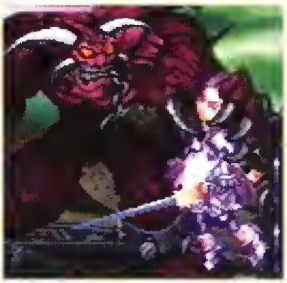
VORGRODO

——魔王ヴォーグロド——

魔界の塔に、鎖にて封じられし魔物の長、魔王ヴォーグロド。魔界の者たちは、彼を解き放つために人間界をばっこする。だが彼自身は、魔王の名にふさわしい者なのだろうか…

ヴォーグロドに対しては、魔法石を有効に使って攻撃しよう。とくにツンドラの魔法石で動きを止めたのち、バルカンの魔法石を足もとに撃ち込み、一気に体力を奪い取るのだ。ツンドラ、バルカンともに3回使用できる魔法石なら、かなり有利な展開になるはずだ。

また、ヴォーグロドは攻撃力はあるものの、動きは遅い。攻撃をヒットさせやすいので、必殺技を確実に入れていけば勝機をつかめるはずだ。あとは、回復アイテムをうまく使用していき、体力にまかせて押し切っていこう。





ヴォーグロドにつかまったらアウト！必殺のパンチが炸裂するのを待つしかない…



炸裂弾攻撃は、派手な分モーションも大きい。落ち着いて回避だ！

タックルからアッパーカット、腕の振りおろしへと続く必殺技。起き上がり攻撃で反撃しないと、あっという間にHPがなくなってしまうぞ





その強靭な肉体から繰り出される一撃一撃が、大きなダメージを奪っていく。巨大な拳でのパンチ、相手を片手につかんでからの連携、手のひらに火の玉を作り出し、相手もろとも地面へ叩きつける炸裂弾…。どの技も強力な攻撃だ。そして必殺技は、爪に魔力を集中し、一撃のもとに切り裂く…

SATAN LARVA

——悪魔王ラルヴァ——

火・風・氷・闇の属性を持つ、4本の腕が四方から襲いくる。その腕からは炎が、氷が、風が、そして魔が吹き出し、容赦なく巨大な拳が宙を切る。腕は上から押しつぶすように降りてきて、グラドリエルをけん制する。本体からはその鋭い牙を媒体に、口から発する属性攻撃が容赦なく襲いくる

光の女神と対をなし、世界を統治、支配する者…　神とも呼ばれるその存在を知る者は少なく、その姿を目にした者はいない。混沌たる世、闇なる支配。いま、闇の神が動き出す



ラルヴァの頭と4本の腕の行動パターンを読むことが勝利のカギとなるぞ。

火の属性を持つ左下腕は火炎放射、氷の属性を持つ右下腕は氷の放射、闇の属性を持つ左上腕は回転しながら迫ってくる飛び道具、風の属性を持つ右上腕は間合いを広げる突風を、それぞれ特殊攻撃として使ってくることを覚えておこう。

下腕は攻撃が当てやすいので、バルカンの魔法石を使えば楽勝だけど、上腕は上にある分、攻撃しにくい。

反撃のリスク覚悟で必殺技を叩き込むか、地道に1発ずつ攻撃していくしかないぞ。魔法石を使うなら、星々の魔法石が有効だ。

頭部の特殊攻撃で危険なのは、中央で放たれる光線と、肩から発射される飛び道具の乱れうち。とくに光線は、予備動作が短く、読みにくいので、頭部が動き出したら常に回避の準備をしておこう！





基本的に腕の攻撃は、下腕は横、上腕は上下の動きで襲ってくる

地面で爆発する強力な光線。いきなり発射されるので、回避が難しい



体を沈め、肩から奇妙な飛び道具を乱れうちする必殺技は中央で待機していれば、比較的当たりにくいぞ





あらゆる場面で
冒険者の危機を救ってくれる
様々なアイテム……。
だが、いかに優れた道具でも
必ずしも持ち主に
忠実であるとは限らない。
意思を持たぬ道具でも
使い方を間違えれば
いつだって牙をむいてくるのだ……。

Item Guide

【アイテムガイド】

How to & List

アイテムの使い方



バッグごとに、アイテムを整理しておくと便利だ



イベントアイテムは、自分で使うことはできないぞ



戦闘中に使えるのは、USEバッグに入ってる８個のみ

冒険の旅へ出発するにあたって、準備は整ったかな？　ガイドブックやお金などはもちろん必須だが、それに加えて、もっと旅を楽にしてくれるものを用意しよう。それがアイテムだ。

アイテムは大きく分けて３種類。１つは、自分自身が使うもの。２つ目は、旅のお供をしてくれる従者が使うもの（「ドロップ」）。３つ目が、イベントを発生させるために必要なもの（「イベントアイテム」）だ。この中で、もっとも数が多く種類も豊富なのが、１つ目の自分自身が使うもの。なんと100個もあるぞ！

自分で使うアイテムを２つに分けると、敵との攻撃時に使用するものと、それ以外のものとがある。攻撃時なら、敵にダメージを与えられる「魔法石」や「杖」、「投げ物」の投擲武器など。さらに、敵の攻撃を防御したりする「装備品」や、様々な活用法がある「巻き物」、自分の体を強化する「薬品」などもある。それらとは別に「食品類」や「投げ物」の種もあり、目的地への移動中で使えることはもちろん、交戦中にも使えちゃうスグレものだ。これらのアイテムをどう使いこなすかで、敵との戦闘や旅の移動もずいぶんスムーズにいくことだろう。

これらの便利なアイテムは、敵との戦いに勝てば手に入る。でも、その場合は偶然性に頼るしかなく、欲しいものが入手できないかもしれない。そんなときは、道具屋や酒場などのお店をのぞいてみるべし。目当てのものがゲットできるかもしれない。また、アイテムの中には、素材を集めることで作り替えられるものだってある。全部がそうだというわけではないけど、ぜひとも活用したい方法だ。

これらのアイテムは、できるだけ多く持っていたいところ。そんな時は、エクストラバッグが便利品だ。このバッグは旅の最中に発生するイベントで手に入れられる。１つのバッグに８個のアイテムが収納できるので、その分だけ使えるものも増えるのだ。バリエーション豊富なアイテムをそろえて、旅を楽しくしよう。

武器

大陸記録は76メートル。これは、2年前にセレスニー（ネルト）が出した「戦士の剣」遠投競技で優勝したときの記録だ。これに続けと言うわけではないが、戦闘時で投擲武器を使う場合、これくらいのパワーを見せつけてほしい。くずアイテムだって役に立つハズだ。だからといって、種を遠くへ放る必要はない。

投擲武器

※戦士の剣とばくだんは購入不可能

戦士の剣

水平に投げて、ダメージを与える。スナップを利かせなければ、うまく飛ばせないぞ



魔法の剣

水平に投げ、ダメージを与える。命中したらダウンし、アイテムを落とすこともある　16G,12G,8G



手投げオノ

放物線状に飛んでいく武器。破壊力はあるものの、どこに飛んでいくのか計算は必要　12G,8G,4G



ばくだん

地面に落下すると爆発する。ただ、爆風圏内に自分もいると、自らダメージを受けるので注意だ



聖水

地面に垂らすことで、聖なる炎が現れ、土地を這っていく。アンデッド系の敵にのみ効果がある　18G



大きなホネ

にくを全て食べ尽くし、後は犬にでも与えるしかなくなった生ゴミ。一応、敵に投げることはできる。



さかなのホネ

皮まですっかり平らげ、ホネしか残ってない、さかなの成れの果て。一応、敵に投げることはできる。



壊れたフライパン

グリルメニューの作り過ぎで、ひび割れを起こした調理道具。投げれば、かろうじて武器になる　2G



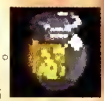
壊れた料理なべ

スープの作り過ぎが堪えて、底に大穴が開いてしまったナベ。投げれば、かろうじて武器になる　2G



空きビン

中身を使い果たしたビン。投げれば、かろうじて武器になる。手紙でも入れて海に流してもいい？ 2G



種

※ばくだん草の種は購入不可能

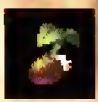
ばくだん草の種

ひとつ植えるだけで、黒くて丸い物が2つ実ってくる。すると、突然へたに火がつき、爆発するのだ



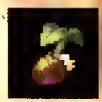
エリクシルの種

ひとつ植えるだけで、エリクシルの実が2つ実る。たちまち育つので、自給自足にはもってこい　10G



薬花草の種

ひとつ植えるだけで、かわいい花が咲く。花びらから出る香りをかぐだけで、体力が回復するぞ　16G



精花草の種

ひとつ植えるだけで、きれいな花が咲く。花びらから出る香りを嗅げば、パワーが増加するのだ　20G



装備品

ドラゴンやデーモンなど強敵とのバトルでは、並大抵の防御じゃ苦戦は必至だろう。そんな場合に役立つのが、装備のアイテムだ。時には敵から受けたダメージを和らげ、時には自分自身の攻撃力をアップしてくれる。1度に1つの装備しか着けられず、やがて壊れてしまうのが欠点だが、持っていて損はないハズだ。

グローブ

戦士のグローブ

戦士なら必携品にしたいグローブ。攻撃力を10%アップし、敵にダメージを与えやすくする　80G



オウカのグローブ

絶大なるパワーを持つ巨人オウガ。その力を取り込んだこのグローブで、攻撃力を20%アップ　84G



銀のガントレット

白銀製のガントレット。攻撃力が30%上昇し、剣さばきに鋭さと力強さがあふれるようになる　88G



金のガントレット

黄金に輝く伝説的なガントレット。敵を倒す会心の一撃を、頻繁に出せるようにしてくれる　100G



ペンダント

※魔法のペンダントは購入不可能

幸運のペンダント

平和の女神が、人々の無事を祈って思いを込めたというペンダント。敵からの攻撃を20%減少　82G



魔法のペンダント

ペンダントの宝石は、平和の女神が流した涙の結晶と言われる。敵からの攻撃を50%軽減するのだ



腕輪

※腕輪はすべて購入不可能

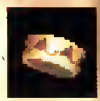
盗賊の腕輪

落ちてるものは拾わなきゃ損。ズル賢い行動力をアップして、アイテムをしゃがまずに拾おう



戦士の腕輪

往年の名戦士たちが形見として残した腕輪。ピンチの時でも、戦士の魂が防御を起こしてくれる



ブーツ

※エルフのブーツは購入不可能

エルフのブーツ

エルフの身のこなしの素早さを取り込んだブーツ。戦闘中、自動的に回避行動を起こすのだ



まばたきのブーツ

特徴は、戦闘中のスピードアップ。敵との間合いを一気につめて、瞬時に攻撃をしかけられる　92G



天使のブーツ

空を自在に飛び回る天使。その能力を持つこれは、ジャンプ力をアップし、空中戦を楽にする　94G



指輪

※錬金の指輪は購入不可能

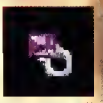
錬金の指輪

あらゆる物質を黄金に変える錬金の術。この指輪をして剣を振れば、空気を金貨にするのだ



飛行石の指輪

空中で、攻撃の幅を広げてくれる。2段ジャンプが可能になり、1ジャンプ1攻撃できるのだ　98G



やけつく指輪

〈炎属性〉の宿る指輪。氷結攻撃によるダメージは半減、火炎攻撃力によるダメージは50%増　80G



いてつく指輪

〈氷結性〉の宿る指輪。火炎攻撃力によるダメージは半減、氷結攻撃力によるダメージは50%増　80G



盾

※火ふき竜の盾と冷ややかな目の盾は購入不可能

するどいトゲの盾

敵からの攻撃を防御できるのもちろんのこと、カウンターとして中レベルの攻撃波も発生する　104G



冷ややかな目の盾

敵を凍らせるような、不気味な目を施した盾。防御時に〈氷結性〉の小レベル攻撃波を起こす　108G



火ふき竜の盾

敵にも恐れられるドラゴンの顔を施した盾。防御時に〈火炎性〉の大レベル攻撃波を起こす





あなたの装備は呪われていませんか？　もし、呪われていたとしたら、大変ですよ。通常とはまったく逆の効果になりますからね。あ、申し遅れました。私は、占い師をしている者です。名前は聞かないで下さいね。

それでは話の続きですが、呪いがかかっていることは装備をつけてみないとわからないのです。でも、モンスターとの戦いに一度でも勝てば、呪いは解けますので、頑張って下さいませ。

★戦士のグローブ
攻撃力が10%減少する。ほんの少しだけ力が弱くなるけど、そんなに気にならないぞ。

★オウガのグローブ
攻撃力が20%減少する。攻撃がきれいに決まっても、何となく手ごたえが感じられない。

★銀のガントレット
攻撃力が30%減少する。キャラクターのパワーが別人のように弱くなってしまうぞ。

★金のガントレット
必殺技が出せなくなる。攻撃力が減らないとはいえ、かなり不利な戦いになることは間違いないぞ。

★幸運のペンダント
ダメージが20%増加する。低レベルの敵でも、必殺技などで思わぬ大ダメージを受けるので注意！

★魔法のペンダント
ダメージが50%増加する。すべての攻撃が、そのまま致命傷になりかねない程、厳しいハンデだ。

★エルフのブーツ
回避行動ができなくなる。普段から回避行動を多用している人には、とてもつらいぞ。

★まばたきのブーツ
戦闘中の移動スピードが遅くなる。あまりの遅さにイライラして無茶な戦いをしないように！

★天使のブーツ
ジャンプ力が極端に減少する上、ジャンプ攻撃ができなくなってしまう。

★練金の指輪
剣を振るたびに、0～3ゴールドの金貨を失う。金額は小さいけど、チリも積もれば…。

★飛行石の指輪
まったくジャンプができなくなる。上空の敵を攻撃できないので、下手をすると、やられ放題だぞ。

★やけつく指輪
炎によるダメージを100%、氷によるダメージを50%増加させてしまう。

★いてつく指輪
氷によるダメージを100%、炎によるダメージを50%増加させてしまう。

★するどいトゲの盾
ガード時に、攻撃波を喰らう。防御は回避のみに頼って、ひたすらガードを封印するしかない。

★冷ややかな目の盾
ガード時に、氷結波を喰らう。ガードは厳禁。さもないと、ガードと同時に自分が凍ってしまうぞ。

★火ふき竜の盾
ガード時に火炎波を喰らう。これもガード禁止。身を守るどころか、黒コゲになってしまうからね。

★盗賊の腕輪
アイテムが拾えなくなる。当然、回復アイテムも使えない。HPがあるうちに勝負をかけよう。

★戦士の腕輪
ガード不能となってしまう。回避が使いこなせないと、攻撃されっぱなしになってしまうぞ！

食料品

旅をする上での必携アイテム。それは食べ物だろう。お腹がすいては移動もたいへんだし、もしそんな状態で敵と遭遇してしまったら、まともに戦うことだって苦しいハズ。各地の名産品を食べ歩きしてもいいし、自給自足でも構わない。栄養のあるものをお腹いっぱいしっかりととって、体力と元気を回復させよう。

グリルメニュー

√おべんとパン



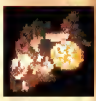
体力を40%回復するパンに、体力を50%回復するドードーのたまごの目玉焼きをのせてある。 40G

√やきもろこし



焦げ目のあるコーンに、滴るしょっぱめのたれが食欲を倍増。芳しい香りと味に体力は50%回復 44G

√ やきざかな



釣りたての魚を火であぶってある。お好みで、塩やレモン汁をかけてもいい。体力は60%回復 48G

√ グリルにく



パワーの源、それは肉。タンパク質の塊なだけなのに、途端に力を漲らせる。体力を70%回復 52G

√ドラゴンステーキ



グリルにくの中でも最高級品がこれ。ドラゴンの肉なだけあり、体力を90%回復してくれるぞ 56G

スープ

√たまごスープ



ドードーのたまごを溶いた、あっさり味のスープ。体力40%回復し、パワーを最大まで増加だ

√ コーンスープ



とろりスープにコーンを溶かし、まろやか味にしてある。体力を50%回復、パワーは最大増加

※にくだんごスープのみ店で購入可能

√さかなのスープ



魚を骨ごとぶつ切りにして煮込んだスープだ。体力は60%回復し、パワーを最大まで増加する

√にくだんごスープ



ひきにくから作ったにくだんごをスープに落としてある。体力を70%回復、パワーは最大増加 92G

√ドラゴンスープ



一口飲めば、体の限界を忘れてしまう最強スープ。体力90%回復させ、パワーを最大に増加だ

果実&キノコ (山菜)

√ ハートの実



森の樹々に実るハート型の果実。もっとも入手が簡単な食べ物。かじれば、体力が回復するぞ 10G

√ エリクシルの実



ハートの実よりは、やや珍しいマイナーな果実。だが、体力の回復具合はこちらが上まわるぞ 20G

※ユグドラシルの実は店で売っていない

ユグドラシルの実



果実の中では最高級品で、王様とも呼ばれる。体力は完全に回復し、パワーも大分増加される

√魔法のキノコ



このキノコの毒にあたると大変だ。あっという間に頭が冴えて、体がキレまくり、パワー炸裂だ 14G

食材

※食材は店では購入不可能

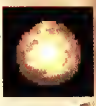
とうもろこし

もっともポピュラーな穀物、とうもろこし。「やきもろこし」「コーンスープ」の食材になるぞ



トードーのたまご

あらゆる栄養を含んだトードーのたまご。「おべんとパン」「たまごスープ」の食材になるのだ



さかな

広大な海を泳ぎ回る活きのよさが売りのさかな。「やきざかな」「さかなのスープ」の食材に



なまにく

骨のまわりがにくの旨味。うまく調理して「グリルにく」「にくだんごスープ」を作りあげよう



ドラゴンのにく

ドラゴンのにくは貴重品。「ドラゴンステーキ」「ドラゴンスープ」はじっくりと味わいたい



調味料

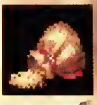
料理のスパイス

グリルメニューを作るときには、絶対に必要だ。ただし、香辛料のかけすぎには注意　10G,7G,4G



スープのもと

スープを作るには、煮込むだけではダメなのだ。スープのもとを忘れずに加えるべし　10G,7G,4G



料理道具

フライパン

これで調理できないものはないというスグレものの料理道具。ただ、使用回数は3回＋α　40G



料理なべ

スープ作りなら料理なべ。スープの食器にもなるが、連続では使えない。使用回数は3回＋α　40G



おやつセット？

しぼりたてミルク

栄養は満点、成長を促進、力の根源はたっぷり太った山羊から。濃い目な味わいがパワー増加　24G



√果物のケーキ

ふんわりスポンジケーキの上に、果物があふれんばかりに添えてある。糖分補給で体力を回復　16G



特大ハンバーガー

ホットドッグに並ぶファーストフードの帝王、ハンバーガー。手軽に食べられて体力を回復する　24G



ゴブリンジュース

ナマイキなゴブリンが製造元。パワーは最大に増加するが、体力が半減するマヌケなジュース　26G





体力の回復には欠かすことのできない食料品。でき上がった料理を手に入れる方法はいろいろあるけど、やっぱり自分で作るのが一番理想的だ。何しろ安上がりだしね。

自分で料理するには、3種類のアイテムが必要になる。

まず、当然のことながら食材。次に味付けに必要な料理のスパイスかスープのもと。そして、調理道具のフライパンまたは料理なべだ。

自分で作るのが面倒だという人は、食材だけを持って町の酒場へ行こう。お金がかかるけど、プロの腕で料理してもらえるぞ。

巻物

旅の途中でよく目にする、巻き物のアイテム。紙に書かれた堅苦しい字に嫌気がさすとか言って、道端に捨ててしまうのはナンセンスだ。巻き物に書かれた呪文は、様々な情況で威力を発揮する。敵に直接攻撃できるものもあれば、装備を強化できる呪文があったり、瞬間移動ができる呪文もあったりするのだ。

攻撃系

※大地震の呪文は購入不可能

大地震の呪文

戦闘エリアに大地震を起こさせる、大がかりな呪文。時間を止め、敵の頭上に岩を落とさせる



神聖なる紋章

神の意志を表す紋章を、巻物にプリントしてある。アンデッド系の敵に大ダメージを与える　100G



攻撃補助系

※雷神剣と錬金術の呪文は購入不可能

メッキの呪文

体を石に変え、身動きを取れなくしてしまう石化光線。この呪文はその光線を無効化する　100G



魔炎剣の呪文

手持ちの剣に〈炎属性〉の力を宿してくれる呪文だ。30秒間攻撃力が10%アップしてくれるぞ　48G



雷神剣の呪文

手持ちの剣に〈雷属性〉の力を宿してくれる呪文だ。30秒間、攻撃力が15%アップしてくれる



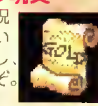
分身の呪文

敵への攻撃を単純に2倍する呪文。有効時間は20秒。左右に分身し、敵をひたすら攻撃すべし　56G



錬金術の呪文

敵を金塊に変える呪文。身動きとれない相手を攻撃できるし、金貨も削り取れるぞ。有効時間は10秒間



アイテム強化系

※識別の呪文は購入不可能

ゴム化の呪文

装備の耐久性が心配なら、この呪文を使えばいい。盾以外の装備に有効で、戦闘中のみ壊れず　40G



識別の呪文

つけてみないと分からない装備品にかけられた呪いの有無を識別する呪文。使用回数は3＋α



呪い破りの呪文

呪いをかけられているが、装備は着用したい。そんなときは、この呪文で呪いを解けばいいのだ　40G



装備強化の呪文

装備品の耐久性を1アップさせてくれる。呪われた装備品に使用すると、呪いを知らせてくれる　30G



復元の呪文

食べ物や薬、調味料など消費したアイテムを復元してくれる。だが、使いきったモノには不可能　50G



移動系

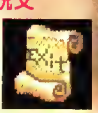
振り返りの呪文

ステータス維持のまま最後のセーブ地点へ戻れる呪文。だが、体験したイベントの記憶は消える　54G



非常口の呪文

光も射さない、迷路のようなダンジョン。この呪文なら、そんな所から1秒でも早く抜け出せる　60G



薬品

敵との交戦中で苦しい情況になったとき、お手軽に体をパワーアップしたい。そんな欲求に応えるアイテムが薬品だ。薬屋のある町もあるので、旅の途中で簡単に手に入れられる。5種類と数こそ少ないものの、それぞれ用途ははっきりしていて使いやすい。ただし、薬の効く時間が限られているので、そこは注意だ。

薬

※力持ちの薬1のみ店で購入可能
薬屋で調合する場合の料金は一律20G

無敵の薬

敵の攻撃をまったく受けつけなくてすむ夢の薬。ただ、アイテムが取れないのが欠点。効果は20秒



やせ我慢の薬

無敵のようにふるまえる薬だ。効果は20秒間。効果中に重ね飲みすると副作用があるので注意



おなかの薬

敵との戦闘中、食べ物を食べるスピードが加速できる。効果は30秒。効果中の重ね飲みは厳禁



力持ちの薬

確実に敵を倒す時は、攻撃力が50%UPするこの薬が1番。30秒の効果中に重ね飲みすると自爆



打たれづよさの薬

激しい敵からの攻撃を、50%やわらげてくれる。30秒の効果中の重ね飲みは自分にダメージ

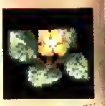


薬草

※葉のまるい草はプロセルピナの章でのみ購入可能

葉のまるい草

もっともありふれた薬草で、その分、手に入れやすい。弱いモンスターがよく持っているようだ 6G



葉がギザギザの草

葉がギザギザで、トゲだらけのように見えるのが特徴。中レベルのモンスターがよく持っている



葉がとがった草

それぞれの葉が、鋭利なナイフみたいにとがっている。かなり手強いモンスターの常備品らしい



ムシの粉

3種の薬草から薬を作る際に、この粉を混ぜ合わせることで、より効能の高い薬ができあがるぞ





モンスターの落とし物などでよく見かける3種類の薬草。これらを調合することによって、薬を作ることができるのだ。

でも、薬の調合は料理のように自分で作るというわけにはいかない。

この世界で、薬の調合ができるのは町の薬屋だけ。必要な薬草を薬屋に持っていけば、どの薬も20Gで調合してくれる。

それぞれの薬を作るときに必要な薬草が決まっているぞ。無敵の薬はムシの粉と葉がとがった草、やせ我慢の薬はムシの粉と葉がギザギザの草、おなかの薬は葉がまるい草、力持ちの薬は葉がギザギザの草、打たれ強さの薬はムシの粉と葉がまるい草、となっている。覚えておくと便利だよ。

ドロップ

敵との戦闘中、ただひたすら情況を見守ってくれる旅の従者。こっちが苦しい思いで戦っているのだから、少しくらい手伝ってほしい。戦闘が苦しければ苦しいほど、そんなことも考えてしまうだろう。そんなときは、従者にドロップをあげよう。すると、従者に新たな機能が備わり、戦闘にだって加勢してくれるぞ。

攻撃系

バトルドロップ

戦闘中、敵に体当たりをしかけて攻撃してくれる。ご主人のピンチに、体をはって助けてくれるのだ



アタックドロップ

戦闘中、敵に対して連続攻撃をしてくれる。時には上から、時には左右から、神出鬼没に加勢するぞ



ユニットドロップ

戦闘中、多くの仲間を呼び寄せて、敵を攻撃してくれる。助けてくれる仲間が大勢いて、感動モノだ



- **バトルドロップ**
 フェアリーウッドの妖精がくれる。
- **アタックドロップ**
 ガドゥバドゥ魔術師エリアの魔法学校にいる学生がくれる。
- **ユニットドロップ**
 ガドゥバドゥの戦士の長と魔術師の長がくれる。

攻撃補助系

カインドドロップ

戦闘中に、エリクシルの実を運んでくれる。体力が減り、食べ物もないときは、ウレしい差し入れだ



トラストドロップ

戦闘中に、残り1回分の薬を運んでくれる。薬の種類はランダムだが、役立たないものはないハズだ



キュアドロップ

戦闘中、体力を消費してしまったとき、わざわざ食べ物を補給しなくても、魔法で回復させてくれる



- **カインドドロップ**
 南東の洞窟にいるタランチュラが持っている。
- **トラストドロップ**
 ヴァレナディン城の地下迷宮にいるグールが持っている。
- **キュアドロップ**
 ヴァレナディン城下町にいる吟遊詩人がくれる。

ヘルプ

ノーティスドロップ

道の先に、どんなモンスターが潜んでいるのか教えてくれる。あらかじめ、アイテムが準備できるぞ



リムーブドロップ

旅の途中、呪われたアイテムを装備してしまったら、そのことを知らせて、やさしく外してくれるぞ



- **ノーティスドロップ**
 ローグローブの南東の塔にいるグリフォンが持っている。
- **リムーブドロップ**
 最後の酒場の店員がくれる。

杖

魔法のステッキは持ってるかな？　一般には、杖と呼ばれるアイテムで、敵との戦闘中、攻撃や防御に大活躍するものだ。杖は５種類で、先端についた宝玉により、それぞれ機能が異なっている。ただ、１回の戦闘で使えるのは２度まで。２度目には、宝玉が砕け、杖は壊れてしまうので、使うときは覚悟が必要だ。

魔女の杖

ボス以外のモンスターなら小動物に変えることができる。レベルの低い敵ほどかかりやすい　132G



魔導師の杖

「戦士の剣」を3本、水平発射できる。敵への攻撃に使うのもいいし、牽制に使ってもいいぞ　120G



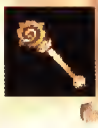
呪術師の杖

敵のガードと回避をしばらくの間、不能にできる。その間に徹底攻撃で、ダメージを与えよう　98G



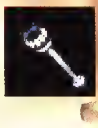
風神の杖

突風を起こして、敵との間合いを広げられる。手強い相手に追いつめられたときなど、有効だ　88G



ゴブリンの杖

これを使ってゴブリンを召喚する。相手を転ばした上、アイテムまで落とさせることができる　96G





ドロップは、従者に新たな能力を与えてくれる、とても貴重なアイテムだ。

でも、中には見つけるのに複雑なイベントをこなさなくてはならないドロップもあるので、苦労している人が多いと思う。そんな人のために、特に複雑な４つのドロップの入手方法を教えちゃうぞ！

アタックドロップ

まず、カドゥバドゥで盗賊団ドンファンのイベントが発生していることが、このドロップを入手する絶対条件だ。ドンファンを倒すと手に入る、かたみの指輪をカドゥバドゥ魔術師エリアにいる魔法学校の生徒に渡そう。生徒からアタックドロップがもらえるぞ。

ユニットドロップ

物語の進行が、ヴァレナディン城にグリフォンが攻め込んでくるシナリオより後であることが条件。カドゥバドゥの戦士エリアへ行き、戦士のダンジョンをクリアする。その後、魔術師エリアに行って、魔術師のダンジョンをクリアするのだ。すると、戦士の長と魔術師の長からユニットドロップがもらえる。

ノーティスドロップ

物語後半で、ハインデルにバルカンの魔法石を渡して、ローグローブの南東にある塔の情報を聞いた後、その塔にいるグリフォンを倒す。

リムーブドロップ

まず、世界各地の名物料理を全部買おう。すると、ヴォルガ城下町でこわれた剣のイベントが発生する。このイベントをクリアすることで、最後の酒場に行けるようになるのだ。最後の酒場の名物料理のドラゴンステーキを買ってから、もう一度店員のおばあさんに話しかける。

魔法

魔法石っていうのは、便利なアイテムだ。石を掲げるだけで、何もない空から雷が落ちたりするんだから。それで敵にみごと命中すれば、大ダメージを与えて瞬時に戦闘を終わらせることもできる。でも、それはきちんと命中すればの話。当たらなかったら、貴重なアイテムを無駄に消費して、笑うに笑えなくなるぞ。

バルカンの魔法石

〈炎属性〉の力を宿す魔法石。紅蓮の炎に包まれた火球が、敵に向かって襲いかかってくる　100G



トールの魔法石

〈雷属性〉の力を宿す魔法石。空を雷雲で覆いつくした後、稲妻を敵の頭上に落としまくる　104G



ゴルゴンの魔法石

〈魔の属性〉の力を宿す魔法石。石から放たれる光線が敵に向かって延び、体を石化させる　108G



ツンドラの魔法石

〈氷属性〉の力を宿す魔法石。空中の水蒸気から作った氷の刃を放ち、敵をフリーズさせる　112G



星々の魔法石

〈魔の属性〉の力を宿す魔法石。宇宙に浮かぶ小惑星を呼び寄せ、隕石として敵にぶつける　116G



聖なる魔法石

〈聖の属性〉の力を宿す魔法石。聖なる光の矢を放ち、アンデッド系の敵に対してのみ効果大　120G



宝石

※ルビー以外は購入不可能

ルビー

紅に輝く宝石。「バルカンの魔法石」の原石でもある。その鮮血を思わせる光に、心が燃えるぞ　60G



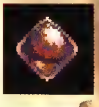
アメジスト

紫水晶。「トールの魔法石」の原石でもある。その紫の光から艶かしい妖気が出ているようだ



オニキス

有機的な匂いのする縞瑪瑙。「ゴルゴンの魔法石」の原石でもある。鈍い光に吸い込まれそう



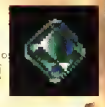
サファイア

蒼く輝く宝石。「ツンドラの魔法石」の原石でもある。大空と大海原を連想させ、心を広くする



エメラルド

緑色に輝く宝石。疲れた心に安らぎを与える森林を思わせる。「星々の魔法石」の原石でもある



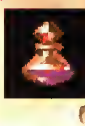
ダイヤモンド

言わずと知れた宝石中の宝石。眩い光に全てが包まれそうだ。「聖なる魔法石」の原石でもある



マナのしずく

「宝石」を「魔法石」に変えてくれる魔法の液体。また、魔法石の使用回数を最大まで回復する　50G





この世界にある魔法石のほとんどが、ドワーフたちの手で作られたものだということを知っているかな？そもそもドワーフたちは、宝石を発掘して魔法石を作り、それを売って生活しているのだ。ドワーフの国に行けば、最高級の魔法石を買うことができるよ。

イベントアイテム

旅を続けて、もっと先へ進みたい。でも進めない。そんな場合は、イベントアイテムと呼ばれるものがないんじゃないかな。このアイテムは自分が直接使えるものじゃないけど、ストーリーを展開していく上で、カギの役目を果たしてくれる。特定の場所にしかないのがミソだけど、それだけ価値あるアイテムなのだ。

魔法石

大地の魔法石

生きる者を支える大地。そこから生まれた魔法石だ。触れるだけで、広大な大陸を制した気分になる。



時空の魔法石

過去から未来へ、目に見えず、常に動き続けている時間。その時間から生まれたのが、この魔法石だ。



太陽の魔法石

恐ろしいほどのエネルギーを光として放出する太陽。その太陽を母に、この魔法石が生まれたてきた。



海の魔法石

生物にとって欠かすことのできない水。その貴重な水を豊富に蓄える海から、この魔法石は生まれた。



楽譜

女神の楽譜

音楽の女神が創り出した、数々の美しい名曲が収められている。幻の楽譜と言われ、吟遊詩人の羨望の的となっている。

楽譜の切れはし1

破られた女神の楽譜のひとかけら。ここには、神々の壮麗な生活をイメージした曲が収められている。



楽譜の切れはし2

破られた女神の楽譜のひとかけら。ここには、荒々しく創られる大地をイメージした曲が入っている。



楽譜の切れはし3

破られた女神の楽譜のひとかけら。ここには、たゆまずに流れる悠久な時間をイメージした曲がある。



盗品？

いにしえのカギ

「封印のほこら」を開けられる鍵。かなり古く、錆びついてもいるので、折らないように注意しよう。



かたみの指輪

カドゥ・パドゥにある魔法学校の学生が持っている指輪。彼にとって、かけがえのない宝物だという。



こわれた剣

ヴォルガ城下町に住む若者の思い出の剣。昔はそれで、ちゃんばらごっこをして遊んでいたらしいぞ。





デザイン　Suzuna Art Works	阿部たみ子
編　集	鳴澤　猛司 相原　　玲 佐竹　伸愛 菅沼　太郎 滝口　真希
イラスト	比内鳥実芳
カバーデザイン	田中　保次

発行	株式会社二見書房 東京都文京区音羽1-21-11 TEL.03（3942）2311
制作	株式会社フタミ企画 東京都千代田区三崎町2-18-6 TEL.06（3263）2301
印刷	株式会社ルナテック（キャロット）
製本	ナショナル製本

© SEGA ENTERPRISES, LTD. & ATLUS 1997

ISBN4-546-97181-6



©SEGA ENTERPRISES, LTD. & ATLUS 1997
●SEGA、セガサターン、SEGASATURNは、(株)セガ・エンタープライゼズの商標です。

二見の
裏ワザ大全集

完全攻略ワザを満載！見やすく、わかりやすく、面白い攻略本の決定版！









1998年　3月　5日　初版発行

発行　株式会社　二見書房

東京都文京区音羽1-21-11
TEL03(3942)2311番／FAX03(3946)2301
振替　00170-4-2639

ISBN4-576-97181-6

C0076 ¥1280E

9784576971810

1920076012808

定価：本体1280円＋税



四人の主人公たちの物語の背景やイベントをあますところなく網羅！　敵モンスター攻略、城・塔・ダンジョンのマップ、アイテムの使い方も完璧にわかる、冒険の旅に必携の一冊！

©SEGA ENTERPRISES, LTD. & ATLUS 1997
●SEGA、セガサターン、SEGA SATURNは、(株)セガ・エンタープライゼスの商標です。
●ゲーム内容に関するお問い合わせには、いっさいお答えできません。

★無断転載を禁ず